

2022

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部
助産学専攻科



看護学部

看護学科

2022年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

看護学部

看護学部の教育方針（2022年度以降入学生）	4
看護学部の教育方針（2017～2021年度入学生）	7
シラバスについて	10
2022年度 学年暦	11
卒業要件	12
実務家教員一覧（2022年度以降入学生）	13
実務家教員一覧（2017～2021年度入学生）	14
教育課程（2022年度以降入学生）	18
教育課程（2019～2021年度入学生）	20
教育課程（2017～2018年度入学生）	22
2022年度授業科目・担当者一覧表（2022年度以降入学生）	24
2022年度授業科目・担当者一覧表（2017～2021年度入学生）	25
授業科目（2022年度以降入学生）	27
I 基礎分野	29
II 専門基礎分野	59
III 専門分野	73
授業科目（2017～2021年度入学生）	81
I 基礎分野	83
II 専門基礎分野	101
III 専門分野	115
IV 専門分野（臨地実習科目）	161

看護学部教育方針（2022年度以降入学生）

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

以下の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護とアート」「看護の基礎」「看護の発展」「看護の実践」「看護の統合」に分類する。「看護とアート」では、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。「看護の基礎」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護の発展」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の実践」では、9領域の看護学実習科目を配置する。「看護の統合」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

- ・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

- ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

- ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

看護学部の教育方針（2017～2021年度以降入学生）

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

宝塚大学看護学部看護学科は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力、資質を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

- ・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力

- ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

- ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。（大学設置基準第21条）

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。

「StudentGuide Book 2022」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2022年4月1日

宝塚大学
看護学部

2022(令和4)年度 学年暦

宝塚大学 看護学部
【大阪梅田キャンパス】

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
2022年4月						1	2	4/1～6 新入生ガイダンス期間 4/2 入学式	10月							1	10/1～4 履修登録修正期間 臨地実習(9月～3月)3年次生
	3	4	5	6	7	8	9	4/5 前期履修届提出締切日 4/7 前期授業開始		2	3	4	5	6	7	8	10/10 平常授業実施
	10	11	12	13	14	15	16	4/14～4/15 履修登録修正期間		9	10	11	12	13	14	15	
	17	18	19	20	21	22	23			16	17	18	19	20	21	22	
	24	25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29	
5月									11月								
	1	(2)	3	4	5	6	7	5/2 5/23の創立記念日の振替				1	2	3	4	5	11/3 平常授業実施
	8	9	10	11	12	13	14	臨地実習(5月～7月)4年次生		6	7	8	9	10	11	12	11/23 平常授業実施
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	27	28	5/23 創立記念日		20	21	22	23	24	25	26	
6月									12月								
				1	2	3	4							1	2	3	12/27 補講日 年末年始休業(12/28～1/5)
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	
7月	26	27	28	29	30					25	26	27	(28)	(29)	(30)	(31)	
	30								2023年1月								
						1	2	総合実習(7/4～8/12のうち2週間)4年次生		1	(2)	(3)	(4)	(5)	6	7	1/14 補講日 1/19 後期授業終了 1/20・21 補講日及び4年次生後期定期試験 1/23～1/28 後期定期試験 1/30 4年次生 後期追・再試験
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16	7/18 平常授業実施 7/23 補講日		15	16	17	18	19	20	21	
8月	17	18	19	20	21	22	23	7/27 前期授業終了 7/28 補講日		22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30	7/29～8/4 前期定期試験		29	30	31					
	31																
									2月				1	2	3	4	2/13～2/17 1・2年次生 後期追・再試験 基礎看護学実習Ⅱ(2/20～3/17のうち2週間)2年次生
										5	6	7	8	9	10	11	
	7	8	9	10	11	(12)	(13)	夏季休業(8/11～16)		12	13	14	15	16	17	18	
	14	(15)	(16)	17	18	19	20	8/18～8/23 前期追・再試験		19	20	21	22	23	24	25	
	21	22	23	24	25	26	27	基礎看護学実習Ⅰ(8/22～9/9のうち1週間)1年次生		26	27	28					
9月									3月								3/11 学位記授与式(予定) 次年度ガイダンス及び健康診断 (3/13～31の間のいずれかに設定予定)
					1	2	3						1	2	3	4	
	4	5	6	7	8	9	10			5	6	7	8	9	10	11	
	11	12	13	14	15	16	17	9/17～19 宝翔祭期間(予定) うち1日宝翔祭(予定)		12	13	14	15	16	17	18	
	18	19	20	21	22	23	24	9/22 9月卒業生学位記授与式(予定) 後期ガイダンス		19	20	21	22	23	24	25	
	25	26	27	28	29	30		後期履修届提出締切日 後期授業開始		26	27	28	29	30	31		

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

	... 授業日	印	... 祝日(平常授業実施日)
	... 定期試験	印	... 日曜・祝日(休業日)
		()	... 大学施設閉館日

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部

看護学科

2022年度以降入学生

基礎分野	27単位	以上
専門基礎分野	30単位	以上
専門分野	71単位	以上
計	128単位	以上

2017～2021年度入学生

基礎分野	28単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専門分野	71単位	以上
計	128単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式		科目番号（連番）
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	1=必修 2=選択必修 3=選択	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習	01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他（上記1～5に当てはまらないアクティブラーニング）

実務家教員一覧（2022年度以降入学生）

担当教員	専任／ 非常勤	2022授業科目	科目ナンバ	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
澤田 京子	専任	基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	必修	2	60	総合病院で看護師として内科と外科での臨床経験がある。また、企業の健康管理室での健康教育に携わった。	臨床での事例を踏まえて、看護の役割・機能を教授する。また事例を用いて主な理論の活用についても教授する。
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	必修	2	60		
北島 洋子	専任	基礎看護学概論	KSP11101	必修	2	30	大学病院で看護師として小児科病棟に勤務し、血液疾患や悪性疾患の看護に携わった。また、腎泌尿器専門病院に勤務し、人工透析や糖尿病の看護を経験した。	小児期から成人期、老年期にわたる各発達段階に応じた看護を提供するための、基礎的な知識と技術、看護専門職としての基盤となる考え方を修得するための学習を支援する。
		看護理論	KSP11102	必修	1	15		
		看護コミュニケーション論	KSP11202	必修	1	30		
		基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	必修	2	60		
平野 加代子	専任	基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	必修	2	60	総合病院で看護師として急性期病棟(外科、内科、小児科、脳神経系)、助産師として産婦人科外来、産科病棟での臨床経験がある。また、看護学生の実習指導にも携わっていた。	臨床での事例を踏まえて基礎看護技術を教授する。また臨床で日常的に行われているフィジカルアセスメント・看護過程の展開や事例提供を行い、より臨床に近い状況を想定した授業内容を教授する。
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	必修	2	60		
梅川 奈々	専任	基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	必修	2	60	看護師として、総合病院の脳神経外科、整形外科、産婦人科等での臨床経験がある。	実践で使える技術の習得に向けて、根拠をふまえた基礎知識、技術について説明を行い、デモンストレーションにも力を入れている。看護過程の展開の為に必要なスキルの基礎を教授する。
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	必修	2	60		
瀬山 由美子	専任	基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	必修	2	60	総合病院で看護師として脳外科、内科、手術部、救命救急の臨床経験がある。また、内科、腎泌尿器科の診療所で内視鏡検査の看護を経験した。	疾患の重症度や発達段階にあわせた看護を提供するために必要な基本的な知識と技術の習得を支援する。命の尊厳と心の尊重を基軸として安全で安楽な看護の修得を支援する。
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	必修	2	60		

実務家教員一覧（2017年度～2021年度入学生）

担当教員	専任／ 非常勤	2022授業科目	科目ナンバ	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
澤田 京子	専任	基礎看護学Ⅵ （看護過程）	KSP21203	必修	1	30	総合病院で看護師として内科 と外科での臨床経験がある。 また、企業の健康管理室での 健康教育に携わった。	臨床での事例を踏まえて、看 護の役割・機能を教授する。 また事例を用いて主な理論の 活用についても教授する。
		看護教育学	KSP42101	選択	1	15		
北島 洋子	専任	基礎看護学Ⅰ （概論）	KSP11101	必修	1	30	大学病院で看護師として小児 科病棟に勤務し、血液疾患 や悪性疾患の看護に携わった。 また、腎泌尿器専門病院 に勤務し、人工透析や糖尿 病の看護を経験した。	小児期から成人期、老年期に わたる各発達段階に応じた看 護を提供するための、基礎的 な知識と技術、看護専門職と しての基盤となる考え方を修 得するための学習を支援する。
		基礎看護学Ⅱ （コミュニケーション論）	KSP11201	必修	1	30		
牧野 裕子	専任	基礎看護学Ⅲ （健康教育）	KSP21201	必修	1	30	大学病院および公立病院看 護師として、心臓血管外科、 消化器外科、精神科看護の 臨床経験がある。また、保健 師として企業健康管理室にて 従業員と家族に対する健康 教育に携わってきた。	公衆衛生看護学の概要と、健 康の概念および行動変容を 促すために用いられる理論、 健康教育の実際について教 授する。
平野 加代子	専任	基礎看護学Ⅳ-1 （基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30	総合病院で看護師として急性 期病棟(外科、内科、小児科、 脳神経系)、助産師として産 婦人科外来、産科病棟での 臨床経験がある。また、看護 学生の実習指導にも携わっ ていた。	臨床での事例を踏まえて基 礎看護技術を教授する。また 臨床で日常的に行われている フィジカルアセスメント・看護 過程の展開や事例提供を行 い、より臨床に近い状況を想 定した授業内容を教授する。
		基礎看護学Ⅳ-2 （基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅵ （看護過程）	KSP21203	必修	1	30		
梅川 奈々	専任	基礎看護学Ⅴ （フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30	看護師として、総合病院の脳 神経外科、整形外科、産婦人 科等での臨床経験がある。	実践で使える技術の習得に 向けて、根拠をふまえた基礎 知識、技術について説明を行 いつつ、デモンストレーション にも力を入れている。看護過 程の展開の為に必要なスキ ルの基礎を教授する。
瀬山 由美子	専任	基礎看護学Ⅳ-1 （基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30	総合病院で看護師として脳外 科、内科、手術部、救命救急 の臨床経験がある。また、内 科、腎泌尿器科の診療所で 内視鏡検査の看護を経験し た。	疾患の重症度や発達段階に あわせた看護を提供するため に必要な基本的な知識と技 術の習得を支援する。命の尊 厳と心の尊重を基軸として安 全で安楽な看護の修得を支 援する。
		基礎看護学Ⅳ-2 （基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ （フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30		
中川 ひろみ	専任	成人看護学Ⅰ （概論）	KSP11102	必修	1	30	大学病院で看護師、認定看 護師、看護師長として内科と 外科、集中治療室・救急部で の臨床経験がある。成人期に ある人々を対象とした看護実 践と教育、指導、研究に携 わってきた。	健康障害を持つ急性期、慢 性期、終末期にある成人期の 人々への看護について、臨 床での事例を踏まえて、問題 解決のために必要な概念や 理論を用いて、看護のポイン トを教授する。
		成人看護学Ⅱ （急性期・回復期援助論）	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学Ⅲ （慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ （援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		
房間 美恵	専任	成人看護学Ⅰ （概論）	KSP11102	必修	1	30	総合病院で看護師、看護師 長として腎臓内科や免疫内 科、内分泌内科、呼吸器内 科、泌尿器科などの臨床経 験があり、看護学生の実習指 導に携わってきた。	実臨床での具体的な事例を もとに、慢性の“病い”をかか えて生きる人々がもつ課題を 理解し、問題解決への取り組 みができるよう看護理論を踏 まえながら解説を行う。
		成人看護学Ⅱ （急性期・回復期援助論）	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学Ⅲ （慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		

担当教員	専任／ 非常勤	2022授業科目	科目ナンバ	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
國松 秀美	専任	成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	KSP21204	必修	2	60	総合病院で看護師、認定看護師、看護師長として、循環器・呼吸器内科・救命救急センター・集中治療室での臨床経験がある。シミュレーションを用いたスタッフ教育を実践してきた。また、新人看護師専任師長として、新人看護師教育に携わっている。	健康障害を持つ人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、患者の気がかりを中心とした情報を解釈・分析し、科学的根拠に基づいた看護が実践できるよう教授する。
		成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60		
浅井 直子	専任	成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	KSP21204	必修	2	60	看護師として医療型障害児入所施設にて、呼吸器内科の臨床経験がある。、呼吸療法認定師として、スタッフ教育に携わってきた。	臨床での経験をもとに、呼吸ケアの知識や技術についての学習支援を促す。
		成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60		
前中 夕紀	専任	成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	KSP21204	必修	2	60	看護師として、総合病院の手術室、救命救急センター等の臨床経験がある。	臨床での実践経験をもとに、周手術期看護など急性期看護を中心に根拠に基づいた看護が行えるよう教授する。
		成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60		
加藤 泰子	専任	老年看護学Ⅰ (概論)	KSP21101	必修	1	30	公立病院の消化器外科、泌尿器科、循環器科、救急重症病棟において、看護師として臨床経験を積んだ。小児～成人期、老年期の人々への看護を実践したが、その中でも特に、老年期にある人々の急性期～終末期に携わった。	入院・手術・治療などが高齢者の心身に与える影響について、臨床での事例を示しながら、学生がより高齢者の特徴を理解できるよう教授する。また、老いや病気への思い、生活の困りごとなどについて、高齢者、認知症のある高齢者の実際の言葉を紹介しながら、リアリティが感じられる講義を展開する。
		老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	KSP21102	必修	1	15		
		老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	KSP31201	必修	1	30		
高橋 みどり	専任	老年看護学Ⅰ (概論)	KSP21101	必修	1	30	看護師として、総合病院の手術室、外科病棟等の臨床経験がある。	臨床での経験をもとに、高齢者の生きてきた生活背景や価値観を理解することや、高齢者の残された機能を維持する看護について教授する。
		老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	KSP21102	必修	1	15		
		老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	KSP31201	必修	1	30		
松尾 ひとみ	専任	小児看護学Ⅰ (概論と保健)	KSP21103	必修	1	30	看護師として、600床の民間病院で3年間外科・NICUを経験後、小児専門病院で循環器、NICU、ICU、感染症を10年経験した。実習指導者や新人指導を経験し、旧日本看護協会看護研修学校に進学した。教員となつてからは、臨床の小児看護師との事例検討や研究の相談を行ってきた。	小児看護の実践の根拠として有益な知識や理論を教授し、初學者でも実習で理論を活用できるよう、知識と実践の統合を促進する教育方法を組み立てている。
		小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	必修	1	30		
		小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	必修	1	30		

担当教員	専任／ 非常勤	2022授業科目	科目ナンバ－	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
西村 郁香	専任	小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	必修	1	30	公立病院において看護師として、脳神経内科の臨床経験がある。また公立専門病院において看護師として、救急部門と重症心身障がい児病棟での臨床経験がある。AHAのBLS、ACLSを活用し、病院内の講習会・地域への普及活動をしていた。	臨床での経験を踏まえ障がいのある小児とその家族の看護について教授する。
		小児看護学Ⅳ （小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	必修	1	30		
鷺尾 弘枝	専任	母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	必修	1	30	大学附属病院、病院、診療所において助産師としての臨床経験がある。また、産科だけでなく、婦人科での臨床経験がある。さらに、病棟管理者として、臨床指導者として、看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ女性及び周産期にある母子の生理的変化、身体的・精神的・社会的な特徴と看護ケアについて教授する。また、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。
		母性看護学Ⅱ （女性生殖・周産期医療）	KSP21106	必修	1	15		
		母性看護学Ⅲ （周産期アセスメント）	KSP21208	必修	1	30		
		母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	KSP31202	必修	1	30		
園田 希	専任	母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	KSP31202	必修	1	30	助産師として総合周産期母子医療センター(NICU)や総合病院の産婦人科病棟、有床診療所での産科病棟や助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、周産期の母子とその家族が持つ力を最大限発揮するための看護について、具体的に教授する。
東尾 公子	専任	母性看護学Ⅲ （周産期アセスメント）	KSP21208	必修	1	30	助産師として、総合病院の産婦人科病棟、助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、ウエルネスの視点で周産期の対象と新生児の看護について教授する。
西垣 里志	専任	精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	必修	1	30	精神科病院で、看護師、認定看護師としての実務経験がある。急性期、慢性期、外来、訪問、家族などを対象とした臨床経験があり、看護学生の実習指導にも携わってきた。	精神障害をもつ人々が、病をもって生きることの生きづらさやそれを支える家族の支援について、臨床経験を踏まえ具体的事例を通して、多面的に捉えられるように教授する。
		精神看護学Ⅱ （主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	必修	1	15		
		精神看護学Ⅲ （施設における援助）	KSP21209	必修	1	30		
		精神看護学Ⅳ （地域における援助）	KSP31101	必修	1	30		
桶河 華代	専任	在宅看護論Ⅰ （概論）	KSP21109	必修	1	15	大学病院で、病院看護師として脳外科病棟等で臨床経験がある。また、公立保育所で、保育所看護師として、乳幼児に対する保育や健康管理に携わる。さらに、地域で生活する人々に訪問看護師として在宅看護に携わる。	地域で生活する人々に対しての看護と多職種で共同する看護の役割を教授する。すべての年齢、疾患を対象とした健康の保持・増進と健康段階に合わせた看護の提供を教授する。
		在宅看護論Ⅱ （訪問看護の展開方法）	KSP21210	必修	1	15		
		在宅看護論Ⅲ （在宅ケアの演習）	KSP31303	必修	1	30		
		在宅看護論Ⅳ （地域ネットワーク論）	KSP31203	必修	1	30		

教育課程（2022年度以降入学生）

区分		2022年度授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考				
					必修	選択		必修	選択	卒業要件		
基礎分野	人間と科学	看護とサイエンス	KGE11101	1前	1		30	必修4単位	選択12単位 以上	必修12単位 選択必修3単位以上 選択12単位以上 合計27単位以上		
		心理学への招待	KGE13101	1後		2	30					
		統計学入門	KGE11201	1後	1		30					
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2		30					
		環境と生態	KGE13102	1前		2	30					
		化学	KGE13103	1前		2	30					
		映像表現の理論と実践	KGE23101	2前		1	30					
	人間と社会	キャリア教育Ⅰ	KGE11103	1前	1		30	必修6単位				
		キャリア教育Ⅱ	KGE21101	2前	1		30					
		人間関係概論	KGE11104	1前	2		30					
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30					
		家族社会学	KGE11105	1後	2		30					
		地域・福祉・ボランティア	KGE13104	1後		2	30					
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30					
		ダイバーシティと共生	KGE23104	2前		2	30					
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2後		2	30					
		法律入門	KGE13105	1前		2	30					
	人間と文化	デッサンと表現	KGE13201	1後		1	30	選択必修 1単位				
		茶道と香道の理論と表現	KGE12201	1前		1	30					
		生け花の理論と表現	KGE12202	1前		1	30					
		書芸術の理論と表現	KGE12203	1前		1	30					
	人間と語学	英語Ⅰ	KGE11301	1前	1		30	必修2単位			選択必修 2単位	
		英語Ⅱ	KGE11302	1後	1		30					
		英会話Ⅰ	KGE12301	1前		1	30					
		英会話Ⅱ	KGE12302	1後		1	30					
		英語Ⅲ	KGE22301	2前		1	30					
		英語Ⅳ	KGE22302	2後		1	30					
		フランス語Ⅰ	KGE12303	1前		1	30					
		フランス語Ⅱ	KGE12304	1後		1	30					
		中国語会話Ⅰ	KGE12305	1前		1	30					
		中国語会話Ⅱ	KGE12306	1後		1	30					
		韓国語Ⅰ	KGE12307	1前		1	30					
		韓国語Ⅱ	KGE12308	1後		1	30					
		イタリア語Ⅰ	KGE12309	1前		1	30					
		イタリア語Ⅱ	KGE12310	1後		1	30					
		ドイツ語Ⅰ	KGE12311	1前		1	30					
		ドイツ語Ⅱ	KGE12312	1後		1	30					
専門基礎分野	人間の理解	医療行動科学	KSB13101	1後		2	30	必修5単位	選択6単位 以上	必修24単位 選択6単位以上 合計30単位以上		
		死生学	KSB23101	2前		1	15					
		癒しと芸術	KSB11101	1前	2		30					
		栄養と健康	KSB11102	1後	1		30					
		医療概論（生命倫理）	KSB11103	1後	2		30					
	健康と疾病の理解	医療人類学	KSB23102	2前		2	30	必修16単位				
		人体構造機能論Ⅰ	KSB11104	1前	1		30					
		人体構造機能論Ⅱ	KSB11105	1前	1		30					
		人体構造機能論Ⅲ	KSB11106	1後	1		30					
		病態治療学Ⅰ	KSB11107	1後	2		30					
		病態治療学Ⅱ	KSB21101	2前	2		30					
		病態治療学Ⅲ	KSB21102	2前	2		30					
		生化学	KSB21103	2前	1		30					
		臨床薬理学	KSB21104	2前	1		30					
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30					
		疫学・保健統計	KSB21201	2後	2		30					
		公衆衛生学	KSB21105	2前	1		30					
		運動と健康Ⅰ	KSB13301	1前		1	30					
		運動と健康Ⅱ	KSB13302	1後		1	30					
		衛生関係法規	KSB21106	2前	1		30					
		関係の発展	情報処理Ⅰ	KSB11201	1前	1					30	必修3単位
			情報処理Ⅱ	KSB13201	1後		1				30	
			社会保障と福祉	KSB21107	2後	2					30	
			医療と経済	KSB23103	2後		2				30	
	臨床心理学		KSB23104	2前		2	30					

区分		2022年度授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専 門 分 野	看護とアート	看護とアートⅠ（治療環境とアメニティ）	KSP11201	1後	1		30	必修2単位	—	必修68単位 選択必修3単位以上 合計71単位以上
		看護とアートⅡ（治療環境とアメニティ）	KSP21201	2後	1		30			
		看護とアートⅢ（笑い療法）	KSP22201	2前		1	15	選択必修 2単位		
		看護とアートⅣ（音楽療法）	KSP22202	2前		1	15			
		看護とアートⅤ（絵画療法）	KSP22203	2前		1	15			
		看護とアートⅥ（陶芸療法）	KSP22204	2後		1	15			
		看護とアートⅦ（セラピーメイク）	KSP22205	2後		1	15			
		看護とアートⅧ（アロマセラピー・タッチケア）	KSP22206	2後		1	15			
	看護とアートⅨ（推拿）	KSP22207	2後		1	15				
	看護の基礎	基礎看護学概論	KSP11101	1前	2		30	必修11単位		
		看護理論	KSP11102	1後	1		15			
		看護コミュニケーション論	KSP11202	1前	1		30			
		基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	1前	2		60			
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	1後	2		60			
		ヘルスアセスメント	KSP21202	2前	1		30			
		看護過程展開の基礎	KSP21203	2後	1		30			
	看護マネジメント論	KSP31101	3前	1		30				
	看護の発展	地域・在宅看護学概論	KSP21101	2前	2		30	必修28単位		
		地域・在宅看護学援助論Ⅰ	KSP21102	2後	1		15			
		地域・在宅看護学援助論Ⅱ	KSP21103	2後	2		30			
		地域・在宅看護学援助論Ⅲ	KSP31201	3前	1		30			
		成人看護学概論	KSP21104	2前	1		15			
		成人看護学援助論Ⅰ	KSP21204	2後	2		60			
		成人看護学援助論Ⅱ	KSP21205	2後	1		30			
		成人看護学援助論Ⅲ	KSP31202	3前	2		60			
		老年看護学概論	KSP21105	2前	2		30			
		老年看護学援助論Ⅰ	KSP21206	2後	1		30			
		老年看護学援助論Ⅱ	KSP31203	3前	1		30			
		小児看護学概論	KSP21106	2前	2		30			
		小児看護学援助論Ⅰ	KSP21207	2後	1		30			
		小児看護学援助論Ⅱ	KSP31204	3前	1		30			
		母性看護学概論	KSP21107	2前	2		30			
		母性看護学援助論Ⅰ	KSP21208	2後	1		30			
		母性看護学援助論Ⅱ	KSP31205	3前	1		30			
		精神看護学概論	KSP21108	2前	2		30			
		精神看護学援助論Ⅰ	KSP21209	2後	1		15			
		精神看護学援助論Ⅱ	KSP21210	2後	1		15			
		看護の実践	基礎看護学実習Ⅰ	KSP11401	1前	1				
	基礎看護学実習Ⅱ		KSP21401	2後	3		135			
	地域・在宅看護学実習		KSP31401	3後・4前	2		90			
	成人・老年看護学実習Ⅰ		KSP31402	3後・4前	3		135			
	成人・老年看護学実習Ⅱ		KSP31403	3後・4前	2		90			
	成人・老年看護学実習Ⅲ		KSP31404	3後・4前	3		135			
	小児看護学実習		KSP31405	3後・4前	2		90			
	母性看護学実習		KSP31406	3後・4前	2		90			
	精神看護学実習		KSP31407	3後・4前	2		90			
	看護とアート実習		KSP31408	3後	1		45			
	総合実習	KSP41401	4前	2		90				
	看護の統合	看護研究Ⅰ	KSP31206	3前	1		30	必修2単位		
		看護研究Ⅱ	KSP41201	4前	1		30			
		国際看護活動論	KSP42101	4後		1	15	選択必修 1単位		
		災害看護活動論	KSP42102	4後		1	15			
		チーム医療論	KSP42103	4後		1	15			
		看護の生涯教育論	KSP42104	4後		1	15			
		統合看護演習Ⅰ	KSP31301	3前	1		15	必修2単位		
	統合看護演習Ⅱ	KSP41301	4前	1		15				

教育課程（2019～2021年度入学生）

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考				
					必修	選択		必修	選択	卒業要件		
基礎 分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択8単位 以上 ※選択必修 科目群より 選択する ことも可	必修16単位 選択必修4単位以上 選択8単位以上 合計28単位以上		
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30					
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30					
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30					
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30					
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30					
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30					
	人間と社会	化学	KGE13105	1 前		2	30	必修2単位				
		キャリア教育Ⅰ	KGE11103	1 前	1		30					
		キャリア教育Ⅱ	KGE21101	2 前	1		30					
		人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30					
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30					
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30					
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30					
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30					
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30					
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30					
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30					
	人間と文化	ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30	必修2単位				
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30					
		文芸論	KGE13111	1 後		2	30					
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1 前	2		30					
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3 前		2	30					
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30					
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30					
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30					
	人間と語学	伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30	選択必修 2単位				
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30					
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30					
		英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60					
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60					
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60					
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60					
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60					
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2 通		2	60					
		フランス語Ⅰ	KGE12301	1 通		2	60					
人間と語学	フランス語Ⅱ	KGE22304	2 通		2	60	選択必修 2単位					
	中国語会話Ⅰ	KGE12302	1 通		2	60						
	中国語会話Ⅱ	KGE22305	2 通		2	60						
	ビジネス中国語	KGE12303	1 通		2	60						
	イタリア語Ⅰ	KGE12304	1 通		2	60						
	イタリア語Ⅱ	KGE22306	2 通		2	60						
	ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1 通		2	60						
	ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2 通		2	60						
	専門 基礎 分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2			30	必修6単位	選択6単位 以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
			医療行動科学	KSB13101	1 後			2	30			
生涯教育論			KSB23101	2 後		2	30					
癒しと芸術			KSB21101	2 前	2		30					
栄養と健康			KSB11102	1 後	2		30					
健康と疾病の理解		人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 前	2		60	必修14単位				
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 後	1		30					
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30					
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1 後2前	2		60					
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30					
		生化学	KSB11107	1 後	1		30					
		薬理学	KSB21103	2 前	1		30					
		感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30					
		疫学	KSB21104	2 後	2		30					
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30					
関係の発展		運動と健康	KSB33201	3 前		2	30	必修3単位				
		情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30					
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30					
		福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30					
		医療と経済	KSB33101	3 前		2	30					
		カウンセリング	KSB23102	2 前		1	30					
		社会保障と福祉	KSB21105	2 後	2		30					

通＝通年科目

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専門分野	看護の基盤となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修26単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30			
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2 前	1		15			
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2 後	1		15			
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3 前	1		30			
	在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3 前	1		30				
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2	30	選択必修 4単位以上		
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	KSP32204	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）	KSP32205	3 前		2	30	必修2単位		
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4 後	2		30			
		看護教育学	KSP42101	4 後		1	15	必修1単位		
		海外看護活動論	KSP42102	4 後		2	30			
		看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3 前	1		30			
看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）		KSP42103	4 後		2	30				
地域リハビリテーション論		KSP32101	3 前		2	30	選択必修 4単位以上			
移植コーディネーション論		KSP42104	4 後		2	30				
看護研究の方法		KSP31204	3 前	1		30	必修3単位			
看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4 後	2		60					
看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 前	1		45	必修23単位			
	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 後	2		90				
	成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後・4 前	3		135				
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後・4 前	3		135				
	老年看護学実習	KSP31403	3 後・4 前	4		180				
	小児看護学実習	KSP31404	3 後・4 前	2		90				
	母性看護学実習	KSP31405	3 後・4 前	2		90				
	精神看護学実習	KSP31406	3 後・4 前	2		90				
	在宅看護論実習	KSP31407	3 後・4 前	2		90				
	総合実習	KSP41401	4 前	2		90				

教育課程（2017～2018年度入学生）

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考			
					必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択10単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上	
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30				
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30				
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30				
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30				
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30				
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30				
		化学	KGE13105	1 前		2	30				
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30	—			
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30				
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30				
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30				
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30				
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30				
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30				
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30				
	人間と文化	ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30	必修2単位			
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30				
		文芸論	KGE13111	1 後		2	30				選択必修 2単位
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1 前	2		30				
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3 前		2	30				
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30				
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30				
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30				
	伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30					
	人間と語学	伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30	選択必修 2単位			
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30				
		英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60				必修6単位
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60				
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60				
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60				
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60				
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2 通		2	60				
		フランス語Ⅰ	KGE12301	1 通		2	60				
		フランス語Ⅱ	KGE22304	2 通		2	60				
	中国語会話Ⅰ	KGE12302	1 通		2	60					
中国語会話Ⅱ	KGE22305	2 通		2	60						
人間と語学	ビジネス中国語	KGE12303	1 通		2	60	選択必修 2単位				
	イタリア語Ⅰ	KGE12304	1 通		2	60					
	イタリア語Ⅱ	KGE22306	2 通		2	60					
	ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1 通		2	60					
	ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2 通		2	60					
	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2			30	必修6単位	選択6単位以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1 後		2		30			
		生涯教育論	KSB23101	2 後		2		30			
		癒しと芸術	KSB21101	2 前	2			30			
		栄養と健康	KSB11102	1 後	2			30			
健康と疾病の理解		人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 前	2		60	必修14単位			
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 後	1		30				
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30				
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1 後2前	2		60				
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30				
		生化学	KSB11107	1 後	1		30				
		薬理学	KSB21103	2 前	1		30				
		感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30				
		疫学	KSB21104	2 後	2		30				
	医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30					
	運動と健康	KSB33201	3 前		2	30					
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30		必修3単位		
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30				
		福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30				
医療と経済		KSB33101	3 前		2	30					
カウンセリング		KSB23102	2 前		1	30					
社会保障と福祉		KSB21105	2 後	2		30					

通＝通年科目

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専門分野	看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修26単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30			
	看護を応用する領域	在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2 前	1		15	選択必修 4単位以上		
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2 後	1		15			
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3 前	1		30			
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3 前	1		30			
		看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	KSP32204	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）	KSP32205	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4 後	2		30			
		看護教育学	KSP42101	4 後		1	15			
		海外看護活動論	KSP42102	4 後		2	30			
	看護の技を習得する領域	看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3 前	1		30	必修1単位		
		看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	KSP42103	4 後		2	30			
		地域リハビリテーション論	KSP32101	3 前		2	30	選択必修 4単位以上		
		移植コーディネーション論	KSP42104	4 後		2	30			
		看護研究の方法	KSP31204	3 前	1		30	必修3単位		
		看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4 後	2		60			
		基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 前	1		45	必修23単位		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 後	2		90			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後4 前	3		135			
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後4 前	3		135			
		老年看護学実習	KSP31403	3 後4 前	4		180			
		小児看護学実習	KSP31404	3 後4 前	2		90			
	母性看護学実習	KSP31405	3 後4 前	2		90				
	精神看護学実習	KSP31406	3 後4 前	2		90				
	在宅看護論実習	KSP31407	3 後4 前	2		90				
	総合実習	KSP41401	4 前	2		90				

2022年度授業科目・担当者一覧表（2022年度以降入学生）

I 基礎分野

〈授業科目〉	〈担当者名〉	〈ページ〉
看護とサイエンス	八田 康弘 ……………	29
心理学への招待	岩城 晶子 ……………	30
統計学入門	崔 煌 ……………	31
ヒトと生物学	中川 学 ……………	32
環境と生態	八田 康弘 ……………	33
化学	堅中 泰樹 ……………	34
キャリア教育 I	西垣/國松/桶河/中川 ……	35
人間関係概論	岩城 晶子 ……………	36
家族社会学	中山 麻耶 ……………	37
地域・福祉・ボランティア	軸丸/浮田/岩城 ……	38
法律入門	青木 亮祐 ……………	39
デッサンと表現	中村 仁美 ……………	40
茶道と香道の理論と表現	飯島 照仁 ……………	41
生け花の理論と表現	小林 秀加 ……………	42
書芸術の理論と表現	池田 方彩 ……………	43
英語 I	毛利 郁子 ……………	44
英語 II	毛利 郁子 ……………	45
英会話 I	池田美智子 ……………	46
英会話 II	池田美智子 ……………	47
フランス語 I	渋谷 直樹 ……………	48
フランス語 II	渋谷 直樹 ……………	49
中国語会話 I	潘 健秀 ……………	50
中国語会話 II	潘 山海 ……………	51
韓国語 I	裴 恵麟 ……………	52
韓国語 II	裴 恵麟 ……………	53
イタリア語 I	中川 光 ……………	54
イタリア語 II	小松 寛明 ……………	55
ドイツ語 I	神竹 道士 ……………	56
ドイツ語 II	神竹 道士 ……………	57

II 専門基礎分野

医療行動科学	日高 庸晴 ……………	59
癒しと芸術	フルイミエコ ……………	60
栄養と健康	須田あゆみ ……………	61
医療概論（生命倫理）	林 貴啓 ……………	62
人体構造機能論 I	巽 圭太 ……………	63
人体構造機能論 II	片山 泰一 ……………	64
人体構造機能論 III	片山 泰一 ……………	65
病態治療学 I	巽 圭太 ……………	66
感染と免疫	白井 文恵 ……………	67
運動と健康 I	大本 友香 ……………	68
運動と健康 II	大本 友香 ……………	69
情報処理 I	吉田 浩 ……………	70
情報処理 II	吉田 浩 ……………	71

III 専門分野

看護とアート I（治療観察とアムニティ）	森 合音 ……………	73
基礎看護学概論	北島 洋子 ……………	74
看護理論	北島 洋子 ……………	75
看護コミュニケーション論	北島 洋子 ……………	76
基礎看護学援助技術 I	平野/基礎看護学教員 ……	77
基礎看護学援助技術 II	平野/基礎看護学教員 ……	78
基礎看護学実習 I	北島・澤田・平野・梅川・瀬山 ……	79

2022年度授業科目・担当者一覧表（2017～2021年度入学生）

Ⅰ 基礎分野

〈授業科目〉	〈担当者名〉	〈ページ〉
キャリア教育Ⅱ	伊佐・岩城・八田	83
教育学概論	伊佐 夏実	84
発達心理学	小川 詩乃	85
ジェンダー論	伊佐 夏実	86
民俗学	鈴木 洋昭	87
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	88
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	89
英語Ⅱ（Writing 1）	毛利 郁子	90
英語Ⅱ（Writing 1）	池田美智子	91
英語Ⅱ（Writing 1）	長谷川重和	92
英会話Ⅱ（Listening & Speaking 2）	毛利 郁子	93
英語Ⅲ（Reading 2）	毛利 郁子	94
英語Ⅳ（Writing 2）	池田美智子	95
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	96
中国語会話Ⅱ	潘 山海	97
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	98
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	99

Ⅱ 専門基礎分野

医療概論	林 貴啓	101
生涯教育論	伊佐 夏実	102
癒しと芸術	フルイミエコ	103
病態治療学Ⅲ	高原 史郎	104
薬理学	内海 美保	105
感染と免疫	白井 文恵	106
疫学	日高 庸晴	107
医療と情報（保健統計）	日高 庸晴	108
運動と健康	大本 友香	109
福祉情報技術	大西 雅裕	110
医療と経済	川島 隆志	111
カウンセリング	伊藤 俊樹	112
社会保障と福祉	長谷川章子	113

Ⅲ 専門分野

基礎看護学Ⅰ（概論）	北島 洋子	115
基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	北島 洋子	116
基礎看護学Ⅲ（健康教育）	牧野 裕子	117
基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	平野加代子	118
基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	基礎看護学教員	119
基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	梅川/基礎看護学教員	120
基礎看護学Ⅵ（看護過程）	平野/澤田	121
成人看護学Ⅰ（概論）	中川/房間	122
成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	中川/國松/房間/前中/浅井/小林/神實	123
成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	中川/房間/國松/浅井/前中/小林/神實	124
成人看護学Ⅳ（援助方法論）	中川/房間/國松/浅井/前中/小林/神實	125
老年看護学Ⅰ（概論）	加藤/高橋/杉本	126
老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	加藤/高橋/杉本	127

老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	加藤/高橋/杉本	128
老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	加藤/高橋/杉本	129
小児看護学Ⅰ（概論と保健）	松尾/西村	130
小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	小児看護学分野教員	131
小児看護学Ⅲ （健康障害のある小児と家族への援助）	松尾ひとみ	132
小児看護学Ⅳ （小児のアセスメントとケア論）	松尾/西村	133
母性看護学Ⅰ（概論）	鷲尾 弘枝	134
母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	鷲尾 弘枝	135
母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	東尾/鷲尾	136
母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	園田/鷲尾	137
精神看護学Ⅰ（精神保健）	西垣 里志	138
精神看護学Ⅱ （主な精神疾患と精神症状）	西垣 里志	139
精神看護学Ⅲ（施設における援助）	西垣 里志	140
精神看護学Ⅳ（地域における援助）	西垣 里志	141
在宅看護論Ⅰ（概論）	桶河 華代	142
在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	桶河 華代	143
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	桶河 華代	144
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	桶河 華代	145
看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	木村 千尋	146
看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	武田倫衣子	147
看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	古谷 昭雄	148
看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	福井 美余	149
看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）	上田 順平	150
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	森 合音	151
看護教育学	澤田 京子	152
海外看護活動論	杉野 美礼	153
看護マネジメント学Ⅰ （リスクマネジメント）	片山 康予	154
看護マネジメント学Ⅱ	大川真紀子	155
地域リハビリテーション論	三好 弘之	156
移植コーディネーション論	高原 史郎	157
看護研究の方法	日高 庸晴(他)	158
看護の探究（看護の統合）	看護学部専任教員	159

Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	基礎看護学領域教員	161
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	基礎看護学領域教員	162
成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	成人看護学分野教員	163
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	成人看護学分野教員	164
老年看護学実習	老年看護学分野教員	165
小児看護学実習	松尾/西村	166
母性看護学実習	鷲尾/東尾/園田	167
精神看護学実習	西垣 里志	168
在宅看護論実習	在宅看護論分野教員	169
総合実習	看護学部専任教員	170

授 業 科 目

授業要項と授業内容（2022年度入学生）

凡 例

2022年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。
3. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とサイエンス	八田 康弘	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11101

科目の概要

本科目は理科学分野に重点をおいて、看護学部で学ぶ上でのスタディスキルズを身につける科目と位置付ける。ヒトを理解する重要性からも生物分野に重点をおき、入学前教育と連動して内容を深めていく。化学や物理については、将来看護職を目指す上で必須の知識を厳選して学ぶ。あわせて論理展開、表やグラフの読み取り、基礎的な計算能力の向上など、看護を学ぶ上での必須の項目をカバーし、講義と演習を行う。

到達目標

- 看護に必要な科学（生物化学物理分野）の基礎知識が説明できる。
- 社会生活における科学的側面を論理的に述べることができる。
- 看護で対面する患者をヒトとして科学的に理解し看護することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	生物の定義 看護の生物 生物無生物の違い
第2回	生物としてのヒト1 人体構造 細胞と分裂 神経系 ホルモン
第3回	生物としてのヒト2 人体の維持 循環 免疫 消化
第4回	生物としてのヒト3 環境適応 感覚器官 生殖と発生
第5回	ヒトの遺伝 遺伝の仕組み DNA
第6回	ヒトと他生物の比較 進化 脳の発達
第7回	からだと医療の化学1 元素 化学反応（演習）
第8回	からだと医療の化学2 酸 塩基 酸化還元（演習）
第9回	からだと医療の物理学 力 運動 電気（演習）
第10回	医療現場における数的処理 看護に必要な計算（演習）
第11回	医療現場におけるグラフ読解と論理力（演習）
第12回 AL 2	探求科学1 ヒトの食生活① 栽培 農耕 畜産 発酵
第13回 AL 2	探求科学2 ヒトの食生活② 食糧問題 食と健康 食の未来
第14回 AL 2	探求科学3 ヒトの病気（ウイルス 細菌 寄生虫）
第15回 AL 2	探求科学4 ヒトの病気治療 西洋医学と東洋医学 薬草 漢方

成績評価方法	定期試験（筆記）60% 小テスト 20% 成果物 20%					
教科書	なし 適宜プリント配布					
参考文献	『医療系総合講座テキスト』（入学前教育）東進ハイスクール					
事前学習(内容・時間)	医療系総合講座テキストの講義関連内容を予習（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義内容の疑問点を調べる（2時間）					
フィードバックの方法	講義初めに前回の小テストまたは課題の説明をする					
備 考				オフィスアワー	メールにて受け付けます。	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

本講義では、心理学分野の基本的な知識について紹介する。学生が心理学という学問領域での心の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。心についての基本的な考え方や、身近な生活の中での心のはたらき、人の行動のメカニズム、人間の性格の仕組み等を毎回のテーマとして、素朴な疑問に対して、心理学の知識によって自分なりに考えたり、答えを見つけられることを目指し授業を行う。

到達目標

- 心理学の基礎、例えば外界を認知する仕組みや記憶のメカニズムなどについて基本的な知識を獲得し、説明できる。
- 学習や動機づけ理論についての学びを通して、人間の行動のメカニズムについて説明できる。
- 人間の心についての理解を、大学生活や医療・看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（心理学とは・その目的や歴史、心を捉える視点について）
第2回	心理学研究法（人間の心についてどのような方法で研究することができるのか？）
第3回	心と脳
第4回 AL 6	感覚・知覚①（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第5回	感覚・知覚②（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第6回 AL 6	記憶：覚えること・忘れることの仕組み①
第7回	記憶：覚えること・忘れることの仕組み②
第8回 AL 6	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み①
第9回	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み②
第10回 AL 6	動機づけ
第11回	パーソナリティ：私たちの「性格」について①
第12回 AL 6	パーソナリティ：私たちの「性格」について②
第13回	個と集団の関係①
第14回 AL 6	個と集団の関係②
第15回	インターネットに関わる心理学

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学 ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（2019）（弘文堂）					
参考文献	『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭編（2009）（ミネルヴァ書房） 『よくわかる臨床心理学（改訂新版）』下山晴彦編（2009）（ミネルヴァ書房）					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして、内容を理解しておくこと（2時間）					
フィードバックの方法	コメントフォームで送信された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	崔 煌	講義・演習	1年次 後期	必修	1	30	KGE11201

科目の概要

本講座は看護統計のための統計的な基礎知識について講義する。まず、統計学の基礎知識と看護との関連について説明する。その後、記述統計学のパートでは、得られたデータの特徴を要約する方法について、推測統計学のパートでは、標本データから母集団の特徴を推測する方法について教授する。

到達目標

- 看護統計のための統計学の基礎知識を習得し、説明できる
- 記述統計学と推測統計学を学び、各々の目的を述べることができる
- 相関関係と因果関係が区別できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション&統計学の基礎知識（統計学の定義、記述統計学と推測統計学など）と統計学と看護との関係
第2回	データと変数、度数分布表、度数分布表をグラフにする
第3回	平均と中央値&平均と中央値、最頻値の違い&量的変数のばらつき①&小テスト①
第4回	量的変数のばらつき②&クロス集計表①
第5回	クロス集計表②&相関係数①
第6回	相関係数②&小テスト②
第7回 AL 6	原因と結果の考え方&短いレポートの提出
第8回	3重クラス表①
第9回	3重クラス表②&母集団と標本の関係①&小テスト③
第10回 AL 6	母集団と標本の関係②&推測統計学の基礎と統計的推定①&短いレポートの提出
第11回	推測統計学の基礎と統計的推定②
第12回	推測統計学の基礎と統計的推定③&統計的検定の考え方①&小テスト④
第13回	統計的検定の考え方②
第14回	統計的検定の考え方③&クロス表のカイ2乗検定①
第15回	クロス表のカイ2乗検定②&小テスト⑤

成績評価方法	小テスト 100%					
教科書	『基本からわかる看護統計学入門 第2版』大木秀一（医歯薬出版株式会社）					
参考文献	『社会調査のための統計学』神林博史・三輪哲（技術評論社）					
事前学習(内容・時間)	教科書による予備学習（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業資料による復習（3時間）					
フィードバックの方法	小テストに対するフィードバックは授業中に行う					
備考	小テストは3回の授業で1回行われ、5回実施される			オフィスアワー	メールとチャットで受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	中川 学	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

ヒトを含め生物は細胞を基本単位とし、生命活動を営んでいる。ヒトは、1個の受精卵という細胞から分裂を繰り返し、個体へと発生する。前半は、細胞が自身の持つ遺伝情報に基づいて必要なタンパク質を合成することで、様々な機能を発現していくという生命活動の基本原則を解説する。後半には、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心に講義する。

到達目標

- 生命活動を円滑に営むためにはどのようなことが体内で行われているのかを説明できる。
- 細胞および、その増殖と分化、発生といった基本的な仕組みを述べることができる。
- 内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で支えられている生体の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生物学の基礎（教科書，p.1-9）
第2回	細胞（教科書，p.11-21）
第3回	生物を構成する物質（教科書，p.22-33）
第4回	栄養と代謝（教科書，p.34-45）
第5回	遺伝とDNA（教科書，p.46-59）
第6回	遺伝情報の発現（教科書，p.60-67）
第7回	細胞の増殖と死（教科書，p.68-75）
第8回	生殖，発生，分化（教科書，p.76-84）
第9回	動物の組織（教科書，p.86-93）
第10回	動物の器官（教科書，p.95-104）
第11回	ホルモンと生体調節（教科書，p.105-118）
第12回	神経系（教科書，p.119-127）
第13回	免疫（教科書，p.128-140）
第14回	微生物と感染症（教科書，p.141-152）
第15回	生命システムの破綻：癌と老化（教科書，p.154-161）

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『医療・看護系のための生物学』田村隆明（裳華房）					
参考文献	『三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』鈴木孝仁 監修（数研出版） 『サイエンスビュー 生物総合資料 四訂版』長野敬、牛木辰男 監修（実教出版）					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを読む（2時間，「コラム」と「発展学習」は除外）					
事後学習(内容・時間)	講義で学習したことを自分の言葉でノートにまとめる（2時間）。成果物として評価（試験終了後要提出）					
フィードバックの方法	Microsoft Teamsなどを活用して講評します					
備 考				オフィスアワー	講義前10分、講義後20分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	八田 康弘	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

生物圏は一樣ではない。一樣でない地球環境の中で色々な多くの生物が非生物的要素の影響を受け相互に作用を及ぼしながら生きている。その様子を具体的に説明し、生物の種が複雑にからみ合っていて生態系の仕組みを学ぶ中で、生物がもつ特性を理解できるよう講義する。具体的には、環境とは、自然界のまとまり、ヒトと環境について講義する。

到達目標

- 生物と環境の関わりの基本を学ぶことにより、日々の暮らしの改善につながる力を身につける。
- 人間の社会生活活動と環境の関わりを説明できる。
- 日本だけでなく世界各地域特有の状況から、環境と生態のあり様についての考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	環境とは何か 環境と生物 さまざまな環境要因 生物多様性を生み出す環境条件
第2回	生態系の構造と機能 変化する生態系 生態系の遷移について
第3回	生物多様性と地理的分布 コスタリカの生物多様性
第4回	環境指標生物について生態学的知見を交えて 指標生物と外来生物
第5回	生物適応の戦略的進化（植物）
第6回	生物適応の戦略的進化（動物）
第7回	異種間の相互作用 生物群集の構成 競争 捕食 寄生 共生
第8回	環境問題の歴史 公害問題と農薬汚染 環境ホルモン「沈黙の春」
第9回 AL 3	現代の環境問題 地質時代における人新生の問題点 環境問題グループ発表
第10回	地球温暖化と生物および生態系
第11回	グローバルな環境問題1 ガラパゴス マダガスカル 絶滅危惧種
第12回	グローバルな環境問題2 モンゴル アタカマ砂漠 砂漠化・環境問題
第13回	グローバルな環境問題3 英国の自然再生 世界自然遺産
第14回 AL 2	人類生態学 衣食住環境の問題点 生活環境の変化に伴う人類の病気
第15回 AL 2	環境との調和と環境再生 開発の世紀から環境の世紀へ

成績評価方法	定期試験（レポート）50% 成果物 50%					
教科書	なし 適宜プリント配布					
参考文献	『生物科学入門コース7「生態と環境」』松本忠夫著 岩波書店					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備をする（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義に関連する文献を紹介するので、目を通してください（2時間）					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います					
備考				オフィスアワー	メールにて受け付けます。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	堅中 泰樹	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

人体の働きを理解するためには、化学の体系的知識が不可欠である。原子や分子からはじめて、物質の量的表現、化学反応、水や溶液の化学を説明し、糖、脂質、タンパク質など人体を構成する物質を説明する。最終回では、学生が自ら化学分野で興味を持ったテーマについて調べ、パワーポイントなどを使って発表する（受講人数により個人～数人のグループ単位での発表）。

到達目標

- 日常生活や医療分野における現象を化学の言葉を用いて正しく説明できる。
- 物質の量的表現を理解し、正しく説明できる。
- 生化学や医療分野で見られる化学的現象に興味を持ち、自己研鑽できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	科学における化学
第2回	原子の構造：原子
第3回	原子の構造：元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学式
第6回	濃度の表し方
第7回	化学反応と熱エネルギー
第8回	化学反応と化学平衡
第9回	水と溶液、透析と浸透圧
第10回	酸と塩基
第11回	酸化と還元
第12回	有機化学・糖 1
第13回	糖 2・脂質
第14回	アミノ酸・タンパク質
第15回 AL 4	学生の発表：化学分野で深掘してみた件

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 20％ 発表会での評価 20％					
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島高彦（化学同人）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む（2時間）					
事後学習(内容・時間)	教科書の練習問題を解く（2時間）					
フィードバックの方法	成果物については、授業で返却します。ショートテストなどでは、授業中に答えを合わせ解説します					
備 考				オフィスアワー	授業の前後（各30分）	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育 I	西垣・國松 桶河・中川	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11103

科目の概要

看護を学ぶにあたり、自らの目標の明確化と、達成のための基礎的知識、技能、考え方の習得方法を教授する。本学の特徴を鑑みながら、探究的学習方法を取り入れ、グループワークを活用して、人間及び社会関係形成、自己理解の育成、課題解決能力を育み、自らのキャリア形成について考えることができる基礎力を養うように教授する。

到達目標

- 看護を学ぶものとしての自らの目標が明確になり、そのための基礎知識、技術、考え方の習得方法が説明できる。
- 探究的学習方法により、他者との関係形成や、自己理解、問題解決につながることを体験し、成果として表現することができる。
- キャリア形成についての基礎的能力を養い、学びを成果として表現することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 建学の精神 ディプロマポリシー ビジョンとゴールシート 学修ポートフォリオ
第2回 AL 2	PROGテスト
第3回 AL 3	マナー教室、接遇、敬語、エレベーターの乗り方、訪室の仕方、メールの書き方、SNS
第4回 AL 3	感染対策
第5回 AL 3	看護とアート 歴史
第6回 AL 3	グループワーク① 無人島
第7回 AL1,4	グループワーク② ギャップの王様
第8回 AL 4	絵本を読んで読解力を高める① 看護倫理
第9回 AL 4	絵本を読んで読解力を高める② 看護倫理
第10回 AL1,4	近隣のフィールドワーク① 計画・文献検討
第11回 AL4,5	近隣のフィールドワーク② 調査・実際にフィールド行く
第12回 AL3,5	近隣のフィールドワーク③ 調査・まとめ
第13回 AL1,2	近隣のフィールドワーク④ 発表
第14回 AL 4	看護師国家試験 4年間のスケジュール ワクチンスケジュール
第15回 AL 4	PROG説明と活用

成績評価方法	プレゼンテーション 40% 成果物 60%					
教科書	適宜提示					
参考文献	『大学生 学びのハンドブック』（世界思想社）					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき授業準備する（1時間程度）					
事後学習(内容・時間)	毎回提示された課題に取り組む（1時間程度）					
フィードバックの方法	プレゼンテーションや成果物に対するコメント					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11104

科目の概要

人間は様々な「関係」の中に生きる存在である。本授業では、臨床心理学分野の知見に基づき、家族など身近な他者との関係、友人関係、所属集団との関係、自分を取り巻く社会との関係、自分自身との関係など、様々な「関係」の捉え方と特徴について紹介する。授業前半では、精神分析の主要概念と、赤ちゃんから高齢者までの生涯発達およびそれに伴う関係性の発展をテーマとして取り上げる。それを踏まえて、後半では個人のメンタルヘルスや、医療看護現場における人間関係、受容と共感や「語り」のアプローチ等について取り上げ、人間同士の関係について深く考える時間をもつ。

到達目標

- 心理学の基礎的内容のうち、特に人間関係の理解に必要とされる事柄について理解し、述べることができる。
- 各発達段階における心理的特徴や、対人関係など日常生活の中で個人が自分の心を守る仕組みについて、説明することができる。
- 自分自身の周囲にある様々な関係について、ある程度客観的に考えられるようになる。また、人間の心や関係性についての理解を医療・看護領域においてどのように活かすか、発展的に考え述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（臨床心理学の目的と歴史、心の捉え方、研究法など）
第2回	臨床心理学と関連領域の様々な学派
第3回 AL 6	人間の発達と関係性の発展（1）
第4回	人間の発達と関係性の発展（2）
第5回	人間の発達と関係性の発展（3）
第6回	人間の発達と関係性の発展（4）
第7回	人間の発達と関係性の発展（5）
第8回	人間の発達と関係性の発展（6）
第9回	心の適応（1）：ストレスと心理的障害、メンタルヘルス
第10回 AL 6	心の適応（2）：発達の病理と様々な心理的援助
第11回	自分自身について知る（1）
第12回	自分自身について知る（2）
第13回 AL 6	医療看護現場における人間関係（1）
第14回 AL 6	医療看護現場における人間関係（2）
第15回 AL 6	「語り」を聴く

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学 ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（2019）（弘文堂）					
参考文献	『ここを大切に作る看護 燃え尽きを防ぐための臨床心理学』檜村通子（2015）（日本評論社）、『よくわかる臨床心理学（改訂新版）』下山晴彦編（2009）（ミネルヴァ書房）など。適宜紹介します。					
事前学習（内容・時間）	前講義時の指示に基づき授業準備する（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして内容を理解しておくこと（2時間）					
フィードバックの方法	コメントフォームに記入された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備考	参考文献は図書館にあります			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
家族社会学	中山 麻耶	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11105

科目の概要

本講義では「家族」とは何か、家族社会学の基礎的な理論から現代社会において多様化する家族の考え方について講義を行う。講義を通じて家族の構造や機能、歴史的変化や文化的差異を説明し、さらに家族についての課題について検討をおこなう。

到達目標

- 家族の機能について自分の言葉で説明できるようになる
- 多様な家族について自分の言葉で説明できるようになる
- 家族に関する課題について自分の意見を説明できるようになる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション—家族とは—
第2回	「家族」の形と基礎知識
第3回	近代家族①
第4回	近代家族②
第5回	家族ネットワーク論
第6回	恋愛と結婚①
第7回	恋愛と結婚②
第8回	結婚制度を考える
第9回 AL 2	妊娠と出産
第10回	家事分担
第11回	家族支援の現状と課題
第12回	社会階層と家族
第13回	DV、虐待
第14回	性的マイノリティと家族
第15回 AL 4	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ 成果物 40％					
教科書	教科書は用いず資料を配布する					
参考文献	授業内で指示する					
事前学習(内容・時間)	関連のあるテーマについて時事問題を調べておく（2時間）					
事後学習(内容・時間)	授業内容を復習し、復習課題に取り組む（2時間）					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについて授業内で解説をする					
備考	積極的な授業参加・発言を期待します			オフィスアワー	授業後30分間教室で受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	△	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・福祉・ボランティア	軸丸 政代 浮田 恭子 岩城 晶子	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

医療・保健・福祉や自然災害現場などのあらゆる場でボランティアが活動している。受講生は、まず自分たちの身近な地域と福祉について多面的に知り、ボランティアの役割についての理解を深める。またより広い視野でボランティア活動の現状と課題等を考察し、将来看護師としてキャリアを積んでいく上で必要な社会貢献の視点を身につける。これらの学びを目的として、授業者は講義やフィールドワーク、グループワーク等を実施する。

到達目標

- 地域・福祉・ボランティアについて基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で表現することができる。
- フィールドワークやボランティア活動に積極的に参加し、自分の学びを振り返り、表現することができる。
- 授業で学んだことを看護師としての自らのキャリアと結び付け考察し、文章化し、発表することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーション（本科目の特徴、学び方、授業の予定など）
第2回 AL 2	地域を知る(地域で暮らす人々について)：1
第3回 AL 2	地域を知る（地域で暮らす子どもの実態）：2
第4回 AL 2	地域を知る（地域で暮らす高齢者・障がい者の実態）：3
第5回 AL 3	地域を知る（地域で暮らす方々を支える地域住民）：4
第6回 AL 3	地域でのボランティア活動（住民主体によるボランティア活動とは）：1
第7回 AL 2	地域でのボランティア活動（障がい者支援のボランティア活動とは）：2
第8回 AL 2	地域でのボランティア活動（子育て支援のボランティア活動とは）：3
第9回 AL 5	地域でのボランティア活動（フィールドワーク）：4
第10回 AL 2	災害におけるボランティア活動：5
第11回 AL 3	災害におけるボランティア活動：6
第12回 AL 2	地域福祉を知る：1
第13回 AL 2	地域福祉を知る：2
第14回 AL 4	学びのまとめ（フィールドワーク、ボランティア体験を通してまとめを発表）：1
第15回 AL 5	学びのまとめ：2

成績評価方法	定期試験（レポート）50％ 成果物 50％					
教科書	必要な場合はガイダンス時に指示する					
参考文献	必要な場合はガイダンス時に指示する					
事前学習(内容・時間)	指示した課題に対する調べ学習など（2時間）					
事後学習(内容・時間)	指示した課題に対するまとめなど（2時間）					
フィードバックの方法	提出された成果物に対してフィードバックを行う					
備考	本科目では実際にフィールドワークやボランティア活動を行い授業時間に含める（課外授業）。そのため時間割で指定された曜日・時間以外でそれら課外授業を行う場合は時間割の時間に代えて出席カウントを行う。また3つのテーマそれぞれにおいて概論講義・フィールドワーク・グループ討論・発表を行うが、フィールドワークの日程によりその他の活動日程を変更することがある			オフィスアワー		授業時間の前後またはオフィスアワー一覧表を参照のこと
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
法律入門	青木 亮祐	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

法（法学）全体の考え方の基礎となる概念、手続、体系と分類などの概要について学んだ上で、契約、不法行為など社会生活を送る中で関係する法律について基本構造や基本的考え方を取り上げる。それによって社会生活をおくる中で遭遇するさまざまな場面においてどのような法がどのように機能しているのかを考える。また、看護学を学ぶ学生にとって手薄になりがちな法律素養を体験的に身につけ、法律的な思考ができるようになることをめざし講義する。

到達目標

- 自己の考えを、学修によって得られた知識等を用いて、社会の規範を踏まえて、他者に表現できる
- 学修によって得られた知識を統合し、社会生活において活用できる
- 社会のなかの様々な問題に関心を持ち、自分なりの解決策を発見して行動できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	法学とは何か：法学の誕生とその目的
第2回	憲法の目的と仕組み：憲法の目的・全体像を確認する
第3回	基本的人権①：公共の福祉・憲法13条・表現の自由等
第4回	基本的人権②：精神的自由権・経済的自由権・社会権
第5回	統治機構：日本の統治機構の仕組み
第6回 AL 6	憲法（まとめ）：憲法のまとめ
第7回	民法総論（民法総則）：民法の目的と概要
第8回	物権法・債権法：民法における物権法・債権法
第9回	親族法・相続法：民法における家族像・相続の内容
第10回	民事訴訟法：民事の裁判手続
第11回 AL 6	民事法（まとめ）：民事法のまとめ
第12回	刑法総論：刑法の目的・解釈の方法
第13回	刑法各論：主要な犯罪に関する構成要件等
第14回	刑事訴訟法：刑事の裁判手続
第15回 AL 6	刑事法（まとめ）：刑事法のまとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	特に指定しない。毎回レジュメ資料を出す					
参考文献	特に指定しない					
事前学習(内容・時間)	次のシラバスの内容について予習する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	配布したレジュメ資料を確認する（2時間）					
フィードバックの方法	コメントペーパー提出後に授業で全体にコメントする					
備考	日常生活で見えない部分であるけれども、それぞれの法規がどのように関わっているのかを意識すること			オフィスアワー		出講日の授業の前後30分（オンライン）
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
デッサンと表現	中村 仁美	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE13201

科目の概要

観察による描画表現（デッサンやクロッキー）は、アートにおける本質の感受と、サイエンスにおける諸要素の分析的理解による、総体的・相互作用的な観察を行い、自分なりに対象を問い直して表現する営みである。本科目では、観察の多様性を学び、実技制作を通して、体験的に、看護に生かされる観察力と表現力を養うことを目的として、授業を実施する。

到達目標

- 観察の、多様なあり方を知ることができる。（知識・考え方）
- 自身を取り巻くものやことに対し、多様な見方をすることができる。（技能）
- 自分の観察したものやことに合わせて表現手段を選択し、描画表現をすることができる。（技術）

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス
第2回 AL 6	【想起画】描画表現における表現内容の種類
第3回 AL 6	【観察画1】観察の多様性① 視覚的正確性による描画表現とは何か
第4回 AL 6	【観察画2】観察の多様性② 視覚的正確性によらない描画表現とは何か
第5回 AL 6	【観察画3】観察の多様性③ 視覚的正確性によらない描画表現：存在感をかく
第6回 AL 6	【観察画4】観察の多様性④ 視覚的正確性によらない描画表現：概念をかく
第7回 AL 6	【観察画5】いのちをかく（植物）① 全体をかく
第8回 AL 6	【観察画5】いのちをかく（植物）② 部分をかく
第9回 AL 6	【観察画6】いのちをかく（動物）① 象徴的にかく
第10回 AL 6	【観察画6】いのちをかく（動物）② 瞬間をかく
第11回 AL 6	【観察画7】いのちをかく（人）① 他者をかく
第12回 AL 6	【観察画7】いのちをかく（人）② 自身をかく
第13回 AL 6	【観察画8】心が動くものをかく
第14回 AL 6	【観察画9】確認テスト
第15回	看護における観察

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	身の周りで次時に扱うモチーフを探し、観察しておく（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業の内容を踏まえ、身の周りのものを観察する（1時間）					
フィードバックの方法	提出された成果物を学生同士で相互鑑賞した後、講評をする					
備 考	スケッチブック、画材などについては、ガイダンスで連絡します（3,000円程度を予定）			オフィスアワー		授業終了後、Teamsのチャットなどで質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
茶道と香道の理論と表現	飯島 照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12201

科目の概要

本科目は、茶の湯の基礎を概観し、茶を「点てる」「飲む」という実践を行う。また季節感のある茶の湯のお菓子を、茶会のもてなしのためにデザインする。さらにお香の種類と基礎を学ぶ。茶道表現の理論的・実践的講義を通して、伝統芸術創造と将来への展望、そして何よりも看護の分野へ応用できるよう教授する。

到達目標

- 客の心得を理解し、述べることができる。
- 盆略点前を習得し、実践できる。
- 茶の湯・お香の基礎を学び、概要を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	茶の湯入門（茶道のこころ1）
第2回	茶の湯入門（茶道のこころ2）
第3回	茶についての基礎知識
第4回	茶道の成り立ち1
第5回	茶道の成り立ち2
第6回	茶道の基礎知識1（茶室と露地）
第7回	茶道の基礎知識2（茶花）
第8回	茶道の基礎知識3（茶席のお菓子）
第9回	茶道の基礎知識4（茶道具）
第10回	実技のための総論
第11回 AL 3	茶の湯基礎・割稽古（1）
第12回 AL 3	茶の湯基礎・割稽古（2）
第13回 AL 3	茶の湯の基礎・盆略点前（1）
第14回 AL 3	茶の湯の基礎・盆略点前（2）
第15回	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする

成績評価方法	小テスト（実技）50% 成果物 50%					
教科書	必要に応じてオンラインで資料等の配布をする					
参考文献	『茶の湯がわかる本』飯島照仁共著（淡交社）					
事前学習(内容・時間)	配布資料の確認（30分）					
事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習（30分）					
フィードバックの方法	課題・実技に関しては対面授業内で解説します					
備考	茶菓子代・香代5,000円（ふくさセットが必要な方は別途ふくさセット代4,000円）が必要になります			オフィスアワー		授業の前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生け花の理論と表現	小林 秀加	講義	1年次 前期	選択	1	30	KGE12202

科目の概要

この授業は、花に触れ、花の表情に気づき、命の尊さ・奥深さを学ぶことが目的である。実際に季節の花を活けることにより、花を活かすことを教授する。いけ花を通して自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知ってもらいたい。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等、実践を交えながら解説する。

到達目標

- 実践（技能・技術の習得）を通して生け花の本質を探り、作品を通して伝統芸術の根底にある日本的な心（知識・考え方）を表現できる。
- 季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え、いけ花の技能を生かし表現する能力・技術をつける。
- 個人の表現を通して自己を知り、他者の作品を眺めることで、自己の特性を知り、表現の幅をおおいに広げることが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生け花とは — 授業で何を学ぶのか（目的・内容・評価）。生け花とは、花を活ける過程を見せる（実践） —
第2回	花との対話 — 実践を通して花を活かす「活け花」（盛花）を学ぶ。道具について学ぶ —
第3回 AL 4	表現原理 — いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ —
第4回	生け花の誕生 — 花と人との関係を知り、その歴史を古代から現代まで探る —
第5回 AL 5	技と表現様式 — 壺に生ける生け方（投入）を実践。花の扱いについて学ぶ —
第6回	器との調和 — 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ。器による表現法を学ぶ —
第7回 AL 4	生け花の型① — 飾る場所を意識して花を活ける（斜主型・直主型） —
第8回	伝統行事の花 — 節句を中心に花との関係を知る・祭りとは① 葵祭と花 — 盛花の生け方
第9回 AL 4	生け花の型② — 飾る場所を意識して花を活ける（横主型・垂主型） —
第10回	敷板との調和 — 敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ・敷板を意識した空間表現 — 投入の生け方
第11回 AL 4	生け花の型③ — 飾る場所を意識して花を活ける（四方正面型） —
第12回	植物の効用 — 薬用としての植物を学ぶ — 季節をテーマにした作品
第13回	祭りとは② — 祇園祭と花 — 連鎖・株分けの作品
第14回	植物の染料 — 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える — 色を意識した作品
第15回 AL 5	いけ花作品の制作・展示・合評

成績評価方法	成果物 85% 定期試験（レポート） 15%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業での成果物の添削内容を踏まえ、次に生かせるよう学習する（1時間）					
フィードバックの方法	課題提出に対して、個々とやりとりしながら指導					
備 考	授業用物品（花はさみと剣山、花代等）は5,000円～10,000円程度が必要になります。詳細は別途お知らせします。			オフィスアワー		授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
書芸術の理論と表現	池田 方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字（漢字）と表音文字（仮名）があり、その書体には篆隷楷行草の五體、および仮名文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。このような書の美を歴史的に順を追って講義する。また古典各体の臨書をお手本にして書いてもらうことで、各筆の有する深い人格性や高い技芸力、詩魂や情操の結実した造形の跡を理解する力を付け、さらに自ら書写することの喜びを感じてもらよう講義する。

到達目標

- 書（詞章）の意味を考え、内容を味わうことにより感性を高め、書写能力を向上させる。
- 書（文字）の鑑賞力を向上させ、芸術的な視点から述べることができる。
- 実際に書くという行為の楽しさを知り、自娛の境地を体得し、自らの書に表すことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	（講義）書芸術概論
第2回	（実技）臨三体千字文
第3回	（講義）奈良朝写経
第4回 AL 6	（実技）臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第5回	（講義）平安朝三筆・三蹟
第6回 AL 6	（実技）臨空海・臨行成
第7回	（講義）平安朝仮名
第8回 AL 6	（実技）仮名いろは文字
第9回	（講義）鎌倉熊野懷紙
第10回 AL 6	（実技）臨篆書・臨隸書
第11回	（講義）墨蹟（禅の書）
第12回 AL 6	（実技）座右の銘
第13回	（講義）江戸の書
第14回 AL 6	（実技）詠七夕懷紙
第15回 AL 6	（講義）近現代の書 （実技）自由創作

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認しておく（30分）					
事後学習(内容・時間)	講義で配布した資料をしっかりと読むこと（30分）					
フィードバックの方法	作品は講評し、次回評価をお伝えします					
備考	筆ペン（太字用）の用意。受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけること。			オフィスアワー		授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語 I	毛利 郁子	演習	1年次 前期	必修	1	30	KGE11301

科目の概要

基礎的な文法と構文を説明し、テキストを用いて看護・医療分野における専門用語を教授する。英語の読解力を深めながら同時にListening, Writing, Speaking の4技能全てを向上させ、自分の考えを適切に英語で表現し、英語で意思疎通が図れるように指導する。学期末には医療関連の英語の文献を辞書や検索ツールを用いながら読んで理解し、英作文、医療現場での英会話ができるように講義する。

到達目標

- 医療英語の専門用語の覚え方や基礎的な語彙を身につける事により、医療関連の文献を読むことができる。
- 辞書や検索ツールを用いて医療分野の英語を日本語に訳し、理解することができる。
- 医療現場で想定される会話を英語で行い、患者に伝達したい事を英語で表現できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーション およびUnit1-1 First Visit to a Hospital (来院)
第2回 AL 3	Unit1-2 First Visit to a Hospital (来院)
第3回 AL 3	Unit2-1 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その1
第4回 AL 3	Unit2-2 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その2
第5回 AL 3	Unit3-1 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その1
第6回 AL 3	Unit3-2 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その2
第7回 AL 3	Unit4-1 Mr. Brown's Symptoms (問診1) その1
第8回 AL 3	Unit4-2 Mr. Brown's Symptoms (問診1) その2
第9回 AL 2	Unit5 Medical Checkup 1 (脈拍・血圧・体重の測定)
第10回 AL 2	Unit6 Medical Checkup 2 (採血・採尿)
第11回 AL 3	Unit7-1 Mr. Brown's Diagnosis (診断1) その1
第12回 AL 3	Unit7-2 Mr. Brown's Diagnosis (診断1) その2
第13回 AL 3	Unit8-1 Mr. Anderson's Symptoms (問診2) その1
第14回 AL 3	Unit8-2 Mr. Anderson's Symptoms (問診2) その2
第15回 AL 2	学期の復習 (Unit 1-8)

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid! English for Nursing』Akihiko Higuchi, John Tremarco (金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなどの教科書の予習(30分程度)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(1時間程度)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備考	辞書とノートを持参			オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ	毛利 郁子	演習	1年次 後期	必修	1	30	KGE11302

科目の概要

英語Ⅰでの学習を基盤とした更に応用的な看護・医療英語を講義する。Reading, Writing, Listening, Speakingの四技能をバランスよく授業に取り入れ、医療現場において英語でコミュニケーションを図れるように教授する。生活習慣病や脳卒中等の疾患や医療現場で使われる医療機器や薬について英語で理解し、患者に疾患・投薬・検査および検査結果等について英語で伝達できるように講義する。

到達目標

- 医療現場の様々な場面で見聞きする英語を理解し、日本語に変換する事ができる。また日本語を英語に変換する事ができる。
- 患者の気持ちを思いやり、不安を取り除いたり励ましたりする言葉を英語で書くことができる
- 患者に疾患や薬の説明をわかりやすく英語で説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーションと英語Ⅰの復習
第2回 AL 3	Unit9-1 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom（症状をより詳しく聞く）その1
第3回 AL 3	Unit9-2 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom（症状をより詳しく聞く）その2
第4回 AL 3	Unit10-1 Explaining Blood Test Results（診断2血液検査）その1
第5回 AL 3	Unit10-2 Explaining Blood Test Results（診断2血液検査）その2
第6回 AL 3	Unit11-1 How to Take Medicines（薬の説明）その1
第7回 AL 3	Unit11-2 How to Take Medicines（薬の説明）その2
第8回 AL 3	Unit12-1 Mrs. Johnson Feels Dizzy（問診3）その1
第9回 AL 3	Unit12-2 Mrs. Johnson Feels Dizzy（問診3）その2
第10回 AL 3	Unit13-1 An MRI Test（MRIを受ける）その1
第11回 AL 3	Unit13-2 An MRI Test（MRIを受ける）その2
第12回 AL 3	Unit14-1 Recommending an Operation（手術を勧める）その1
第13回 AL 3	Unit15 Post-operative Care（術後のコミュニケーション）
第14回 AL 2	学期の総復習1
第15回 AL 2	学期の総復習2

成績評価方法	定期試験（筆記）40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid! English for Nursing』Akihiko Higuchi, John Tremarco（金星堂）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなど教科書の予習（30分程度）					
事後学習(内容・時間)	授業の復習（1時間程度）					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備考	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする			オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話 I	池田美智子	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12301

科目の概要

医療現場における英語によるコミュニケーションを中心に、Listening とSpeaking を中心とした講義を行う。そのため、医療や看護に関わる語彙の習得、基本的な英会話パターンの習得、ペアやグループでの実践などを基本とする。また、将来、多様な文化的・言語的背景を待つ人々と接していくことを想定し、文化の違い等に配慮し、相手を包括的に理解してコミュニケーションを深めることを目指す。日常的な会話場面を中心に、的確に機能できる英語能力の基本を講義する。

到達目標

- テキスト内の役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述もできる。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業の進め方の説明とLesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて（その1）
第2回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて（その2）
第3回 AL 6	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて（その3）
第4回	Lesson 2 Registration 受付登録（その1）
第5回 AL 6	Lesson 2 Registration 受付登録（その2）
第6回	Lesson 3 Checking the Registration（その1）診察券を確認する
第7回 AL 6	Lesson 3 Checking the Registration（その2）診察券を確認する
第8回	Lesson 1～Lesson 3の復習
第9回	Lesson 4 Finding the Way院内案内（その1）
第10回 AL 6	Lesson 4 Finding the Way 院内案内（その2）
第11回	Lesson 5 Personal History 病歴（その1）
第12回 AL 6	Lesson 5 Personal History 病歴（その2）
第13回	Lesson 6 Daily Activities 生活習慣（その1）
第14回 AL 6	Lesson 6 Daily Activities 生活習慣（その2）
第15回	Lesson 4～Lesson 6の復習

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today? やさしい看護英語』 助川尚子編 成美堂					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容や単語について調べておく（45分）					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について、必ず復習する（45分）					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備考				オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ	池田美智子	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12302

科目の概要

ここで学ぶ英会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かせない表現が多く含まれ、看護の現場以外でも役立つものが多い。授業は、病院を舞台として、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に進める。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や検査及び薬についての説明や服用の指示など叙述や命令形を中心に講義する。

到達目標

- テキスト内の役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述もできる。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣、検査や与薬についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣（その1）
第2回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣（その2）
第3回 AL 6	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣（その3）
第4回	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について（その1）
第5回 AL 6	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について（その2）
第6回	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について（その1）
第7回 AL 6	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について（その2）
第8回	Lesson 7～Lesson 9復習
第9回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定（その1）
第10回 AL 6	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定（その2）
第11回	Lesson 11 Laboratory Specimens 検査用検体について（その1）
第12回 AL 6	Lesson 11 Laboratory Specimens 検査用検体について（その2）
第13回	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について（その1）
第14回 AL 6	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について（その2）
第15回	Lesson 10～Lesson 12の復習

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today? やさしい看護英語』助川尚子編 成美堂					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容や単語について調べておく（45分）					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について必ず復習する（45分）					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降課題の返却時に解説を行う					
備 考				オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12303

科目の概要

この授業は旅行でパリにきたYumiとパリに住むAlexとのやり取りを軸に、フランス語による自己紹介の表現や、日常生活に必要な会話の基礎が学べられるよう授業を進めます。それに伴い自分についての情報を話し書くための基本的なフランス語文法も教えます。またフランスの文化や歴史に関する映像を通し、フランス人の考え方や日常生活といった異文化理解が深められるような内容を講義します。

到達目標

- 自己紹介に関連したさまざまな表現を身に着け、日常生活にも役立つコミュニケーションをフランス語ですることができる。
- 自己紹介のために必要な基礎的な文法を習得することで、フランス語で自分についての情報を伝えるだけでなく書くこともできる。
- 文化に関するコラムや映像を通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【イントロダクション】①ガイダンス ②パリの街並みとフランス語
第2回 AL 6	【フランス語の音と綴り (1)】①フランス語と日本語の聞き比べ ②アルファベット ③略字
第3回 AL 6	【フランス語の音と綴り (2)】①語末の子音字 ②1音の母音字 ③鼻母音 ④2つ以上の母音字と子音字
第4回 AL 6	【日常よく使われる表現】①挨拶 ②受け答え ③呼びかけ ④お礼 ⑤お詫び ⑥依頼
第5回 AL 6	【国籍】①主語人称代名詞 ②動詞《être》「～です」 ③国籍 ④《語彙・実践》「さまざまな国籍」
第6回 AL 6	【名前・職業】①名前 ②職業 ③動詞《avoir》「持っている」 ④《文化》「多民族社会フランス」
第7回 AL 6	【年齢】①《語彙》「数字 (1-30)」 ②年齢の言い方 ③「私は～歳です」 ④《文化》「日本人は若作り？」
第8回 AL 6	【言語・人の形容】①《-er 動詞》 ②「私は～語を話します。」 ③《語彙》「言語」 ④形容詞の性数一致
第9回 AL 6	【物】①名詞の性数 ②不定冠詞 ③《que》「何？」 ④指示代名詞《ce (c')》 ⑤《語彙》「日用品I」
第10回 AL 6	【物の形容・趣味】①形容詞の位置 ②動詞《aimer》「好きである」 ③定冠詞 ④《語彙》「国名・趣味」
第11回 AL 6	【疑問文・不定冠詞と定冠詞】①3通りの疑問文 ②《実践》「不定冠詞から定冠詞に変換する表現」
第12回 AL 6	【居住地】①《où》「どこ？」を用いた様々な表現 ②動詞《habiter》「住んでいる」 ③住んでいる所
第13回 AL 6	【否定文】①否定形I ②《実践》「さまざまな動詞の否定文」 ③《文化》「フランスにおける日本語学習」
第14回 AL 6	【位置】①《語彙》「建造物・前置詞」 ②「～があります」 ③量の表現 ④《文化》「日本のマンガ・アニメ」
第15回 AL 6	【前期のまとめ】

成績評価方法	成果物（課題）45% 定期試験（筆記）40% 成果物（発音）15%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール!)』藤田裕二（朝日出版社）					
参考文献	授業中に紹介します					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい（30分）					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（1時間）					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次回の授業の最初にお返しします					
備考	発音と練習問題を毎回します。語学は大変ですが、まずはフランスという国の文化や伝統を楽しみながら学んで下さい			オフィスアワー		授業の終了後30分、教室で質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	—	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	講義	1年次 後期	選択	1	30	KGE12304

科目の概要

この授業は「フランス語Ⅰ」で用いた教科書の後半から始めます。パリを舞台にYumiとAlexとの間で交わされる会話を軸に、中級会話・文法を身に着けるために学びを発展させます。そして1つの技能に偏るのではなく、フランス語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を習得することを目指した授業を行います。また映像を通じてフランスの歴史や文化についての見聞を広められるような講義をいたします。

到達目標

- 会話における中級文法を習得することで、フランス語での簡単な物語を読むだけでなく、文章、手紙、メールを書くことができる。
- 自分の考えや欲求のみならず、状況説明や過去の出来事をフランス語で伝えるだけの会話力を獲得することができる。
- 映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【フランスの童話の世界】①フランスの18世紀 ②フランスの童話
第2回 AL 6	【パリでの日本食 (1)】①部分冠詞 ②状況に合わせた冠詞の使い方 ③《語彙》「食べ物と飲み物」
第3回 AL 6	【パリでの日本食 (2)】①定冠詞の縮約 ②《実践》「食いたい物とレストラン」 ③《文化》「レストラン」
第4回 AL 6	【パリの日本専門店 (1)】①所有形容詞 ②《語彙》「家族」 ③《実践》「人称代名詞を用いた家族構成」
第5回 AL 6	【パリの日本専門店 (2)】①人称代名詞の強勢形 ②《文化》「日本の生活様式化」
第6回 AL 6	【買い物 (1)】①指示形容詞《ce》 ②指示代名詞《celui》 ③《combien》「どれだけ？」
第7回 AL 6	【買い物 (2)】①比較級 ②《語彙》「日用品Ⅱ」 ③《実践》「理由の表現・値段」 ④《文化》「日本製品」
第8回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (1)】①命令形 ②中性代名詞《y》 ③《語彙》「曜日・月」 ④日時の表現
第9回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (2)】①補語人称代名詞 ②《実践》「直・間接補語」 ③《文化》「ジャパン・エキスポ」
第10回 AL 6	【天候】①代名動詞 ② 非人称 ③《語彙・実践》「天候・時刻」 ④形容詞の女性形 ⑤《文化》「気候」
第11回 AL 6	【美術館】①《qui》「誰？」 ②過去形Ⅰ ③《語彙》「衣服と色」 ④《実践》「対象物」 ⑤《文化》「親日」
第12回 AL 6	【バカンス (1)】①過去形Ⅱ ②否定形Ⅱ ③《comment》「どのように？」 ④《語彙》「乗り物」
第13回 AL 6	【バカンス (2)】①《実践》「目的地までの交通手段」 ②《文化》「フランスと日本のバカンス事情」
第14回 AL 6	【Yumiの帰国】①未来 ②《語彙》「季節と未来」 ③感嘆文 ④《実践》「予定」 ⑤《文化》「四季」
第15回 AL 6	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物（課題）45% 定期試験（筆記）40% 成果物（発音）15%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール!)』藤田裕二（朝日出版社）					
参考文献	授業中に紹介します					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい（30分）					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（1時間）					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次の授業の最初にお返しします					
備考	発音と練習問題を毎回します。語学は大変ですが、フランスの食文化やファッションなども含め楽しみながら学んで下さい			オフィスアワー		授業の終了後30分、教室で質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	—	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話 I	潘 建秀	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12305

科目の概要

中国語の入門クラス。前期の前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確認なものにできるように指導する。後期前半ではより複雑な会話を教授すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やすとともに文法を理解できるように指導する。

到達目標

- ピンインが正しく表記ができ、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳することができる。
- 授業で学んだ内容を活用し、中国語で簡単な文書の作成や、コミュニケーションをすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、中国語の特徴、発音の基本 ①声調 ②単母音
第2回	発音の基本 複合母音 子音①
第3回	発音の基本 子音② 鼻母音
第4回	発音の基本 声調の組み合わせ 発音の総合的な練習
第5回 AL 3	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文 ③「吗」疑問詞 ④名前の言い方（協働学習）
第6回	第一課 チャレンジ及びスキット 第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第7回 AL 3	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「的」（協働学習）チャレンジ及びスキット
第8回	中国文化紹介と中間試験及び解説
第9回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」 ③反復疑問詞
第10回 AL 3	第三課 ④副詞「也」と「都」（協働学習）チャレンジ及びスキット
第11回	第四課 ①場所をあらわす代名詞 ②存在をあらわす「在」 ③動詞の重ね型
第12回	第四課 ④省略疑問文を作る「呢」（協働学習）チャレンジ及びスキット
第13回 AL 3	第五課 ①数詞 ②量詞 ③「几」と「多少」
第14回	第五課 ④語気助詞「吧」（協働学習）チャレンジ及びスキット
第15回	中国文化紹介と期末試験及び解説

成績評価方法	定期試験（筆記及び実技）40％ 中間試験（筆記及び実技）30％ 小テスト 30％					
教科書	『中国語ポイント42』本間史、孟広学（白水社）					
参考文献	授業中に指示します					
事前学習(内容・時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく（1時間）					
事後学習(内容・時間)	毎回習った会話文を復習しておく（1時間）					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう			オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	—	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12306

科目の概要

中国語会話Ⅰを踏まえ、発音システムや基礎知識を固めながら実践的な中国語会話(医療系に重点を置き)を講義する。教員がリードして学生に中国語会話必要表現を朗読・暗記させながら、グループワークを通して場面別の会話を教授する。また、話題関連や場面に合わせて中国の文化・歴史・習慣及び医療・看護などの現状知識も紹介する。

到達目標

- 中国語発音スキルの必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、実践に活用できる。
- 場面別の実用的な中国語会話表現(医療系に重点を置き)と実践会話技能を習得できる。
- 中国の歴史・文化・習慣や医療・看護等の現状についての知識をある程度述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ガイダンス (学習注意事項等を説明)、自分の名前を中国語で読む・呼び合う練習・基本挨拶復習 (グループワーク)
第2回	中国語の「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように繰り返し音声練習し、暗唱・暗記できるようにする
第3回 AL 3	第一課：好久不见。你好吗？（日常挨拶・副詞+動詞・主語+述語・“吗?” 疑問文など）（グループワーク）
第4回 AL 3	第二課：你是中国人吗？（人称代詞・S+V+O・疑問代名詞疑問文1など）（グループワーク）
第5回 AL 3	第三課：你有健康保险证吗？（指示代詞・“的”の用法・疑問代名詞疑問文2と反復疑問文）（グループワーク）
第6回 AL 3	第四課：家里都有什么人？（数の数え方・方位名詞・存在文など）（グループワーク）
第7回 AL 3	第五課：请在那里稍等一下。（場所指示代詞・所在文・“在”の用法など）（グループワーク）
第8回 AL 3	第六課：会说一点儿。（可能を表す助動詞[能・会]・必要/当然[要・應該]を表す助動詞など）（グループワーク）
第9回 AL 3	第七課：请去检查示作检查吧。（願望を表す助動詞[想]・選択疑問文[AそれともB?]など）（グループワーク）
第10回 AL 3	第八課：你怎么了？（状態補語“得”・方向補語“来/去/上/下”・使役表現“讓”など）（グループワーク）
第11回 AL 3	第九課：请张开口！（結果補語[V+見/住]・可能補語[得/不]・進行表現[在+V]）（グループワーク）
第12回 AL 3	第十課：你吃过这种药吗？（二重目的語[S+V+O _i +O _d]・経験態[V+過]・完了態[V+了]）（グループワーク）
第13回 AL 3	第十一課：请把衣服放在那儿！（出現/消失の表現法・“把”字文・持続態[V+着]）（グループワーク）
第14回 AL 3	第十二課：病情比以前好多了。（比較の表現法[A比B～]・可能を表す助動詞2[可以+V]など）（グループワーク）
第15回	各種用語/表現の補充学習及び重点復習（身体部位用語・趣味表現・病名/病状・検査/治療用語など）

成績評価方法	定期試験（実技）60％ 小テスト 30％ 成果物 10％					
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田眞一（白帝社）					
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し、次回の内容を予習すること（30分）					
事後学習(内容・時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること（1時間）					
フィードバックの方法	宿題は授業外で確認・訂正し授業内で戻し説明します。小テストは授業内で解説します					
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう。			オフィスアワー		授業終了後30分、質問を受け付ける。随時メールでも受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語 I	裊 恵麟	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12307

科目の概要

韓国語に慣れ、韓国文化にも親しめる雰囲気の中で、韓国語の基礎となる発音や文法をしっかりと説明する。基礎的な会話、単語の発音練習、読み書きなどを中心に、韓国語であいさつや自己紹介などができるように講義する。

到達目標

- 知識：韓国語の成り立ち（「子音+母音」、「子音+母音+バッチム」）を説明できる
- 技能：基礎的な韓国語会話（基本あいさつや自己紹介など）ができる
- 技術：単語の意味や発音、読み書きができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	韓国文化の紹介と韓国語の成り立ち、基本挨拶など
第2回	韓国語の基礎1. 子音（基本）と母音（基本）
第3回	韓国語の基礎2. 子音（激音）と母音（基本）
第4回	韓国語の基礎3. 子音（濃音）と母音（基本）
第5回	2回から4回までの子音と母音についての小テストと関連内容（プリント配布）
第6回	韓国語の基礎4. 子音と母音（複合母音）
第7回	韓国語の基礎5. バッチム
第8回	韓国語の基礎6. 2文字のバッチム
第9回	6回から8回までの内容についての小テストと関連内容（プリント配布）
第10回	韓国語の基礎7. 発音の変化①
第11回	韓国語の基礎7. 発音の変化②
第12回 AL 3	単語を中心とした基礎1から7までの発音の練習 グループワーク
第13回	第1課 私は浅井ゆかりです。（文法「～は」について）
第14回	第1課 私は浅井ゆかりです。（文法「～です」について）
第15回 AL 4	総括 自己紹介 プレゼンテーション

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 定期試験(実技) 30% 小テスト 20% 成果物 10%					
教科書	『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』木内明 （国書刊行会）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく（30分）					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く（30分）					
フィードバックの方法	グループワークには教員も参加し、直接フィードバックを行う					
備考	恥ずかしいと思わず、話せると思って進んで発音し、積極的に授業に参加してください			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語Ⅱ	裊 恵麟	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12308

科目の概要

韓国語の基礎「話す、聞く、読む、書く」の4技能を中心に発展させる。自分に関する情報を発信し、質疑応答に答えたり、会話を発展させたりできるように教授する。韓国の歴史や文化に対する見聞を広める講義をする。

到達目標

- 知識：文法を説明できる
- 考え方：韓国の歴史と文化にクローズアップし、自分の意見を述べることができる
- 技能：質疑応答に答え、基本会話ができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	第2課 出身はソウルですか（文法「～が」について）
第2回	第2課 出身はソウルですか（文法「～ですか？」について）
第3回 AL 3	テーマ沿った会話（グループワーク）
第4回	第3課 図書館ではありません（文法「～ではありません」について）
第5回	第3課 図書館ではありません（文法「～ではありませんか？」について）
第6回	第4課 時間がありますか（文法「います/あります」について）
第7回	第4課 時間がありますか（文法「いません/ありません」について）
第8回 AL 4	学んだ文法を使いテーマに沿ったある事について作文、プレゼンテーションをする（2分程度）
第9回	第5課 インターネットをします（文法「します/しますか」について）
第10回	第5課 時間がありますか（文法「するがつく動詞」と「何」について）
第11回	第6課 貿易会社で働いています（文法「します/しますかの具体」について）
第12回	第6課 貿易会社で働いています（文法「います、あります/いません、ありませんの具体」について）
第13回 AL 4	学んだ文法を使いテーマに沿ったある事について作文、プレゼンテーションをする（3分程度）
第14回	韓国の歴史や文化について
第15回 AL 3	総括 定期試験（筆記・実技）、テーマに沿った会話と振り返り

成績評価方法	定期試験（筆記）40％ 成果物 30％ 定期試験（実技）30％					
教科書	『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』木内明（国書刊行会）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく（30分）					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く（30分）					
フィードバックの方法	グループワークには教員も参加し、直接フィードバックを行う					
備考	恥ずかしいと思わず、話せると思って進んで発音し、積極的に授業に参加してください			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語 I	中川 光	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12309

科目の概要

まず会話表現を習得してもらい、イタリア語に慣れてもらいます。さらにその表現の中にある言葉の決まりを少しずつ解説していきます。実用的な力も養ってもらおうと同時に、実際に使われている表現の中で文法が機能していることを説明します。イタリア語を通してわかる日本との考え方の違いなどにも触れていきます。

到達目標

- イタリア語の基本的な仕組みを理解し、簡単な文を作ることができる。
- イタリア旅行に使えるレベルの表現を発話できる。
- イタリア語を正しく音読・発音できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語の発音・読み方
第2回 AL 3	会話表現：挨拶・近況をたずねる表現・自己紹介/文法解説：名詞の性数
第3回 AL 3	会話表現：お礼の表現・声かけ・状況を表す/文法解説：冠詞
第4回 AL 3	会話表現：お詫び・値段の尋ね方 数字の言い方/文法解説：essere動詞と人称代名詞
第5回 AL 3	会話表現：希望を伝える・感情を伝える/文法解説：形容詞
第6回 AL 3	会話表現：予定を伝える・必要性を訴える/文法解説：規則動詞（are動詞）
第7回 AL 3	会話表現：好みを言う・ものを尋ねる/文法解説：不規則動詞（dovere、andare）
第8回 AL 3	会話表現：場所を尋ねる・有無を尋ねる/文法解説：不規則動詞（avere）
第9回 AL 3	会話表現：どれか尋ねる・手段を尋ねる/文法解説：指示代名詞・不規則動詞（fare）
第10回 AL 3	会話表現：所要時間を尋ねる・所有を尋ねる/文法解説：不規則動詞（volere）・所有形容詞
第11回 AL 3	会話表現：依頼する・許可を求める/文法解説：不規則動詞（potere）・目的代名詞
第12回 AL 3	会話表現：時間を尋ねる・曜日日付を言う/文法解説：再帰動詞
第13回 AL 3	会話表現：聞き返す・励ましの表現/文法解説：近過去
第14回 AL 3	会話表現：天候表現・困ったときの表現/文法解説：
第15回	学習事項のまとめ・総復習

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 小テスト 20% 成果物 30%					
教科書	『イタリア語がびっくりするほど身につく本』鶴田真子美著 あさ出版					
参考文献	各種伊和辞典					
事前学習(内容・時間)	事前に次回講義の会話表現を読んで筆写してみる（30分）					
事後学習(内容・時間)	学習した表現を声を出して読み書く（30分）					
フィードバックの方法	小テストは終了後にその場で解説する					
備考	反復練習が多くなるとは思いますが飽きないで取り組んでください			オフィスアワー		授業前後の30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12310

科目の概要

イタリア語の基本的な文法と語彙の復習をしながら、文章を読み、書き、聞き取り、話す能力を養成する。特に動詞の変化は文法の最重要事項なので徹底的に指導する。なお、各メディアを利用して、受講生のみなさんが興味を持てそうなイタリアの情勢を紹介し、語学プラス・アルファの授業を展開する。

到達目標

- つづり字を正確に発音できる。
- 平易な文章を読めるようになる。
- 平易な内容を聞き取れるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	近過去の復習
第2回	注意すべき近過去の復習
第3回	半過去の復習
第4回	注意すべき半過去の復習
第5回	遠過去の復習
第6回	注意すべき遠過去の復習
第7回 AL 6	過去時制のまとめ・小テスト；アクティブラーニング
第8回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り①
第9回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り②
第10回 AL 6	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト；アクティブラーニング
第11回	命令法
第12回	条件法
第13回 AL 6	接続法；アクティブラーニング
第14回	後期の内容の総復習・後期学科試験
第15回	後期学科試験の解答・解説

成績評価方法	定期試験（筆記）50％ 小テスト 30％ 成果物 20％					
教科書	『ア・ゾンゾ』一ノ瀬俊和（朝日出版社）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	週に1時間程度、単語調べなど					
事後学習(内容・時間)	例文・練習問題を音読し書きながら復習すること（1時間）					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点の上、解答・解説を配布する					
備 考				オフィスアワー	授業終了後10分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	神竹 道士	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12311

科目の概要

初めてドイツ語を学ぶ学生のための初級ドイツ語です。綴りと発音、名詞の性（男性・女性・中性）と数（単数・複数）、定冠詞と不定冠詞、動詞の人称変化など、最も基礎的な文法事項について講義します。

到達目標

- ドイツ語の綴りと発音についての基礎知識を習得し、ドイツ語の単語が正しく読めるようになる。
- ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の簡単な文章構造について理解する。
- 簡単な内容の文章をドイツ語で発信できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入：授業の概説、ドイツ語のアルファベット
第2回	ドイツ語の綴りと発音：母音と変母音
第3回	ドイツ語の綴りと発音：子音と外来語
第4回 AL 3	挨拶、曜日、季節、月の名
第5回 AL 3	数詞：基数と西暦
第6回	小テストの実施
第7回	動詞の現在人称変化：規則変化
第8回	動詞の現在人称変化：不規則変化
第9回 AL 3	sein 動詞の人称変化
第10回	名詞の性（男性・女性・中性）と定冠詞
第11回	名詞の性（男性・女性・中性）と不定冠詞
第12回 AL 3	haben 動詞の人称変化
第13回	名詞の単数形と複数形
第14回	定冠詞類と不定冠詞類
第15回	前期の学期末試験の実施と解説

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 小テスト 30%					
教科書	『プレーミエ ドイツ語総合読本 改訂版』神竹・國光・田島（白水社）					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	教科書の下調べ（1時間）					
事後学習(内容・時間)	既習事項の再確認（1時間）					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する					
備 考				オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12312

科目の概要

ドイツ語Ⅰを履修した学生、またはすでにドイツ語の基礎知識を備えている学生を対象にした授業です。疑問文（決定疑問文・補足疑問文）、否定文（全文否定・部分否定）、命令文、勧誘文など様々な文の種類、さらに動詞の時制（過去形・現在形・未来形・完了形）について講義します。

到達目標

- 相手の簡単な質問に対して、ドイツ語で適切に答えることが出来るようになる。
- 相手に何かして欲しい時、適切なドイツ語で表現することが出来るようになる。
- 過去・現在・未来の時間軸に沿って、適切にドイツ語で表現することが出来るようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入：授業の概説、ドイツ語の挨拶表現
第2回	人称代名詞の格変化
第3回	ドイツ語の語順
第4回	疑問文：決定疑問文
第5回	疑問文：補足疑問文
第6回	否定文：全文否定
第7回	否定文：部分否定
第8回	小テストの実施
第9回	命令文
第10回	勧誘文
第11回	動詞の三基本形
第12回	過去形と過去人称変化
第13回	未来形
第14回	現在完了形
第15回	後期の学期末試験の実施と解説

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ 小テスト 30％					
教科書	『プレーミエ ドイツ語総合読本 改訂版』神竹・國光・田島（白水社）					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	教科書の下調べ（1時間）					
事後学習(内容・時間)	既習事項の再確認（1時間）					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する					
備 考				オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

Ⅱ 專 門 基 礎 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを学ぶために、古典的な行動理論から現在注目されている理論まで幅広く教授する。現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、喫煙や運動といった具体的事例や疾患を例に教授する。人間の行動を包括的にとらえ考えさせるために心理学・社会学・教育学・保健学などの多領域の知見と理論を統合して、講義、演習などを組み合わせ、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、学生の理解度を深める。

到達目標

- 健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身に付け、説明できる。
- 健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解し、述べることができる。
- 古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、列挙できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 6	オリエンテーション・健康信念モデル
第2回	行動変容のためのコミュニケーション
第3回	オペラント条件付け・学習理論
第4回 AL 6	合理的行動理論・計画的行動理論
第5回	禁煙の行動科学ーどうしても煙草がやめられないー
第6回	エイズパンデミックー世界・アジア・日本ー行動科学的予防アプローチ
第7回 AL 3	HIVや性感染症予防について、必要な予防対策の立案
第8回 AL 3	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ
第9回	義足によるルワンダ支援
第10回	LGBTQの健康課題1
第11回	LGBTQの健康課題2
第12回	LGBTQの健康課題3
第13回	食行動とダイエット／タイプA行動特性ー忙しいのが好きなあなた／ソーシャルサポートネットワーク
第14回 AL 6	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題
第15回	いのちは誰のものか

成績評価方法	定期試験（レポート）100%					
教科書	『もっと知りたい！ 話したい！ セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 1巻』 日高庸晴（汐文社）					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習（内容・時間）	講義時のアナウンス等に応じて、情報収集や予習を行うこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を、次の講義時に全体で共有すると共に、講評します					
備 考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作など厳禁			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	△	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	フルイミエコ	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

この教科では「アートによる癒し」について、創造と享受の二方向から取り上げて説明します。特に学生自身が表現者としての喜びを実感しながら学ぶことを重視し、主に臨床美術の手法に基づく作品制作と作品を介したアートコミュニケーションを実施し、看護の場で生かせる感性と技術を教授します。

到達目標

- 学生がアートの役割と可能性について自分の言葉で説明できる知識を習得する。
- 学生が色や形など美術の造形を楽しみ、感じるままに表現することができる考え方と技術を習得する。
- 学生が自分の感性と学習した手法でアートを看護に活かせる技能を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	授業概論 ～癒しと芸術 看護とアートの関わりを考える、創造と享受 作品「アナログ画を描く」
第2回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (1) 臨床美術の理論 ～右脳モードで描く、作品「線と色で遊ぼう」
第3回	絵は誰でも描ける？ (2) 臨床美術の理論 ～QOLを高めるアート、十人十色の表現
第4回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (3) 臨床美術の現場から ～認知症、高次脳機能障害 演習「三原色のクロッキー」
第5回	絵は誰でも描ける？ (4) アートとアートセラピー、アートは誰のもの？
第6回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (5) モチーフを感じる、作品「りんごの量感画」
第7回	絵は誰でも描ける？ (6) 患者の表現の変化
第8回 AL 5	アートコミュニケーション (1) I (アイ) メッセージの大切さ 作品「パステル色の空」
第9回 AL 3	アートコミュニケーション (2) 観賞会をしてみよう 作品「パステル色の空」
第10回	アートコミュニケーション (3) 制作過程でのコミュニケーション
第11回 AL 5	アートコミュニケーション (4) 信じるということ 作品「紅葉を描く」
第12回 AL 3	アートコミュニケーション (5) 観賞会をしてみよう 作品「紅葉を描く」
第13回 AL 5	看護におけるアートの役割 (1) こどもとアート、障害者とアート 作品「いろいろ田んぼ」
第14回 AL 5	看護におけるアートの役割 (2) いてくれてありがたいの精神 作品「モザイクリズム」
第15回 AL 3	まとめ～癒しと芸術 今を生きるアート

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』宇野正威、芸術造形研究所編（金剛出版発行）、『臨床美術のすすめ』日本臨床美術協会編（日本地域社会研究所発行）					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実技作品画像の提出、小テスト（2時間）					
フィードバックの方法	授業の時間内に成果物についてコメント。質問は次回の授業にて回答する。					
備 考	画材は指定のものを使うこと。指示のあるものは各自が事前に用意すること。			オフィスアワー		Teamsにて随時受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	須田あゆみ	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11102

科目の概要

人は栄養素なくして生きていくことはできない。適正な栄養摂取と食生活は、健康の維持・増進、および疾病の予防・治療・増悪防止の基本であり、すべての人に必要な事である。本授業では、生命維持における栄養の意義、栄養素や食品の栄養的特徴、ライフステージと食、生活習慣病と食、疾病と食について講義する。また、栄養ケア・マネジメント、チーム医療について

到達目標

- 健康と栄養の関係を理解し、人生各期の栄養の特徴を述べることができる。
- 主な病態の栄養管理の特徴と栄養療法を理解し、説明することができる。
- 栄養アセスメントの基礎となるBMIの判定や標準体重の算出ができる。その他、エネルギーや食塩量の算出ができる。
- 栄養ケアの場における多職種チームアプローチの重要性を理解した上で、看護専門職の役割について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	第1章：栄養学を学ぶということ、自分にとって食事はどのような位置付けか（ディスカッション）
第2回	第2章：栄養素の種類と働き（糖質、脂質、タンパク質）
第3回	第2章：栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル・食物繊維・水）
第4回	第3章：食物の消化・吸収
第5回	第3章：栄養素の代謝・排泄
第6回	第4章：エネルギー代謝
第7回 AL 2	第5章：食事と食品（日本人の食事摂取基準）、第10章：食事バランスガイド
第8回	第6章：栄養ケア・マネジメント
第9回 AL 2	第7章：栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、事例検討
第10回	第8章：ライフステージと栄養（乳児期・幼児期・学童期・思春期）
第11回	第8章：ライフステージと栄養（成人期・妊娠期・高齢期）
第12回	第9章：臨床栄養（経腸栄養・静脈栄養法・病院食）
第13回	第1～12回の復習と補足
第14回 AL 2	第9章：臨床栄養（疾病・症状別栄養療法：糖尿病、循環器疾患）
第15回 AL 2	第9章：臨床栄養（術後の栄養管理、在宅療養の栄養管理、がん患者の栄養・食事療法）、第10章：全体のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能（3）』中村丁次（医学書院）他適宜資料を配布します。					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち（4）臨床栄養学』關戸啓子（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（1回2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業を行った場所について、疑問に思ったことや理解しきれなかったことについて調べておく（1回2時間）					
フィードバックの方法	定期試験終了後、解答を配布します					
備考	理解度を把握するために、質問や感想を記入してもらいます（評価外）			オフィスアワー		対面授業時は授業の前後30分、教室で質問を受け付ける。遠隔授業時はTeamsで随時質問を受け付ける。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

倫理学の基本的な概念・原理を解説し、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期医療、生殖補助医療、遺伝子医療といったテーマを扱い、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題に関して、背景知識と判断材料を提供しつつ、学生が主体的に問題を検討し、意見を交換する場を設ける。こうしたことを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うよう授業を行う。

到達目標

- 倫理に関する知識を深め、説明することができる。
- 倫理が問われる医療諸問題について、さまざまな見解を認識し、説明することができる。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回 AL 2	倫理学の考えかたⅠ ―基本編
第3回 AL 2	倫理学の考えかたⅡ ―さまざまな倫理学説
第4回 AL 2	インフォームド・コンセントと看護の視点
第5回 AL 2	道徳的想像力
第6回 AL 2	安楽死・終末期の治療停止をめぐる
第7回 AL 2	脳死と臓器移植
第8回 AL 2	人工妊娠中絶をめぐる
第9回 AL 2	出生前診断と選択的中絶
第10回 AL 2	文献を読んで考える ―レポート執筆のためのワークショップ
第11回 AL 2	生殖補助医療Ⅰ ―不妊治療をめぐる状況
第12回 AL 2	生殖補助医療Ⅱ ―AIDと代理出産の問題
第13回 AL 2	最先端医療の倫理
第14回 AL 2	医療とは ―看護の見地からの意味
第15回 AL 2	死生学の課題

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ 成果物（各回の小レポート）40％					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。資料は各回に配布する					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマに関連する文献を紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ―宗教なき時代に生死を語る』（京都大学学術出版会）の一読を薦める。					
事前学習(内容・時間)	シラバスに提示した各回のテーマについて、事前に情報を集めておく（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義時に紹介した文献を読み、理解を深める（2時間）					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては、次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする					
備考	生命倫理は自ら考え、対話することによって初めて自分のものになります。みなさんの主体的・積極的な取り組みを期待します			オフィスアワー		講義時の前30分。またTeamsの「チャット」を利用した質問は随時受け付けます。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論 I	巽 圭太	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

この科目は、疾病時に起こる形態及び機能的な変化の状況を理解するための最も基礎となる医学で、人体を構成する基本単位の細胞とその組み合わせの組織、及び人体各部位の構造と機能について教授する。具体的には、各器官系の主要な器官の形態と機能を理解し、今後、疾病について学習するのに必要な「正常な人体」の基礎知識を講義する。

到達目標

- 主要な器官の名称と構造を系統的に説明できる。
- 主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に説明できる。
- 主要な医学用語を的確に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに ～医学を学ぶにあたって、この科目の学修方法・成績評価方法～
第2回	循環器系 1
第3回	循環器系 2
第4回	循環器系 3
第5回	循環器系 4 / 小テスト 1
第6回 AL 3	循環器系 5
第7回	循環器系 6
第8回	循環器系 7
第9回	呼吸器系・血液 1 / 小テスト 2
第10回	呼吸器系・血液 2
第11回	呼吸器系・血液 3
第12回	呼吸器系・血液 4
第13回	呼吸器系・血液 5 / 小テスト 3
第14回	呼吸器系・血液 6
第15回	呼吸器系・血液 7

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 小テスト 30%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」「疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学」』（医学書院）、『病気がみえる「vol.2 循環器」「vol.4 呼吸器」』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』（メディックメディア）、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）					
参考文献	『生体のしくみ 標準テキスト（第3版）』（医学映像教育センター）、『得意になる解剖生理』美田誠二（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井建雄、橋本尚詞（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤達夫監修（講談社）					
事前学習（内容・時間）	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする（1時間）					
事後学習（内容・時間）	講義・各種テストの復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す（1時間）					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ	片山 泰一	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に消化器系、泌尿器系について、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	人体構造機能論Ⅱを学習するために（基礎知識・総論）
第2回	口・咽頭・食道の構造と機能（1）（口の構造と機能）
第3回	口・咽頭・食道の構造と機能（2）（咽頭、咀嚼、嚥下）
第4回	口・咽頭・食道の構造と機能（3）（食道の構造、組織と機能）、（小テスト1）
第5回	腹部消化管の構造と機能（1）胃の構造と機能
第6回	腹部消化管の構造と機能（2）小腸・大腸の構造と機能
第7回	腹部消化管の構造と機能（3）栄養素の消化と吸収-1
第8回	腹部消化管の構造と機能（4）栄養素の消化と吸収-2、（小テスト2）
第9回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（1）膵臓の構造と機能
第10回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（2）肝臓・胆嚢の構造と機能
第11回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（3）肝臓の機能・腹膜、（小テスト3）
第12回	泌尿器系の構造と機能（1）腎臓の構造と機能-1
第13回	泌尿器系の構造と機能（2）腎臓の構造と機能-2
第14回	泌尿器系の構造と機能（3）排尿路の構造と機能
第15回	泌尿器系の構造と機能（4）体液の調節、（小テスト4）

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 小テスト 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」2022改定版、「疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学」』（医学書院）					
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』（メディックメディア）、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）、『得意になる解剖生理』美田誠二（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井建雄、橋本尚詞（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤達夫監修（講談社）、『カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）』コメディカルサポート研究会（翻訳）（メディカルサイエンスインターナショナル）、『人体の解剖生理学』遠山正彌他（金芳堂）、『わかりやすい解剖生理』Faller, Schunke著 石川春律他訳（文光堂）					
事前学習（内容・時間）	上記教科書「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする（1時間）					
フィードバックの方法	課題については、授業中ないし、Webにてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい			オフィスアワー		質問は授業の前後30分ないしTeamsのチャットにて受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅲ	片山 泰一	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11106

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特にについて運動器系、神経系、感覚器系、内分泌系および生殖器系の構造と機能を理解し、疾病について学習する前に必要な「正常な人体の構、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	骨格とはどのようなものか？ 人体の骨格総論
第2回	骨格筋（構造と機能・神経支配・筋の収縮）
第3回	体幹の骨格と筋（脊柱・胸郭、肺胸部・腹部の筋）
第4回	上肢の骨格と筋（上肢帯・自由上肢の骨格、上肢帯・上腕・前腕の筋群）
第5回	下肢の骨格と筋（下肢帯・骨盤・自由下肢の骨格、下肢帯・大腿・下腿の筋群）
第6回	頭頸部の骨格と筋（神経頭蓋・内臓頭蓋、頭頸部の筋）（小テスト1）
第7回	神経系の構造と機能（1）概論・自律神経による調節
第8回	神経系の構造と機能（2）脊髄と脳、脊髄神経と脳神経
第9回 AL 2	神経系の構造と機能（3）脳の高次機能、上行・下行伝導路（小テスト2）
第10回	感覚器の構造と機能（1）眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚
第11回	感覚器の構造と機能（2）耳の構造と平衡感覚、味覚と嗅覚、痛み（小テスト3）
第12回	内分泌系による調節
第13回	全身の内分泌腺と内分泌細胞
第14回	ホルモン分泌の調節
第15回	生殖器系の構造と仕組み（男性生殖器・女性生殖器、受精と胎児の発生）（小テスト4）

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 小テスト 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」2022改定版、「疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学」』（医学書院）					
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』（メディックメディア）、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）、『得意になる解剖生理』美田誠二（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井建雄、橋本尚詞（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤達夫監修（講談社）、『カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）』コメディカルサポート研究会（翻訳）（メディカルサイエンスインターナショナル）、『人体の解剖生理学』遠山正彌他（金芳堂）、『わかりやすい解剖生理』Faller, Schunke著 石川春律他訳（文光堂）					
事前学習（内容・時間）	上記教科書「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする（1時間）					
フィードバックの方法	課題については、授業中ないし、Webにてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい			オフィスアワー		質問は授業の前後30分ないしTeamsのチャットにて受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学 I	巽 圭太	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11107

科目の概要

治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、循環器、呼吸器、消化器の代表的な疾患について、疾患の成り立ちやその病理・病態像を、正しく認識することを目的とする。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒後社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”の習得を目指す。

到達目標

- 治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、疾患の成り立ちやその病理・病態像の知識を述べることができる。
- 各器官系において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、診断の基準、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに、総論（細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復）
第2回	循環器疾患 1
第3回	循環器疾患 2
第4回	循環器疾患 3
第5回	循環器疾患 4
第6回	循環器疾患 5
第7回	呼吸器疾患 1／小テスト 1
第8回 AL 3	呼吸器疾患 2
第9回	呼吸器疾患 3
第10回	呼吸器疾患 4
第11回	消化器疾患 1
第12回	消化器疾患 2／小テスト 2
第13回	消化器疾患 3
第14回	消化器疾患 4
第15回	消化器疾患 5

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ 小テスト 30％					
教科書	「人体構造機能論 I」で購入した教科書。『病気がみえる「vol. 1 消化器」』（メディックメディア）					
参考文献	関連科目で購入済みの教科書					
事前学習（内容・時間）	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義・各種テストの復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す（2時間）					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備 考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	△	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	白井 文恵	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

微生物が原因で起こる感染症という疾病について、および、感染に対する生体の防御機構である免疫について講義する。また、感染症を予防するために必要な知識について講義する。

到達目標

- 感染症の原因である病原微生物の特徴や感染症という病気の特徴を理解し、説明できる。
- 感染に対する生体防御の仕組みについて理解し、説明できる。
- 看護職として感染症を予防するための行動を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業オリエンテーション 微生物と微生物学
第2回	細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質
第3回	感染と感染症
第4回	感染源、感染経路からみた感染症
第5回	感染に対する生体防御機構（自然免疫）
第6回	感染に対する生体防御機構（獲得免疫）
第7回	滅菌と消毒、感染症の検査と診断
第8回	感染症の治療
第9回	主な病原微生物による感染症（呼吸器感染症）
第10回	主な病原微生物による感染症（消化器感染症）
第11回	主な病原微生物による感染症（性感染症）
第12回	主な病原微生物による感染症（体表部位感染症）感染症の現状と対策、感染看護（課題提示）
第13回 AL 2	感染症の現状と対策（個人あるいはグループ討論と発表）
第14回 AL 2	感染看護（個人あるいはグループ討論と発表）
第15回	講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学』南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法、齋藤光正、大野真治（医学書院）					
参考文献	講義中に適宜提示します					
事前学習（内容・時間）	教科書の授業範囲を読む（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義の内容を確認する（1時間）					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います					
備 考				オフィスアワー	メールにて受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	△	—	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康 I	大本 友香	演習	1年次 前期	選択	1	30	KSB13301

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて主に下肢の骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実施することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し、コミュニケーション力・チーム力及びリーダーシップ力を高め発揮できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動①
第2回 AL 3	殿部の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動②
第3回 AL 3	殿部の筋肉②・脚後面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動③
第4回 AL 3	脚後面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動④
第5回 AL 3	脚前面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第6回 AL 3	脚前面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第7回 AL 3	下肢の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操①
第8回 AL 3	下肢の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操②
第9回 AL 3	脚サイドの筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操③
第10回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操④
第11回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操⑤
第12回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節③/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操⑥
第13回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 3	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60％ 小テスト 40％					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社）、 『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝（西東社）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装（前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない）、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなものを用意。			オフィスアワー		授業後15分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康Ⅱ	大本 友香	演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13302

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて主に上肢の骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実施することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- ひとりで簡単な運動の指導が出来るようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動、動きの仕組み/有酸素運動①
第2回 AL 3	背中の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動②
第3回 AL 3	背中の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動③
第4回 AL 3	腹部の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動④
第5回 AL 3	腹部の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第6回 AL 3	腹部の筋肉と関わる骨、関節③/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第7回 AL 3	胸の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操①
第8回 AL 3	胸～首の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操②
第9回 AL 3	腕の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操③
第10回 AL 3	ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操④
第11回 AL 3	ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑤
第12回 AL 3	ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑥
第13回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 3	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60％ 小テスト 40％					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社）、 『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝（西東社）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装（前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない）、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなものを用意。			オフィスアワー	授業後15分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理 I	吉田 浩	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

この授業ではコンピュータを使用した情報の取り扱いに必要な基本的な知識と技術を概説し、情報をまとめる技術を実技演習を通して修得させる。また情報をやり取りする時に気を付けなければならないセキュリティの知識やマナーも合わせて説明し、安全なコミュニケーションのあり方を考察させる。

到達目標

- 情報を伝え合うツールとしてのコンピュータを正しく操作できる。
- 基本ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint)を使って情報をまとめて作成できる。
- ネットも含めたコンピュータによるコミュニケーションにおいて必要な知識やマナーを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コンピュータの基本操作その1 / Wordの基礎 -テキスト入力-
第2回	コンピュータの基本操作その2 / Wordの基礎 -テキスト入力の応用-
第3回	コンピュータの応用操作その1 / Wordの基礎 -文章のレイアウト
第4回	コンピュータの応用操作その2 / Wordの基礎 -表の操作
第5回	ネットワークのマナーその1 / Wordの基礎 -オートシェイプ-
第6回	ネットワークのマナーその2 / Wordの基礎 -アプリケーションとの連携-
第7回	メディアリテラシー / Excelの基礎 -データ入力の基礎-
第8回	情報セキュリティその1 / Excelの基礎 -データ入力の応用
第9回	情報セキュリティその2 / Excelの基礎 -表のレイアウト
第10回	情報セキュリティその3 / Excelの基礎 -数式の計算とグラフの作成
第11回	プレゼンテーションのポイント1 / Power Pointの基礎 -スライド作成-
第12回	プレゼンテーションのポイント2 / Power Pointの基礎 -スライドのデザイン
第13回	プレゼンテーションのポイント3 / Power Pointの基礎 -スライドの画面転換の効果
第14回 AL 4	プレゼンテーションについて考える / Power Point -スライドショーを作成する、プレゼンテーション資料作成
第15回 AL 4	プレゼンテーション

成績評価方法	成果物 50% 小テスト 50%					
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office365®・Office 2019対応』（n o a 出版）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	前回の授業の内容を復讐し習得しておくこと（1時間）					
事後学習(内容・時間)	毎回の授業時に復習用の課題（小テスト）を出題するので、それらに回答し提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	提出された課題にコメントをつけて返却する					
備考	授業に対する主体的な態度を望みます			オフィスアワー		授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ	吉田 浩	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に「Power Point」を活用したプレゼンテーションが最終目標です。プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような“プレゼン”としてのメッセージを各自が整理しまとめ、それらを伝えるためのスライド（発表資料）制作に必要な方法論をポイントを絞って指導します。

到達目標

- ブレインストーミングを通じて、伝えるべき情報を整理し、それらをまとめられる。
- プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行う方法を理解し、発表資料を作成することができる。
- 聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行える。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説）
第2回 AL 2	プレゼンテーションの準備1（アイデアを提案する）／ブレインストーミング
第3回 AL 2	プレゼンテーションの準備2（独創的なアイデアとは）／ブレインストーミング
第4回 AL 2	プレゼンテーションの準備3（中心となるメッセージ）／ブレインストーミング
第5回	プレゼンテーションの準備4（意味のあるプレゼン）
第6回	プレゼンテーションの資料制作1（物語の演出）
第7回	プレゼンテーションの資料制作2（意思を伝える方法）
第8回	プレゼンテーションの資料制作3（スライドデザイン＝デザインとデコレーション）
第9回	プレゼンテーションの資料制作4（スライドデザイン＝引用句と余白）
第10回	プレゼンテーションの資料制作5（スライドデザイン＝コントラスト・反復）
第11回 AL 4	プレゼンテーションの実践1（ミニプレゼンの実施）
第12回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第13回 AL 4	プレゼンテーションの実践2（ミニプレゼンの実施）
第14回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第15回 AL 4	最終プレゼンテーションと総評／プレゼンテーション

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します					
事前学習(内容・時間)	スライドデザインに必要な資料収集（2時間）					
事後学習(内容・時間)	スライドデザインの修正作業（2時間）					
フィードバックの方法	スライドの提出及びミニプレゼンの後、個別に発表内容について指導します					
備考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	△	—	—	○	—

Ⅲ 專 門 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅠ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義・演習	1年次 後期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

ホスピタルアートとは。医療現場での役割や活動の目的を講義する。ホスピタルアートの具体的な業務である、理念の顕在化、業務改善、社会的包摂、それぞれの事例から総合的な概要を説明する。その上でホスピタルアートが持つセルフカウンセリングの役割を重点的に教授し、芸術による自己のメンテナンス、発想の転換の技術を身につける。それは痛みを抱えた患者さんに寄り添う際の実践力となる。

到達目標

- 様々なホスピタルアートの事例を知ることによって既成概念に囚われない問題解決の技術を身につける。
- 写真を通じて自己表現することでの内側にある自己の声に耳を傾け、セルフカウンセリングとしての写真技術を習得する。
- クラスメイトの自己表現に触れることで、その多様性を知り、目に見えない患者さんの心に寄り添うための想像力を磨き表現力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり ナイチンゲールの看護覚書から
第2回	看護と芸術 心の「痛み」と芸術表現
第3回	病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化（事例紹介）
第4回	病院に於けるアートの役割 ②業務改善（事例紹介）
第5回	病院に於けるアートの役割 ③社会包摂（事例紹介）
第6回	写真で自己を表現する 講義
第7回	写真時自己を表現する 課題説明
第8回	作品制作①
第9回	作品制作②
第10回 AL 4	作品講評①
第11回 AL 4	作品講評②
第12回 AL 4	作品講評③
第13回 AL 3	ニッチに飾る作品を作る チーム
第14回 AL 3	ニッチに飾る作品を作る チーム
第15回 AL 4	作品講評

成績評価方法	成果物 50% 定期試験（レポート）50%					
教科書	特になし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子（言叢社）					
事前学習（内容・時間）	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する（2時間）					
事後学習（内容・時間）	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる（2時間）					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します			オフィスアワー		Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学概論	北島 洋子	講義	1年次 前期	必修	2	30	KSP11101

科目の概要

基礎看護学概論は、看護の初学者が専門職としてキャリア発達を遂げていくための最初のステップとして、看護について考える重要な科目である。本科目においては、看護の対象者、看護専門職、看護の提供の仕組み等の看護に関する主要な概念（Concept）について広く概観し、看護活動の基盤として重要な倫理観や看護師の臨床判断の基盤となる気づく力を修得し、社会から必要とされる看護の役割と責務についての理解を深め、「看護とは何か」という問に対する学生自身の探求を円滑に深めることができるよう学習を支援する。

到達目標

- 看護における主要な概念（Concept）とその意味、および概念間の関連について説明できる。
- 看護師の臨床判断の基盤となる思考パターンについて説明し、自身の気づく力を伸長することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 科目の位置づけと学習する意義と目的 看護・ケアとは
第2回 AL 2	看護のなりたち
第3回 AL 2	看護の対象者（1） 人間・健康・環境
第4回 AL 2	看護の対象者（2） 人間・健康・環境
第5回 AL 2	看護の提供者（1） 看護実践の基盤 専門職の思考法
第6回 AL 2	看護の提供者（2） 看護実践の原則
第7回 AL 2	看護の提供者（3） 看護倫理
第8回 AL 2	看護の提供者（4） 医療安全への取り組み
第9回 AL 2	看護の提供の仕組み（1） 看護マネジメント
第10回 AL 2	看護の提供の仕組み（2） 保健医療福祉サービス
第11回 AL 2	看護の提供の仕組み（3） 法律・医療保険制度と介護保険制度・看護教育制度
第12回 AL 2	看護専門職の活躍（1） キャリア発達 専門看護師・認定看護師
第13回 AL 3	看護専門職の活躍（2） 国際看護・災害看護
第14回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力
第15回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学概論 第5版 看護追求へのアプローチ』田中幸子（医歯薬出版株式会社）、 『ケアとはなにか 看護・福祉で大切なこと』村上靖彦（中央公論新社）					
参考文献	『ケアの本質—生きることの意味』ミルトン・メイヤーロフ（みゆる出版）					
事前学習（内容・時間）	テキストの講義箇所を熟読し、準備して講義に臨む（2時間）					
事後学習（内容・時間）	『ケアとはなにか 看護・福祉で大切なこと』の通読と要約（2時間）					
フィードバックの方法	課題へのフィードバックはルーブリックを参照とし、講義中に必要に応じて説明を加える					
備考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護理論	北島 洋子	講義	1年次 後期	必修	1	15	KSP11102

科目の概要

看護理論は看護における知識を体系化し、看護に関連した現象をより明確に記述・説明・予測するための枠組みであり、より望ましい看護実践を可能にするため開発され発展してきた。ここでは看護理論および中範囲理論について事例を通して学習し、看護の展開における対象理解と対象者の持てる力を導き出す看護援助を考えるための基礎的能力を開発するための学修を支援する。

到達目標

- 看護学を構成する主要概念について説明できる。
- 看護理論と看護に関連する諸理論について説明できる。
- 看護専門職を志向し、自身の考える看護について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 看護学を構成する主要概念と看護理論
第2回 AL 3	代表的な看護理論①
第3回 AL 3	代表的な看護理論②
第4回 AL 3	代表的な看護理論③
第5回 AL 3	看護現象を理解するための諸理論①
第6回 AL 3	看護現象を理解するための諸理論②
第7回 AL 3	看護学の発展とEvidence Based Nursing
第8回 AL 2	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学の概念と理論』野嶋佐由美（日本看護協会出版会） 『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン（日本看護協会出版会）					
参考文献	『看護覚え書き』フロレンス・ナイティンゲール（日本看護協会出版会）					
事前学習（内容・時間）	教科書の授業範囲のページを熟読し、割り当てられた課題に取り組む（2時間）					
事後学習（内容・時間）	『看護の基本となるもの』を通読し要約する（2時間）					
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは課題へのコメントや講義内の対話により適宜行う					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護コミュニケーション論	北島 洋子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護の対象者とその家族は日常とは異なる環境や状況の中にあるため、看護者として関わりを持つとき専門的な高いコミュニケーション能力が求められる。本科目においてはコミュニケーションを構成する要素とプロセスを理解し、看護実践の基盤となる援助の人間関係を築くための基礎的な知識とスキルを身につけ、個々の学生が自身の力でコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学習を支援する。

到達目標

- 自己理解と他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
- 社会の一員として必要な言葉遣いやマナーとチームで活動するために必要な基本的なスキルを身につける。
- 看護専門職として対象者と関係構築する際の素地となる気づく力を養う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス コミュニケーションを学ぶ意味 コミュニケーションを構成する要素とプロセス
第2回 AL 2	自分とのコミュニケーション (1) 自己理解 他者理解 自己受容
第3回 AL 2	自分とのコミュニケーション (2) 自己開示 自己表現 アサーティブコミュニケーション
第4回 AL 2	社会人としてのコミュニケーション 社会人基礎力 マナー 大人の語彙力
第5回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (1) 多職種連携 チームワーク コミュニケーションエラー
第6回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (2) コミュニケーション障害と看護
第7回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (3) リフレクション プロセスレコード
第8回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (4) コーチング
第9回 AL 3	看護専門職としてのコミュニケーション (5) コーチング
第10回 AL 2	臨地実習におけるコミュニケーション (1) チーム活動 リーダーシップ メンバーシップ
第11回 AL 2	臨地実習におけるコミュニケーション (2) 挨拶、報告・連絡・相談
第12回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (3) カンファレンス
第13回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (4) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度
第14回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (5) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度
第15回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (6) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I』有田清子他（医学書院）					
参考文献	講義時適宜提示する					
事前学習（内容・時間）	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめ、自分に置き換え考えてみる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる（1時間）					
フィードバックの方法	成果物に対するフィードバックやコメントは授業中に対話しながら解説する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅰ	平野加代子 基礎看護学教員	講義・演習	1年次 前期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、実習室という臨床を模した学習環境に身をおき、講義と演習を組み合わせた主体的学習ができるよう教授する。

到達目標

- 原理原則に基づいた看護技術を提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護技術を計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護技術を展開することができる。
- 対象の生活行動を整えることの意義を理解し、その基本的な実践方法を修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス
第2回	看護技術を実施するために基盤となること（講義）
第3回	観察の技術（講義）
第4回	感染を防止するための基本技術①〔スタンダードプリコーション〕（講義）
第5回 AL 3	感染を防止するための基本技術②〔スタンダードプリコーション〕（演習）
第6回	療養生活を整えるための援助技術①（講義）
第7回 AL 3	療養生活を整えるための援助技術②〔ベッドメイキング〕（演習）
第8回 AL 3	療養生活を整えるための援助技術③〔ベッドメイキング〕（演習）
第9回	活動と休息に関する援助技術①〔活動と休息に関する技術〕（講義）
第10回 AL 3	活動と休息に関する援助技術②〔体位変換 水平移動、側臥位、長坐位、座位〕（演習）
第11回 AL 3	活動と休息に関する援助技術③〔体位変換 安楽な体位、ポジショニング〕（演習）
第12回 AL 3	活動と休息に関する援助技術④〔移乗・移送〕（演習）
第13回 AL 3	療養生活を整えるための援助技術④〔臥床患者のシーツ交換〕（演習）
第14回 AL 3	療養生活を整えるための援助技術⑤〔臥床患者のシーツ交換〕（演習）
第15回	清潔に関する援助技術①（講義）
第16回	清潔に関する援助技術②（講義）
第17回 AL 3	清潔に関する援助技術③〔足浴〕（演習）
第18回 AL 3	清潔に関する援助技術④〔足浴〕（演習）
第19回 AL 3	清潔に関する援助技術⑤〔洗髪〕（演習）
第20回 AL 3	清潔に関する援助技術⑥〔洗髪〕（演習）
第21回 AL 3	清潔に関する援助技術⑦〔全身清拭・寝衣交換〕（演習）
第22回 AL 3	清潔に関する援助技術⑧〔全身清拭・寝衣交換〕（演習）
第23回	食事と排泄に関する援助技術①（講義）
第24回	食事と排泄に関する援助技術②（講義）
第25回 AL 3	排泄に関する援助技術②〔おむつ交換と陰部洗浄〕（演習）
第26回 AL 3	排泄に関する援助技術②〔おむつ交換と陰部洗浄〕（演習）
第27回	食事に関する援助技術②〔食事介助・口腔ケアの技術〕（講義）
第28回 AL 3	食事に関する援助技術③〔食事介助・口腔ケアの技術〕（演習）
第29回 AL 3	看護技術の統合①
第30回 AL 3	看護技術の統合②

成績評価方法	定期試験（筆記）60% 定期試験（実技）20% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）『看護がみえるvol.2 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	テキストや配布資料の精読と関連動画の視聴により、技術の手順と根拠を頭に入れて演習に臨む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返して行い、看護技術を身につける（1～3時間）					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅱ	平野加代子 基礎看護学教員	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11204

科目の概要

治療や検査などの身体侵襲を加える技術は、正確性・安全性・安楽性が求められ、さらに高い倫理観が必要とされていることを理解した上で実践できなければならない。そのために基礎的な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、医療安全の視点から理解できるように授業を展開する。授業は、講義と演習を組み合わせた主体的学習が取り組めるように指導する。

到達目標

●診療の補助にかかわる看護の基本技術の原理原則や援助方法が安全の視点から述べることができる。
対象者に必要な看護技術を計画することができる。
診療の補助にかかわる看護技術を行う上での、安全性・安楽性、看護師としての倫理観が求められる理由を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、診療の補助にかかわる看護の基本技術と安全①（講義）
第2回 AL 3	バイタルサインの基礎①（講義・演習）
第3回 AL 3	バイタルサインの基礎②（演習）
第4回 AL 3	バイタルサインの基礎③（演習）
第5回	自然に酸素を取り込むことが困難な対象者への援助①（講義）
第6回	感染を防止するための基本技術①〔基礎知識、針刺し事故〕（講義）
第7回 AL 3	感染を防止するための基本技術②〔滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション〕（演習）
第8回 AL 3	感染を防止するための基本技術③〔滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション〕（演習）
第9回	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への援助①（講義）
第10回	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への援助②〔創傷の消毒、ドレッシング〕（演習）
第11回	検査を受ける対象者への援助①（講義）
第12回	検査を受ける対象者への援助②（講義）
第13回 AL 3	検査を受ける対象者への援助③〔静脈血採血〕（演習）
第14回 AL 3	検査を受ける対象者への援助④〔静脈血採血〕（演習）
第15回	薬物療法を受ける対象者への援助①（講義）
第16回	薬物療法を受ける対象者への援助②（講義）
第17回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助③〔アンプル、バイアル、注射器の取り扱い〕（演習）
第18回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助④〔皮下注射、筋肉内注射〕（演習）
第19回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助⑤〔皮下注射、筋肉内注射〕（演習）
第20回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助⑥〔輸液〕（演習）
第21回 AL 3	バイタルサインの基礎④（演習）
第22回 AL 3	バイタルサインの基礎⑤（演習）
第23回	自然排泄が困難な対象者への援助①〔排便・排尿〕（講義）
第24回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助②〔一時的導尿〕（演習）
第25回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助③〔一時的導尿〕（演習）
第26回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助④〔浣腸〕（演習）
第27回	栄養摂取が困難な対象者への援助①（講義）
第28回	輸血を受ける対象者への援助①（講義）
第29回 AL 3	技術の統合①
第30回 AL 3	技術の統合②

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 定期試験（実技）20％ 成果物 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）『看護がみえるvol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	テキストや配布資料の精読と関連動画の視聴により、技術の手順と根拠を頭に入れて演習に臨む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける（1～3時間）					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備 考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ	北島・澤田・平野 梅川・瀬山	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

実際の医療の場へ赴き看護実践場面や看護の対象者の療養生活の様子を見学することにより、看護の提供の仕組みと看護の機能や役割、看護の対象者の療養生活とニーズなど、前期に座学により学習した理論と実際とを統合させて理解し、臨床判断のための基本的な気づく力と看護専門職として必要な倫理観を身につけ、キャリア発達の開始時期にある学習者としての自覚を身につけるための学びを支援する。

到達目標

- 看護の提供の仕組み、看護の機能や役割に関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 対象者の療養生活の様子、対象者のニーズに関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 看護職者としての倫理観に基づく学習姿勢と実習態度を示すことができる。
- 看護に対する興味・関心を持ち、自己の今後の課題とキャリア発達への展望を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習（1週間） 1年次 2022年8月23日（火）～ 8月26日（金）、9月2日（金） 2022年8月29日（月）～ 9月2日（金） 2022年9月5日（月）～ 9月9日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 大野記念病院、多根総合病院、阪和第二住吉病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	別紙課題を提示する（10時間）					
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことを論理的にまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる（8時間）					
フィードバックの方法	実習記録は適宜フィードバックし、実習のふり振り返りと今後の課題はデブリーフィングによりフォローする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	○

授 業 科 目

授業要項と授業内容（2017～2021年度入学生）

凡 例

2022年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）
2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。
3. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育Ⅱ	伊佐・岩城 八田	講義	2年次 前期	必修	1	30	KGE21101

科目の概要

宝塚大学看護学部における1年間の学びをふまえ、将来看護職を担うために必要な能力を高めることを目的とする。医療・看護分野の知見と現代的課題を知り、それらを踏まえたキャリアデザインを構想し、学術的な文章に表現できるよう教授する。また、地域に根差した視点から問題を発見し解決の方向を探る力を高めること、協働と貢献の意義の理解を通して、看護職としての社会人基礎力を高めるためのフィールドワークを実施する。

到達目標

- 医療・看護分野の文献を読み、自らのキャリアデザインと関連させて理解し、適切に批評できる。
- 医療・看護分野の文献等で学んだことと関連させた上で、自らキャリアデザインに関する文章を書くことができる。
- 地域でフィールドワークを行い、地域における看護職者の役割をグループの一員として探究し表現できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL 2	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：基礎編／看護とサイエンス：ヒトと病気①
第3回 AL 2	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：応用編／看護とサイエンス：ヒトと病気②
第4回 AL 2	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：基礎編／看護とサイエンス：ヒトと食生活①
第5回 AL 2	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：応用編／看護とサイエンス：ヒトと食生活②
第6回 AL 2	看護実践・研究のためのプレゼンテーションの技法／看護とサイエンス：世界の環境問題
第7回 AL 1	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について1（事前講義：北区の医療・福祉の現状）
第8回 AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について2（テーマの探求）
第9回 AL 1	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について3（フィールドワーク）
第10回	看護師国家試験について
第11回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について4（テーマの探求）
第12回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について5（フィールドワーク）
第13回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について6（発表③）
第14回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について7（発表④）
第15回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について8（発表⑤）

成績評価方法	成果物 40% 定期試験（レポート）30% 定期試験（実技）30%					
教科書	なし					
参考文献	『看護職としての社会人基礎力の育て方（第2版）』箕浦とき子・高橋恵編（日本看護協会出版会）					
事前学習（内容・時間）	前時の指示に基づき授業準備する（30分）					
事後学習（内容・時間）	授業内で提示された課題に取り組む（30分）					
フィードバックの方法	提出課題はルーブリックに基づき自己評価し、教員評価を付記してフィードバックする					
備考	・評価やフィールドワークの詳細については授業時に指示する。 ・実践を通して学ぶことを念頭に、日々の授業に臨むこと。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
教育学概論	伊佐 夏実	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23101

科目の概要

教育学の対象は、学校教育のような制度化された側面だけでなく、家庭や地域で行われる人間形成としての側面も含んでいる。本講義では、教育学の基礎的知識や技能について概説し、人間の発達や学習の特質とともに、社会のなかで教育が果たしている機能についても説明する。

到達目標

- 人間の発達や学習についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。
- 現代教育の課題について、自分なりの考えを説明することができる。
- 教育に関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	教育学ってなんだろう？
第2回 AL 2	発達と教育：遺伝か環境か？
第3回 AL 2	子どもの成長・発達をめぐる諸問題
第4回 AL 2	現代の子育てと家族をめぐる諸問題①
第5回 AL 2	現代の子育てと家族をめぐる諸問題②
第6回 AL 2	学校教育の歴史と展開
第7回 AL 2	学力とは何か
第8回 AL 2	学力低下と学力格差
第9回 AL 2	格差・貧困と子どもの教育①
第10回 AL 2	格差・貧困と子どもの教育②
第11回 AL 2	階層の再生産と貧困の世代間連鎖
第12回 AL 2	外国にルーツのある子どもの教育
第13回 AL 2	教育におけるジェンダー
第14回 AL 2	特別支援教育
第15回 AL 2	インクルーシブな教育とは？

成績評価方法	成果物 60% 定期試験（レポート） 40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します					
参考文献	『教育社会学への招待』若槻健ほか（大阪大学出版会）					
事前学習（内容・時間）	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること（2時間） 成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	小川 詩乃	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

人間は、生まれてから死に至るまで、心身ともに変化し続けます。その変化は、身体だけではなく、感情表現、他者との関わり方、物事の捉え方など様々です。そうした生涯の発達について探求するのが「発達心理学」という学問です。本講義では、胎児期から高齢期までの各発達段階の特徴・困難・課題、及び発達障害について講義します。また、発達に関する課題の支援や対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 人間の発達の各段階における、発達特性の基礎知識を獲得し、自分の言葉で説明できる。
- 発達における課題や困難、発達障害の特性について理解し、自分の言葉で説明できる。
- ケース事例において、発達心理学の多様な観点から問題・課題を提起し、支援及び対応を考察できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 6	発達心理学とは 発達障害① 事例検討①
第2回 AL 6	胎児期・新生児期 事例検討②
第3回 AL 6	乳児期 事例検討③
第4回 AL 6	幼児期前期 事例検討④
第5回 AL 6	幼児期後期 事例検討⑤
第6回 AL 6	児童期 事例検討⑥
第7回 AL 6	青年期前期 事例検討⑦
第8回 AL 6	青年期後期 事例検討⑧
第9回 AL 6	成人期前期 事例検討⑨
第10回 AL 6	成人期後期 事例検討⑩
第11回 AL 6	高齢期 事例検討⑪
第12回 AL 6	発達障害② 事例検討⑫
第13回 AL 6	発達障害③ 事例検討⑬
第14回 AL 6	発達障害④ 事例検討⑭
第15回	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物（レポート）30%					
教科書	なし（毎回、講義資料を配布する）					
参考文献	授業内で適宜紹介します					
事前学習（内容・時間）	次回講義に関係する資料や動画等の閲覧を指示するので、それを観て事前の理解を促すこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義資料及び講義内で実施・返却する課題を確認して、講義内容を復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	レポートに記載されたコメント・質問に対しては、授業内で解説を行います					
備考	レポートはTeamsを介して配布しますので、Teams上で提出するようにしてください			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	伊佐 夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

ジェンダーとは何か。私たちの日常生活に大きな影響を与えているにも関わらず、見ようとしなければ見えないもの、「あたりまえ」のものとして考えている性まつわる事柄を、家族や労働、教育、メディアなど、身近な領域の身近な問題を素材に考え、それらを通して、自分が生きる社会を見つめなおすための、思考の枠組みを教授する。

到達目標

- ジェンダーやセクシャリティの基本的概念について説明できる。
- 現代社会におけるジェンダー課題について、自分なりの考えを説明できる。
- ジェンダーに関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ジェンダーってなんだろう
第2回 AL 2	メディアの中のジェンダー
第3回 AL 2	家族とジェンダー：性役割と家族形成
第4回 AL 2	家族とジェンダー：母性って何？
第5回 AL 2	教育とジェンダー：教育達成のジェンダー差
第6回 AL 2	教育とジェンダー：学校における隠れたカリキュラム
第7回 AL 2	労働とジェンダー：働き方のジェンダー差
第8回 AL 2	労働とジェンダー：看護の仕事とジェンダー
第9回 AL 2	スポーツとジェンダー
第10回 AL 2	暴力とジェンダー
第11回 AL 2	犯罪とジェンダー
第12回 AL 2	精神疾患とジェンダー
第13回 AL 2	男らしさについて①
第14回 AL 2	男らしさについて②
第15回 AL 2	ジェンダーとセクシャリティ

成績評価方法	成果物 60% 定期試験（レポート） 40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します					
参考文献	『よくわかるジェンダー・スタディーズ 人文社会科学から自然科学まで』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）					
事前学習（内容・時間）	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
民俗学	鈴木 洋昭	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

柳田国男の民俗学を中心に学問の対象・方法・課題について説明する。「民俗」とは、人々の生活習慣である。生活の中の社会・経済・宗教・芸能など諸側面における習慣と伝統であり、知識・技術・観念などの生活の知恵といえる。そうした民俗の分析を通して、具体的には恋愛と結婚をテーマに、人生いかに生きるべきかを考えることにより、看護の現場や受講生自身の生涯設計に活用できるよう講義する。

到達目標

- 人間の生命活動を理解し、比較論的研究法や民俗誌的研究法といった民俗学的方法論を身につけ、説明できる。
- 生活文化とその歴史的解明を行う中で、日本の伝統的な社会と文化を体系的に習得し、論ずることができる。
- われわれの今生きている現在が、「民俗」といかにかわっているかを理解し、述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに
第2回	民俗学とは何か？
第3回	民俗とは何か？
第4回	柳田国男と民俗学
第5回	動作伝承と言語伝承
第6回	昔話と伝説
第7回	民俗学の方法論（1）
第8回	民俗学の方法論（2）
第9回	民俗学の方法論（3）
第10回	人生と儀礼（1） 誕生～成人
第11回	人生と儀礼（2） 恋愛
第12回	人生と儀礼（3） 結婚
第13回	人生と儀礼（4） 生殖家族
第14回	民俗学の近代化
第15回	まとめ 「応」の近代化論

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	なし					
参考文献	その都度紹介する					
事前学習（内容・時間）	講義時に紹介するテーマについて事前に調べる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義終了後、講義から得られたものや感じたものを簡単にまとめる（2時間）					
フィードバックの方法	レポートに対する講評を授業内で行います					
備 考				オフィスアワー	メールにて随時、質問を受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療機関や医療従事者に注がれる患者・家族や社会の目が厳しさを増している。それは命の重みと医療への期待の大きさにほかならない。『あるべき医療』には、単に医療スキルの向上だけでなく、患者・家族とのコミュニケーション（人間関係）能力を高め、社会とどう向き合っていくかも求められている。人生100年、コロナ禍により、一層、医療と福祉のあり方が注目される中、ジャーナリズムの機能と役割を理解し、新聞記事を通してどのように報道されてきたのか、事例をもとに講義する。

到達目標

- 医療に求められる社会的な視点について説明ができる。
- 多様な観点から医療に従事する者としての意識を身につけ、プレゼン（発表）、作文（小論文）で表現ができる。
- 記事を読み解き、プレゼンテーション力、文章力、コミュニケーション力を身につけられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス（医療とコロナ社会）
第2回	新聞の読み方、文章の書き方
第3回	新聞から読み解く①（読者投稿欄から）・・・課題文提出
第4回	新聞から読み解く②（新型コロナウイルスについて①）
第5回	新聞から読み解く③（新型コロナウイルスについて②）・・・課題文提出
第6回	新聞から読み解く④（がん患者・家族の支援について①）
第7回	新聞から読み解く⑤（がん患者・家族の支援について②）・・・課題文提出
第8回	新聞から読み解く⑥（薬害エイズについて）
第9回	新聞から読み解く⑦（高齢者社会について）・・・課題文提出
第10回	新聞から読み解く⑧（医療とスポーツ）
第11回	新聞から読み解く⑨（医療と政治）・・・課題文提出
第12回 AL 2	グループ討論①（プレゼンテーション）
第13回 AL 2	グループ討論②（プレゼンテーション）・・・課題文提出
第14回 AL 2	グループ討論③（プレゼンテーション）
第15回	総括・医療とコロナ社会を考える

成績評価方法	成果物 80% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	新聞もしくはTeamsのファイルに掲示した資料（記事コピー）に目を通す（毎回2時間）					
事後学習(内容・時間)	課題文、レポートの添削で指摘されたことを再考する（毎回2時間）					
フィードバックの方法	Teamsで返却、もしくは授業内で講評					
備考	毎回、当日の朝刊もしくは過去の記事コピーなど資料を提供します。一般常識として知っておきたい「ことば力」のミニテストを行う予定。課題文も5～6回程度、提出を求めます			オフィスアワー		授業終了後、Teamsのチャットなどで質問を受ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

人の心をつかむ文章とは何だろう。作家、詩人、哲学者、医師、ジャーナリストたちの著作をはじめ、無名の市民が書いた文章などを一緒に読み、特徴的な表現（言葉遣い）や共感する部分・批判する部分について講師と受講生が話し合う。そうした読解作業を通じて、文章の構成、内容と形式、言葉の選び方、描写の力、視点・問題意識の研ぎ澄まし方などについて教える。

到達目標

- エッセイ・詩・評論などから学んだ技法を生かして、自分の意思を正確に豊かに伝える力を身につけることができる。
- 人々の言動や社会の出来事をじっくり観察し、自分の視点で問題点を指摘することができる。
- 相手の気持ちをくみとり、心の深いところで信頼が築ける人間関係の特色について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	プロの文章とアマチュアの文章
第2回	目の見えない作家の描写力
第3回	相手を思いやる表現
第4回	古代言語を題材にして身体と表現について考える
第5回 AL 4	見えている光景の奥に隠れているものを読み解く
第6回	思考停止に陥らない言葉遣い
第7回	批評の精神
第8回 AL 4	ユーモア感覚を身につけよう
第9回	人の尊厳をささえる文章とは
第10回	問題を見つけることが出発点だ
第11回 AL 4	ひととは違う文章の切り口
第12回	詫び状から世間を学ぶ
第13回	事実と意見を書き分ける
第14回 AL 2	自分を売り込む作法
第15回	言葉の喚起力

成績評価方法	成果物（授業中に数回書く課題作文）100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する					
事前学習（内容・時間）	書籍や新聞、テレビなどで気になった言葉や言い回しをメモして、授業で報告してもらう（2時間）					
事後学習（内容・時間）	その日の授業内容を復習し、さらに、その応用例を書籍・新聞などから集めて理解を深める（2時間）					
フィードバックの方法	課題の提出物は、ていねいに添削し、コメントを添えて本人に返却する					
備 考				オフィスアワー	授業の前後と、メールでも随時対応する	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	毛利 郁子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など看護・医療の現場で役立つ様々な英語表現の基礎と応用を教授します。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語でコミュニケーションをとれるよう指導します。ペアワーク、グループワークのアクティブラーニングを取り入れた参加型授業です。

到達目標

- 看護・医療英語における専門用語や言い回しを習得し、英語で記述できる。
- 国際的な医療従事者として心得ておくべき、基本的な英作文や対話を習得し、英語でコミュニケーションを図る事ができる。
- 習得した知識をスムーズに医療現場で運用し、臨機応変に患者に英語で対応できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、Unit 1-1 : First Visit 初診・問診票 その1
第2回 AL 3	Unit 1-2 : First Visit 初診・問診票 その2
第3回 AL 3	Unit 2-1 : At the Examination Room 診察室での基本会話 その1
第4回 AL 3	Unit 2-2 : At the Examination Room 診察室での基本会話 その2
第5回 AL 3	Unit 3-1 : Flu Symptoms インフルエンザの症状 その1
第6回 AL 3	Unit 3-2 : Flu Symptoms インフルエンザの症状 その2
第7回 AL 3	Unit 4-1 : Pain Problems 痛みへの対処 その1
第8回 AL 3	Unit 4-2 : Pain Problems 痛みへの対処 その2
第9回 AL 3	Unit 5-1 : Stomachache 胃痛 その1
第10回 AL 3	Unit 5-2 : Stomachache 胃痛 その2
第11回 AL 3	Unit 6-1 : Abdominal Pain 腹痛 その1
第12回 AL 3	Unit 6-2 : Abdominal Pain 腹痛 その2
第13回 AL 3	Unit 7-1 : Urinalysis 尿検査 その1
第14回 AL 3	Unit 7-2 : Urinalysis 尿検査 その2
第15回 AL 2	前期総復習 1
第16回 AL 3	前期総復習 2 (中間試験復習も含む)
第17回 AL 3	Unit 8-1 : Cholesterol コレステロール その1
第18回 AL 3	Unit 8-2 : Cholesterol コレステロール その2
第19回 AL 3	Unit 9-1 : Anemia 貧血 その1
第20回 AL 3	Unit 9-2 : Anemia 貧血 その2
第21回 AL 3	Unit 10-1 : Injury 怪我 その1
第22回 AL 3	Unit 10-2 : Injury 怪我 その2
第23回 AL 3	Unit 11-1 : Operation Period 手術の準備 その1
第24回 AL 3	Unit 11-2 : Operation Period 手術の準備 その2
第25回 AL 3	Unit 12-1 : Alcohol Poisoning アルコール中毒 その1
第26回 AL 3	Unit 12-2 : Alcohol Poisoning アルコール中毒 その2
第27回 AL 3	Unit 13-1 : Ultrasound Examination 超音波検査 その1
第28回 AL 3	Unit 13-2 : Ultrasound Examination 超音波検査 その2
第29回 AL 3	Appendix 2 : 医療の現場で役立つ重要表現
第30回 AL 2	後期総復習

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『Medical English Clinic』西原俊明、西原真弓、Tony Brown (センゲージ・ラーニング)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次週範囲内の単語調べ (30分)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習 (1時間)					
フィードバックの方法	課題、小テストは授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう					
備考				オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	池田美智子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21302

科目の概要

この授業では、身近な健康問題、感染症などを含む世界的規模の健康問題、DNA解析など先端医療の発展と問題点について書かれている英文を用いて講義する。英文を読み進めることで、ネットやニュースなどで目にしたことのある健康問題についてのより深い理解と知識を広げることができるように説明する。

到達目標

- リーディング、リスニング等を通じて健康問題への専門知識、用語、表現を英語で記述できる。
- 英語で書かれた図表やグラフを読み取り、説明できる。
- ネットやニュースで目にする健康問題について英語で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Unit 1 Sense of Taste and Eating Habits 味覚と食習慣 (その1)
第2回 AL 3	Unit 1 Sense of Taste and Eating Habits 味覚と食習慣 (その2)
第3回	Unit 2 Lose Weight and Stay Active 体重管理 (その1)
第4回 AL 3	Unit 2 Lose Weight and Stay Active 体重管理 (その2)
第5回	Unit 3 Dangers of Internet Addiction ネット依存症 (その1)
第6回 AL 3	Unit 3 Dangers of Internet Addiction ネット依存症 (その2)
第7回	Unit 1～Unit 3の復習
第8回	Unit 4 Before It Is Too Late 大気汚染 (その1)
第9回 AL 3	Unit 4 Before It Is Too Late 大気汚染 (その2)
第10回	Unit 5 Global Water Problem 地球規模の水問題 (その1)
第11回 AL 3	Unit 5 Global Water Problem 地球規模の水問題 (その2)
第12回	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia 認知症への世界的協力 (その1)
第13回 AL 3	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia 認知症への世界的協力 (その2)
第14回	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia 認知症への世界的協力 (その3)
第15回	Unit 4～Unit 6の復習
第16回	Unit 7 Battle against the Ebola Virus エボラ出血熱との闘い (その1)
第17回 AL 3	Unit 7 Battle against the Ebola Virus エボラ出血熱との闘い (その2)
第18回	Unit 8 Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT 大規模災害での医療活動 (その1)
第19回 AL 3	Unit 8 Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT 大規模災害での医療活動 (その2)
第20回	Unit 9 Angelina's Decision アンジーの選択 (その1)
第21回 AL 3	Unit 9 Angelina's Decision アンジーの選択 (その2)
第22回	Unit 7～Unit 9の復習
第23回	Unit 10 Ethical Implications of Prenatal Testing 新型出生前診断 (その1)
第24回 AL 3	Unit 10 Ethical Implications of Prenatal Testing 新型出生前診断 (その2)
第25回	Unit 11 ES Cells and iPS Cells ES細胞とiPS細胞 (その1)
第26回 AL 3	Unit 11 ES Cells and iPS Cells ES細胞とiPS細胞 (その2)
第27回	Unit 13 Preventing Child Abuse 児童虐待を防ぐ (その1)
第28回	Unit 13 Preventing Child Abuse 児童虐待を防ぐ (その2)
第29回 AL 3	Unit 13 Preventing Child Abuse 児童虐待を防ぐ (その3)
第30回	Unit 10,11,13の復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『Mindfulness これからの健康的な社会へ』園城寺康子編(南雲堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容について単語等調べておくこと (1時間)					
事後学習(内容・時間)	学習した内容について、必ず復習しておくこと (1時間)					
フィードバックの方法	次回もしくは、課題の返却時に解説を行う					
備考				オフィスアワー	授業前後の30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	長谷川重和	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21303

科目の概要

英語Ⅰの基礎の上に、ライティングを中心に総合的な英語力を強化します。日本には多くの外国人が暮らしており、医療や看護の現場でも外国人の患者数が増え、英語でコミュニケーションを取ることが求められるようになっていきます。この授業では、医療現場で本当に必要な英語表現や、役に立つ専門用語を学びます。

到達目標

- 医療現場でのコミュニケーションのために必要な英語表現力を身につけ記述できる。
- 看護英語に必要な語彙を習得し、医療に必要な英単語が書ける。
- 医療や看護に関する専門用語や英語表現を正確に理解し記述できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Unit 2 Don't worry 励ましの声をかけましょう (1)
第2回 AL 3	Unit 2 Don't worry 励ましの声をかけましょう (2)
第3回	Unit 3 How may I help you? どうなさいましたか (1)
第4回 AL 3	Unit 3 How may I help you? どうなさいましたか (2)
第5回	Unit 4 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう (1)
第6回 AL 3	Unit 4 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう (2)
第7回	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか (1)
第8回 AL 3	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか (2)
第9回	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう (1)
第10回 AL 3	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう (2)
第11回	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう (1)
第12回 AL 3	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう (2)
第13回	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう (1)
第14回 AL 3	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう (2)
第15回	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう (1)
第16回 AL 3	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう (2)
第17回	Unit10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう (1)
第18回 AL 3	Unit10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう (2)
第19回	Unit11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう (1)
第20回 AL 3	Unit11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう (2)
第21回	Unit12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう (1)
第22回 AL 3	Unit12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう (2)
第23回	Unit13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう (1)
第24回 AL 3	Unit13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう (2)
第25回	Unit14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう (1)
第26回 AL 3	Unit14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう (2)
第27回	Unit15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう (1)
第28回 AL 3	Unit15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう (2)
第29回	Unit1 Power of Language 言葉の力 (1)
第30回	Unit1 Power of Language 言葉の力 (2)

成績評価方法	定期試験（レポート）50％ 小テスト 50％					
教科書	『LIFESAVER, NEW EDITION - Basic English in Medical Situations』井上真紀他（センゲージ ラーニング）					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	教科書に目を通し、単語や熟語など調べておくこと（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容や教科書を復習し、必要な表現や単語を覚えること（1時間）					
フィードバックの方法	小テストをチェックして返却する					
備考	学習内容をノートにまとめていくこと			オフィスアワー		Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ (Listening & Speaking 2)	毛利 郁子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22301

科目の概要

看護現場で役立つ英会話文を使用しながら、リスニングやスピーキングによる医療現場での英会話能力を高めることを目標として、症状、体調、病名、治療法の説明、治療に対する患者の希望や不満、薬の飲み方の説明や治療上必要な注意事項、病院内の案内等の英語表現を解説し、日本語を理解しない患者との英語によるコミュニケーションの取り方を教授する。

到達目標

- 医療現場で想定される英会話力を習得し、会話することができる。
- 医療・看護に必要な英語の語彙を身につけ、記述または説明することができる。
- 医療・看護の様々な場面に使用できるような英語表現を習得しコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーション&Unit 1-1 Hospital Admission 入院患者に対応する その1
第2回 AL 3	Unit 1-2 Hospital Admission 入院患者に対応する その2
第3回 AL 3	Unit 2-1 The Nurse's Role 看護師の役割を伝える その1
第4回 AL 3	Unit 2-2 The Nurse's Role 看護師の役割を伝える その2
第5回 AL 3	Unit 3-1 Life in the Hospital 患者から生活習慣の情報収集をする その1
第6回 AL 3	Unit 3-2 Life in the Hospital 患者から生活習慣の情報収集をする その2
第7回 AL 3	Unit 4-1 Taking Vital Signs 1 生命兆候を測定する(体温・脈拍・呼吸) その1
第8回 AL 3	Unit 4-2 Taking Vital Signs 1 生命兆候を測定する(体温・脈拍・呼吸) その2
第9回 AL 3	Unit 5-1 Taking Vital Signs 2 生命兆候を測定する(血圧) その1
第10回 AL 3	Unit 5-2 Taking Vital Signs 2 生命兆候を測定する(血圧) その2
第11回 AL 3	Unit 6-1 Providing Meal Assistance 食事介助・治療食の説明をする その1
第12回 AL 3	Unit 6-2 Providing Meal Assistance 食事介助・治療食の説明をする その2
第13回 AL 3	Supplement 1
第14回 AL 3	Supplement 2
第15回 AL 2	前期総復習
第16回 AL 2	前期復習および前期課題振り返り
第17回 AL 3	Unit 7-1 Rehabilitation 1 片麻痺患者のリハビリ(起き上がりの介助をする) その1
第18回 AL 3	Unit 7-2 Rehabilitation 1 片麻痺患者のリハビリ(起き上がりの介助をする) その2
第19回 AL 3	Unit 8-1 Rehabilitation 2 片麻痺患者のリハビリ(車椅子への移動をする) その1
第20回 AL 3	Unit 8-2 Rehabilitation 2 片麻痺患者のリハビリ(車椅子への移動をする) その2
第21回 AL 3	Unit 9-1 Shampooing in Bed ベッドで洗髪する その1
第22回 AL 3	Unit 9-2 Shampooing in Bed ベッドで洗髪する その2
第23回 AL 3	Unit 10-1 Foot-bath 足浴をする その1
第24回 AL 3	Unit 10-2 Foot-bath 足浴をする その2
第25回 AL 3	Unit 11-1 Taking Blood Sample 採血をする その1
第26回 AL 3	Unit 11-2 Taking Blood Sample 採血をする その2
第27回 AL 3	Unit 12-1 Outpatient Clinic 食事療法や運動について指導する その1
第28回 AL 3	Unit 12-2 Outpatient Clinic 食事療法や運動について指導する その2
第29回 AL 2	Unit 12-3 Outpatient Clinic 食事療法や運動について指導する その3
第30回 AL 2	後期総復習および学年末課題の説明

成績評価方法	定期試験(レポート) 40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『Health Talk English for Hands-on Nursing』渡邊容子、山本淳子他(ピアソン・ジャパン株式会社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次週範囲内の単語調べ(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(60分)					
フィードバックの方法	小テスト・課題は授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう。					
備考				オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ (Reading 2)	毛利 郁子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22302

科目の概要

リーディングを含めた総合的な英語力をつけることができるように、特に医療・看護に関わる話題についてのリーディングを行います。近年の急速なグローバル化の進展に伴い、看護分野における英語力の必要性が増す中で、将来、病院などで働く際に求められる医療現場に必要な知識と表現と語彙を教授します。

到達目標

- リーディングを中心に総合的な英語力を習得し、英語で医療関連の文献を読むことができる。
- 医療に必要な語彙や役立つ知識を英語で習得し、それらを用いて記述または説明することができる。
- 看護の為に専門用語や英語表現を習得し、それらを用いて患者様とコミュニケーションをはかる事ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションおよびUnit 1-1 What Country is the Fattest in the World? その1
第2回 AL 2	Unit 1-2 What Country is the Fattest in the World? その2
第3回 AL 3	Unit 2-1 What Do We Know about Sleep Talking? その1
第4回 AL 2	Unit 2-2 What Do We Know about Sleep Talking? その2
第5回 AL 3	Unit 3-1 Why are Bug Bites Dangerous? その1
第6回 AL 2	Unit 3-2 Why are Bug Bites Dangerous? その2
第7回 AL 3	Unit 4-1 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef その1
第8回 AL 2	Unit 4-2 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef その2
第9回 AL 3	Unit 5-1 How Much Caffeine Can We Take? その1
第10回 AL 2	Unit 5-2 How Much Caffeine Can We Take? その2
第11回 AL 3	Unit 6-1 How Does Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships? その1
第12回 AL 2	Unit 6-2 How Does Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships? その2
第13回 AL 3	Unit 7-1 What Can Happen When You Are Too Clean? その1
第14回 AL 2	Unit 7-2 What Can Happen When You Are Too Clean? その2
第15回 AL 3	前期総復習 Review Test 1
第16回 AL 2	前期振り返り (Review Test 1 その他前期課題の答え合わせ)
第17回 AL 3	Unit 8-1 Does Gender Affect Cancer Susceptibility? その1
第18回 AL 2	Unit 8-2 Does Gender Affect Cancer Susceptibility? その2
第19回 AL 3	Unit 9-1 Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age? その1
第20回 AL 2	Unit 9-2 Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age? その2
第21回 AL 3	Unit 10-1 What Are the Dangers of a Sweltering Summer? その1
第22回 AL 2	Unit 10-2 What Are the Dangers of a Sweltering Summer? その2
第23回 AL 3	Unit 11-1 Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird? その1
第24回 AL 2	Unit 11-2 Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird? その2
第25回 AL 3	Unit 12-1 How Better to Release Your Stress? その1
第26回 AL 2	Unit 12-2 How Better to Release Your Stress? その2
第27回 AL 3	Unit 13-1 What Are the Differences between Real and Robotic Pets? その1
第28回 AL 2	Unit 13-2 What Are the Differences between Real and Robotic Pets? その2
第29回 AL 2	Unit 13-2 What Are the Differences between Real and Robotic Pets? その3 および Review Test 2
第30回	後期総復習 Review Test 2

成績評価方法	定期試験（レポート）40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『Good Health, Better Life』西原俊明、西原真弓、Tony Brown（金星堂）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次週の単語調べ（30分）					
事後学習(内容・時間)	授業の復習（1時間）					
フィードバックの方法	課題・小テストのフィードバックは授業内で解説					
備考				オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅳ (Writing 2)	池田美智子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22303

科目の概要

この授業では、看護師として23年間病院勤務した著者が病院での様々な経験を記録した英語の文章を使って講義する。原文を読み進めることで、文中で用いられる医療器具や治療法の英語表現について説明するとともに、院内で起こりえる事象の英語表現についても説明する。

到達目標

- リーディング、ライティング、リスニングを通じて医療に関する看護の専門知識や用語を見につけ、表現できる。
- 汎用性の高い口語表現で述べることができる。
- 医療器具や治療法についての英語表現の知識を広げ、英語で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Chapter 1 The Quiet Boy ひとりぼっちの少年 (その1)
第2回 AL 4	Chapter 1 The Quiet Boy ひとりぼっちの少年 (その2)
第3回	Chapter 2 Tribulations of a Student Nurse 看護学生の試練 (その1)
第4回 AL 4	Chapter 2 Tribulations of a Student Nurse 看護学生の試練 (その2)
第5回	Chapter 3 Not Just a 9-to-5 Job コンピューターから浣腸まで何でもあり (その1)
第6回 AL 4	Chapter 3 Not Just a 9-to-5 Job コンピューターから浣腸まで何でもあり (その2)
第7回	Chapter 1～3の復習
第8回	Chapter 5 A Proctologist 直腸病専門医 (その1)
第9回 AL 4	Chapter 5 A Proctologist 直腸病専門医 (その2)
第10回	Chapter 6 A Demanding Orthopedics Patient 整形外科の困った患者 (その1)
第11回 AL 4	Chapter 6 A Demanding Orthopedics Patient 整形外科の困った患者 (その2)
第12回	Chapter 7 Emergency Ward 救命病棟 (その1)
第13回	Chapter 7 Emergency Ward 救命病棟 (その2)
第14回 AL 4	Chapter 7 Emergency Ward 救命病棟 (その3)
第15回	Chapter 5～7の復習
第16回	Chapter 10 A Doctor's Depression あるドクターの憂鬱 (その1)
第17回 AL 4	Chapter 10 A Doctor's Depression あるドクターの憂鬱 (その2)
第18回	Chapter 11 Alzheimer's Patient アルツハイマー病 (その1)
第19回 AL 4	Chapter 11 Alzheimer's Patient アルツハイマー病 (その2)
第20回	Chapter 12 Brain Damage 脳損傷の男性 (その1)
第21回	Chapter 12 Brain Damage 脳損傷の男性 (その2)
第22回 AL 4	Chapter 12 Brain Damage 脳損傷の男性 (その3)
第23回	chapter 10～12の復習
第24回	Chapter 14 Urology 泌尿器科 (その1)
第25回	Chapter 14 Urology 泌尿器科 (その2)
第26回 AL 4	Chapter 14 Urology 泌尿器科 (その3)
第27回	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient がん患者 (その1)
第28回	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient がん患者 (その2)
第29回 AL 4	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient がん患者 (その3)
第30回	Chapter 14とChapter 15の復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『The Dramas of Hospital Life ある看護師のみた病院生活のドラマ』田中芳文編(三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容の単語等を調べておく(45分)					
事後学習(内容・時間)	学習した内容(文法)について復習しておく(45分)					
フィードバックの方法	次回もしくは、それ以降の課題返却時に解説を行う					
備考				オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22304

科目の概要

この授業は「フランス語Ⅰ」で用いた教科書の後半から始めます。パリを舞台にYumiとAlexとの間で交わされる会話を軸に、中級会話・文法を身に着けるために学びを発展させます。そして1つの技能に偏るのではなく、フランス語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を習得することを目指した授業を行います。また映像を通じてフランスの歴史や文化についての見聞を広められるような講義をいたします。

到達目標

- 自分の考えや欲求のみならず、状況説明や過去の出来事をフランス語で伝えるだけの会話力を獲得することができる。
- 会話における中級文法を習得することで、フランス語での簡単な物語を読むだけでなく、文章、手紙、メールを書くことができる。
- 映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【イントロダクション】①ガイダンス ②フランスの食文化とワイン
第2回 AL 6	【フランス語のおさらい】①発音 ②日常でよく使う表現
第3回 AL 6	【基本文法のおさらい (1)】①主語 ②動詞《être》「～です」を使った自己紹介
第4回 AL 6	【基本文法のおさらい (2)】①動詞《avoir》「持っている」 ②規則動詞<-er動詞>
第5回 AL 6	【基本文法のおさらい (3)】①不定冠詞 ②定冠詞
第6回 AL 6	【パリでの日本食 (1)】①部分冠詞 ②《語彙》「食べ物と飲み物」 ③状況に合わせた冠詞の使い方
第7回 AL 6	【パリでの日本食 (2)】①定冠詞の縮約 ②《対話》「お腹減ってない？」 ③《対話》に対する質問
第8回 AL 6	【パリでの日本食 (3)】①願望・欲求の動詞 ②《実践》「食べたい物とレストラン」 ③《文化》「レストラン」
第9回 AL 6	【パリの日本専門店 (1)】①所有形容詞 ②《語彙》「家族」 ③《文化》「日本の生活様式化」
第10回 AL 6	【パリの日本専門店 (2)】①《実践》「人称代名詞を用いた家族構成」 ②人称代名詞の強勢形
第11回 AL 6	【パリの日本専門店 (3)】①《対話》「妹は布団で寝ている。」 ②《対話》に対する質問
第12回 AL 6	【買い物 (1)】①指示形容詞《ce》②指示代名詞《celui》 ③疑問副詞《combien》「どれだけ？」
第13回 AL 6	【買い物 (2)】①比較級 ②《対話》「急須が欲しいです。」 ③《対話》に対する質問 ④《語彙》「日用品Ⅱ」
第14回 AL 6	【買い物 (3)】①《実践Ⅰ》「比較級を伴う理由の表現」 ②《実践Ⅱ》「値段の表現」 ③《文化》「日本製品」
第15回	【前期のまとめ】
第16回	【フランスの遺産】① フランスの文芸 ② フランスの歴史的建造物
第17回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (1)】①命令形 ②中性代名詞《y》 ③《語彙》「曜日・月」 ④日時表現
第18回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (2)】①補語人称代名詞 ②《対話》「行かないの？」 ③《対話》に対する質問
第19回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (3)】①《実践》「補語人称代名詞を用いた会話」 ②《文化》「ジャパン・エキスポ」
第20回 AL 6	【天候 (1)】①代名動詞 ②非人称構文 ③《語彙》「天候・時刻」
第21回 AL 6	【天候 (2)】①女性形容詞の特殊な形 ②《対話》「暑い！」 ③《対話》に対する質問
第22回 AL 6	【天候 (3)】①《実践》「各地の時間と天候の報告」 ②《文化》「フランスの気候」
第23回 AL 6	【美術館 (1)】①疑問代名詞《qui》「誰？」②複合過去Ⅰ ③《語彙》「衣服と色」 ④《実践》「買った物」
第24回 AL 6	【美術館 (2)】①《対話》「素晴らしい、浮世絵は！」 ②《対話》に対する質問 ③《文化》「日本趣味」
第25回 AL 6	【バカンス (1)】①複合過去Ⅱ ②否定文Ⅱ ③疑問副詞《comment》「どのように？」 ④《語彙》「乗り物」
第26回 AL 6	【バカンス (2)】①《対話》「多くの人がバカンスに出掛けた。」 ②《対話》に対する質問
第27回 AL 6	【バカンス (3)】①《実践》「目的地までの交通手段」 ②《文化》「フランスと日本のバカンス事情」
第28回 AL 6	【Yumiの帰国 (1)】①単純未来 ②近接未来 ③《語彙》「季節と未来」
第29回 AL 6	【Yumiの帰国 (2)】①《実践》「未来の事柄」 ②感嘆文 ③《文化》「フランスの四季」
第30回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物（課題）45% 中間試験（筆記）20% 定期試験（筆記）20% 成果物（発音）15%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール!)』藤田裕二（朝日出版社）					
参考文献	授業中に紹介します					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通して置いて下さい（30分）					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（1時間）					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次の授業の最初にお返しします					
備考	発音と練習問題を毎回します。語学は大変ですが、フランスの食文化やファッションなども含め楽しみながら学んで下さい			オフィスアワー		授業の終了後30分、教室で質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	—	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22305

科目の概要

本科目は中国語会話の基礎作りを終えた初級者や、基礎が未だ弱い中国語初心者向けの医療系中国語基礎コースである。教員が学生に中国語基礎知識や会話基本表現を教えながら、保健医療の場面別に活用される中国語単語を説明・朗読練習して、保健医療系の実践的な基礎中国語会話を教授する。また、場面に合わせて中国の文化・習慣や医療・看護の現状知識も紹介する。

到達目標

- 中国語発音能力の必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、実践に活用できる。
- 場面別の保健医療系の実践的な中国語基礎表現と基礎会話技能を習得し、活用できるようになる。
- 中国の文化・習慣や医療・看護の現状についての知識をある程度述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ガイダンス(学習注意事項等を説明)：名前を中国語で読む練習/基本挨拶復習(グループワーク)
第2回 AL 3	中国語基本知識(発音復習一)：「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように音声練習する
第3回 AL 3	中国語基本知識(発音復習二)：「四声」と「拼音一覧表」を暗唱できるように繰り返し読み書きする
第4回 AL 3	第一課：保健医療系場面別会話を始めよう(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第5回 AL 3	上記のその二：自己紹介・挨拶・会話学習・練習(グループワーク)
第6回 AL 3	第二課：あなたは中国人ですか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第7回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第8回 AL 3	第三課：健康保険証を持っていますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第9回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第10回 AL 3	第四課：ご家族にはどんな人がいますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第11回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第12回 AL 3	第五課：あそこで少しお待ちください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第13回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第14回 AL 3	第六課：外国語は少し話せます。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第15回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)；小テスト実施
第16回 AL 3	第七課：検査室に行って検査を受けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第17回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第18回 AL 3	第八課：どうしましたか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第19回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第20回 AL 3	第九課：口を開けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第21回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第22回 AL 3	第十課：この薬を飲んだことがありますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第23回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第24回 AL 3	第十一課：服をあそこにおいてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第25回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第26回 AL 3	第十二課：病状はずっと良くなりました。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第27回 AL 3	上記のその二：会話学習・練習、基礎翻訳練習(グループワーク)
第28回 AL 3	いろいろな言葉の追加学習・練習(その一：身体各部位と趣味・生活用語表現)
第29回 AL 3	上記のその二：病名病状と検査・治療用語表現(グループワーク)
第30回 AL 3	総合復習と任意会話・通訳練習及び会話実技テストの準備指導(グループワーク)

成績評価方法	定期試験(実技) 60% 小テスト 30% 成果物 10%					
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田真一(白帝社)					
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し、次回の内容を予習すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること(1時間)					
フィードバックの方法	宿題は授業外で確認・訂正し授業内で戻し説明します。小テストは授業内で解説します					
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう			オフィスアワー		授業終了後30分、質問を受け付ける。随時メールでも受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22306

科目の概要

イタリア語には過去時制が3つあるが、このうち近過去と半過去とを取り上げて、現在形を復習しながら現在形を含めて時制の使い分けを徹底して指導する。日本語文化圏における「時」のとらえ方とは異なるからだ。日常的な範囲の内容を理解し、かつ表現できる程度までの文法、単語・語彙の習得を目標とする。

到達目標

- つづり字を正確に発音できること。
- 平易な文章を読めるようになること。
- 平易な内容を聞き取れるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	つづり字と発音の復習
第2回	注意すべきつづり字と発音
第3回	名詞の変化の復習
第4回	注意すべき名詞の変化
第5回 AL 6	冠詞と形容詞の復習・小テスト；アクティブラーニング
第6回	注意すべき冠詞・形容詞の変化
第7回	基本動詞の復習（現在形）
第8回	不規則動詞の復習（現在形）・小テスト
第9回	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り①
第10回	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り②
第11回 AL 6	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト；アクティブラーニング
第12回	前期の内容の総復習
第13回	前期内容のまとめ／前期学科試験
第14回	前期学科試験の解答・解説第
第15回	比較級
第16回	近過去の復習
第17回	注意すべき近過去の復習
第18回	半過去の復習
第19回	注意すべき半過去の復習
第20回	遠過去の復習
第21回	注意すべき遠過去の復習
第22回 AL 6	過去時制のまとめ・小テスト；アクティブラーニング
第23回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り①
第24回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り②
第25回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト
第26回	命令法
第27回	条件法
第28回 AL 6	接続法；アクティブラーニング
第29回	後期の内容の総復習・後期学科試験
第30回	後期学科試験の解答・解説

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『ア・ゾンゾ』一ノ瀬俊和（朝日出版社）					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	週に1時間程度、単語調べなど（30分）					
事後学習（内容・時間）	例文・練習問題を音読し書きながら復習すること（60分）					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点の上、解答・解説を配布する					
備考	なし			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22307

科目の概要

初級ドイツ語の基礎会話を講義する。オーストリアからスイスを通してドイツへ行く楽しい旅の話について書かれたテキストを使い、ドイツ語のやさしい日常会話について説明する。語彙は日常生活に不可欠な範囲に限定し、文法だけの個別練習問題は最小限にとどめる。誰でも習得できるドイツ語会話に特化した授業である。

到達目標

- ドイツ語で簡単な挨拶ができる。
- 身の回りの生活必需品をドイツ語で言うことができる。
- ごく簡単なドイツ語の質問に、ドイツ語で答えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入：前期授業の概説と評価方法に関する説明
第2回	ドイツ語のアルファベット
第3回	ドイツ語の綴りと発音
第4回	ドイツ語の人名、日本語になったドイツ語
第5回	簡単な挨拶
第6回 AL 3	出身地の聞き方と答え方
第7回 AL 3	国籍の聞き方と答え方
第8回 AL 3	職業の聞き方と答え方
第9回 AL 3	名前の聞き方と答え方
第10回	小テスト：簡単な自己紹介
第11回 AL 3	身の回りの物の名前：飲食物
第12回 AL 3	身の回りの物の名前：生活空間
第13回 AL 3	身の回りの物の名前：身体部位と衣服
第14回	数詞（基数）と年号
第15回	前期の学期末試験の実施と解説
第16回	導入：後期授業の概説と評価方法に関する説明
第17回 AL 3	ショッピング：「～はありますか。」
第18回 AL 3	レストラン：メニューと注文の仕方
第19回 AL 3	旅行：道の尋ね方
第20回	時刻の表現
第21回	天気表現
第22回	別れの挨拶
第23回	健康状態：症状と病名
第24回	病院：医者・看護師・患者
第25回	小テスト：簡単な質問とその答え方
第26回 AL 3	電話の会話
第27回 AL 3	驚きの表現
第28回 AL 3	悲しみの表現
第29回 AL 3	祝辞
第30回	後期の学期末試験の実施と解説

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 小テスト 30%					
教科書	『楽しいドイツ語の旅—ペア練習で学ぶ初級ドイツ語—』神竹道士・田島昭洋（朝日出版社）					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習（内容・時間）	教科書の下調べ（1時間）					
事後学習（内容・時間）	既習事項の再確認（1時間）					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する					
備 考				オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	—	○	○	—

Ⅱ 專 門 基 礎 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

倫理学の基本的な概念・原理を解説し、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期医療、生殖補助医療、遺伝子医療といったテーマを扱い、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題に関して、背景知識と判断材料を提供しつつ、学生が主体的に問題を検討し、意見を交換する場を設ける。こうしたことを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うよう授業を行う。

到達目標

- 倫理に関する知識を深め、説明することができる。
- 倫理が問われる医療諸問題について、さまざまな見解を認識し、説明することができる。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回 AL 2	倫理学の考えかたⅠ ―基本編
第3回 AL 2	倫理学の考えかたⅡ ―さまざまな倫理学説
第4回 AL 2	インフォームド・コンセントと看護の視点
第5回 AL 2	道徳的想像力
第6回 AL 2	安楽死・終末期の治療停止をめぐる
第7回 AL 2	脳死と臓器移植
第8回 AL 2	人工妊娠中絶をめぐる
第9回 AL 2	出生前診断と選択的中絶
第10回 AL 2	文献を読んで考える ―レポート執筆のためのワークショップ
第11回 AL 2	生殖補助医療Ⅰ ―不妊治療をめぐる状況
第12回 AL 2	生殖補助医療Ⅱ ―AIDと代理出産の問題
第13回 AL 2	最先端医療の倫理
第14回 AL 2	医療とは ―看護の見地からの意味
第15回 AL 2	死生学の課題

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ 成果物（各回の小レポート）40％					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。資料は各回に配布する					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマに関連する文献を紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ―宗教なき時代に生死を語る』（京都大学学術出版会）の一読を薦める。					
事前学習（内容・時間）	シラバスに提示した各回のテーマについて、事前に情報を集めておく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義時に紹介した文献を読み、理解を深める（2時間）					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては、次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする					
備考	生命倫理は自ら考え、対話することによって初めて自分のものになります。みなさんの主体的・積極的な取り組みを期待します			オフィスアワー	講義時の前30分。またTeamsの「チャット」を利用した質問は随時受け付けます。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生涯教育論	伊佐 夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KSB23101

科目の概要

これからの社会で必要とされる生涯教育（生涯学習）とは何か、生涯教育の理念や意義、役割について学び、今後の生涯教育の在り方についての理解を深めるための内容を講義する。

到達目標

- 現代社会における生涯教育の意義や役割についての理解を深め、説明できる。
- これからの生涯学習社会の中で、自己の生涯学習に取り組むスキルや方法を類別できる。
- 生涯教育に関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	イントロダクション 生涯にわたる人間形成
第2回 AL 2	生涯教育の理念と思想
第3回 AL 2	生涯学習の多様な学習方法①
第4回 AL 2	生涯学習の多様な学習方法②
第5回 AL 2	子どもを育てる地域コミュニティ
第6回 AL 2	南北問題やグローバルな課題への取り組み①
第7回 AL 2	南北問題やグローバルな課題への取り組み②
第8回 AL 2	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割①
第9回 AL 2	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割②
第10回 AL 2	メディア・リテラシー①
第11回 AL 2	メディア・リテラシー②
第12回 AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割①
第13回 AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割②
第14回 AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割③
第15回 AL 2	これからの生涯教育（生涯学習）を構想する

成績評価方法	成果物 60% 定期試験（レポート） 40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します					
参考文献	『よくわかる生涯学習』香川正弘ほか編（ミネルヴァ書房）					
事前学習（内容・時間）	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	フルイミエコ	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

この教科では「アートによる癒し」について、創造と享受の二方向から取り上げて説明します。特に学生自身が表現者としての喜びを実感しながら学ぶことを重視し、主に臨床美術の手法に基づく作品制作と作品を介したアートコミュニケーションを実施し、看護の場で生かせる感性と技術を教授します。

到達目標

- 学生がアートの役割と可能性について自分の言葉で説明できる。
- 学生が色や形など美術の造形を楽しみ、感じるままに表現することができる。
- 学生が自分の感性と学習した手法で看護に役立つアートを用いることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	授業概論～癒しと芸術 看護とアートの関わりを考える、創造と享受 作品「アナログ画を描く」
第2回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (1) 臨床美術の理論～右脳モードで描く、作品「線と色で遊ぶ」
第3回	絵は誰でも描ける？ (2) 臨床美術の理論～QOLを高めるアート、十人十色の表現
第4回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (3) 臨床美術の現場から～認知症、高次脳機能障害 演習「三原色のクロッキー」
第5回	絵は誰でも描ける？ (4) アートとアートセラピー、アートは誰のもの？
第6回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (5) モチーフを感じる、作品「りんごの量感画」
第7回	絵は誰でも描ける？ (6) 患者の表現の変化
第8回 AL 5	アートコミュニケーション (1) I (アイ) メッセージの大切さ 作品「パステル色の空」
第9回 AL 3	アートコミュニケーション (2) 観賞会をしてみよう 作品「パステル色の空」
第10回	アートコミュニケーション (3) 制作過程でのコミュニケーション
第11回 AL 5	アートコミュニケーション (4) 信じるということ 作品「紅葉を描く」
第12回 AL 3	アートコミュニケーション (5) 観賞会をしてみよう 作品「紅葉を描く」
第13回 AL 5	看護におけるアートの役割 (1) こどもとアート、障害者とアート 作品「いろいろ田んぼ」
第14回 AL 5	看護におけるアートの役割 (2) いてくれてありがたいの精神 作品「モザイクリズム」
第15回 AL 3	まとめ～癒しと芸術 今を生きるアート

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』宇野正威、芸術造形研究所編（金剛出版発行）、『臨床美術のすすめ』日本臨床美術協会編（日本地域社会研究所発行）					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実技作品画像の提出、小テスト（2時間）					
フィードバックの方法	授業の時間内に成果物についてコメント。質問は次回の授業にて回答する					
備 考	画材は指定のものを使うこと。指示のあるものは各自が事前に用意すること			オフィスアワー		Teamsにて随時受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ (外科系)	高原 史郎	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21102

科目の概要

外科各科に共通する臨床看護学に必要な知識と技術や理念を修得することを目的とした講義をする。特に外科看護の総論に力点をおき、各論では病態治療学Ⅰ（病理学）の内容を基盤とし、外科治療の対象となる疾患とその治療法について講義する。総論では、外科医療に特異的な看護の基礎、周手術期・手術前・手術中・手術後の患者に対する看護、I C Uにおける看護、各論では、頭部、胸部、腹部、四肢、小児に関する外科的疾患及び臓器移植についての理解を促す講義をする。

到達目標

- 外科医療の看護、周手術期・手術前・手術中・手術後、ICUにおける看護及び臓器移植についての知識を述べることができる。
- 外科各科の基本的な技術について述べることができる。
- 疾患に関する外科的アプローチについての考え方を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	滅菌法および消毒法
第2回	手術室の構造と機能、手術室業務（手洗い、手術介助、機械だし）
第3回	外科治療上注意すべき術前の合併疾患（感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、肥満、免疫不全、精神障害）
第4回	術後合併症1（中枢神経系合併症、循環器系合併症）
第5回	術後合併症2（呼吸器系合併症、消化器系合併症、術後感染症、多臓器不全）
第6回	輸液、輸血、栄養 1
第7回	輸液、輸血、栄養 2
第8回	麻酔
第9回	鏡視下手術
第10回	腹部疾患1（消化管癌、急性腹症）
第11回	腹部疾患2（肝胆臓）
第12回	頭部疾患（外傷、脳出血、脳梗塞）藤岡政行先生
第13回	胸部疾患（乳癌、心筋梗塞、肺癌、気胸）
第14回	小児外科（小児外科の特徴と術前術後管理）、老人外科（高齢者患者の特徴と術前術後管理）
第15回 AL 6	臓器移植

成績評価方法	定期試験（レポート）50％ 小テスト 30％ 成果物 20％					
教科書	『ナースの外科学』磯野可一編著（中外医学社）					
参考文献	『外科系実践的看護マニュアル』川島みどり他（看護の科学社）					
事前学習（内容・時間）	教科書及びレジメを2回予習すること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義中に行った小テストについて復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	レポートは採点后、点数表を配布します。小テストはテスト後に授業内で解説します					
備 考				オフィスアワー	Teamsにて随時受付	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
薬理学	内海 美保	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法を提供するため、薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響を講義する。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意など、薬物療法に関する幅広い視点から授業を行う。第1～3回目の総論では、薬の基本を概説し、第4回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品について疾患を踏まえて講義する。

到達目標

- 薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響について説明できる。
- 臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴、使用上の注意等）を列举できる。
- 薬物療法の際の看護のポイントを指摘できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	総論（1）
第2回 AL 2	総論（2）
第3回 AL 2	総論（3）
第4回	抗感染症薬（1）
第5回	抗感染症薬（2）
第6回	抗がん薬（1）
第7回	抗がん薬（2）
第8回	免疫治療薬
第9回	抗アレルギー薬・抗炎症薬
第10回	末梢での神経活動に作用する薬物
第11回	中枢神経系に作用する薬物
第12回	循環器系に作用する薬物（1）
第13回	循環器系に作用する薬物（2）
第14回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第15回	物質代謝に作用する薬物

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学』吉岡充弘、泉 剛、井関 健 編著（医学書院）					
参考文献	『NEW 薬理学』田中千賀子、加藤隆一編著（南江堂）					
事前学習（内容・時間）	今回の講義内容を教科書で確認しておくこと。（30分間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容が広範囲に及ぶため、1回の講義ごとに必ず復習をすること。（2時間）					
フィードバックの方法	レポート・小テストについては、授業内で解説を行います					
備考	授業に関するアナウンスはTeamsで行います。 質問はTeamsのチャット機能で受け付けます			オフィスアワー		授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	白井 文恵	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

微生物が原因で起こる感染症という疾病について、および、感染に対する生体の防御機構である免疫について講義する。また、感染症を予防するために必要な知識について講義する。

到達目標

- 感染症の原因である病原微生物の特徴や感染症という病気の特徴を理解し、説明できる。
- 感染に対する生体防御の仕組みについて理解し、説明できる。
- 看護職として感染症を予防するための行動を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業オリエンテーション 微生物と微生物学
第2回	細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質
第3回	感染と感染症
第4回	感染源、感染経路からみた感染症
第5回	感染に対する生体防御機構（自然免疫）
第6回	感染に対する生体防御機構（獲得免疫）
第7回	滅菌と消毒、感染症の検査と診断
第8回	感染症の治療
第9回	主な病原微生物による感染症（呼吸器感染症）
第10回	主な病原微生物による感染症（消化器感染症）
第11回	主な病原微生物による感染症（性感染症）
第12回	主な病原微生物による感染症（体表部位感染症）感染症の現状と対策、感染看護（課題提示）
第13回 AL 2	感染症の現状と対策（個人あるいはグループ討論と発表）
第14回 AL 2	感染看護（個人あるいはグループ討論と発表）
第15回	講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学』南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法、齋藤光正、大野真治（医学書院）					
参考文献	講義中に適宜提示します					
事前学習（内容・時間）	教科書の授業範囲を読む（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義の内容を確認する（1時間）					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います					
備考				オフィスアワー	メールにて受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	—	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学	日高 庸晴	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21104

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

- 「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付け、述べることができる。
- 疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解し、説明できる。
- 現代の健康課題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	疫学の歴史と定義
第2回	日本での疫学のはじまり、脚気、教育映像（大いなる航海）
第3回	研究デザイン1
第4回	研究デザイン2
第5回	疫学の基礎的な考え方：因果関係や疾病・診断の定義
第6回	コホート研究、教育映像（生命への警鐘）
第7回 AL 6	スクリーニング、データのバイアス
第8回	講義前半の振り返り
第9回	感染症の疫学1：差別と疾病－ハンセン病の歴史
第10回	感染症の疫学2：コレラ・感染症分類（1～5類）、感染症関連法規
第11回	行動疫学・臨床疫学、教育映像（7,000人のカルテ）
第12回	子どもの健康課題を疫学的視点で読み解く
第13回	国際保健
第14回	環境疫学
第15回	産業疫学・疾病別の疫学動向

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学』牧本清子（医学書院）					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義全体でシェアすると共に、講評します					
備 考	講義中のスマートフォン使用・私語は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	△	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	講義・演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について教授する。具体的にはE BMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムについて概説する。さらに医療情報や公の統計情報などの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌など情報リソースやデータ検索ベースを活用した情報収集とその整理・データの読み取り方やプレゼンテーション方法を教示する。

到達目標

- 医療に関する情報をアクティブに収集していくことの重要性を理解し、実施できる。
- 医療に関する情報の収集の過程で、情報にはクオリティがあることを知り、その重要性を述べることができる。
- 医療に関する情報のクオリティと善し悪しを見分け、最善の情報収集技術について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションー健康や保健医療に関する情報、情報リテラシーとは
第2回	EMBの理念
第3回	医療情報の検索のために (1)
第4回	医療情報の検索のために (2)
第5回 AL 6	医療情報の検索のために (3)
第6回 AL 6	医療情報の検索のために (4)
第7回 AL 6	医療情報の検索のために (5)
第8回	わが国の性教育の現状ー疫学データをもとにー
第9回	公衆衛生に関する保健統計 (1) インフルエンザをはじめとする感染症の疫学と対策
第10回	公衆衛生に関する保健統計 (2) 公衆衛生と人権 これまでにあった事例から
第11回	子どもの虐待の現状とその支援についてー医療情報としての統計資料をもとにー
第12回	思春期の健康課題とSNS
第13回 AL 4	課題のプレゼンテーション
第14回 AL 4	課題のプレゼンテーション
第15回	看護職における保健統計の重要性

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜配布資料を用意します					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと (2時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること (2時間)					
フィードバックの方法	プレゼンテーションについて講義時に全体でシェアすると共に、講評します					
備考	講義中のスマートフォン使用・私語は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康	大本 友香	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実施することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し、コミュニケーション力・チーム力及びリーダーシップ力を高め発揮できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性／ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、動きの仕組み／有酸素運動①
第2回 AL 3	殿部の筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み／有酸素運動②
第3回 AL 3	大脚後面の筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み／有酸素運動③
第4回 AL 3	大脚前面の筋肉と関わる骨、関節①／ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み／有酸素運動④
第5回 AL 3	大脚前面の筋肉と関わる骨、関節②／ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み／有酸素運動⑤
第6回 AL 3	脚サイドに関わる筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み／有酸素運動⑥
第7回 AL 3	下肢に関わる筋肉と関わる骨、関節①／ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み／体操①
第8回 AL 3	内転に関わる筋肉と関わる骨、関節②／ボールを使った運動と肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操②
第9回 AL 3	腹部に関わる筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操③
第10回 AL 3	胸からか肩に関わる筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操④
第11回 AL 3	背中に関わる筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操⑤
第12回 AL 3	背中に関わる筋肉と関わる骨、関節／ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操⑥
第13回 AL 3	ピラティス、動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 4	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60％ 小テスト 40％					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社）、『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝（西東社）、『筋肉と関節しくみと動きが見える事典』末吉勝則・中田康夫（永岡書店）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技なので水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装（前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない）、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなもの用意。			オフィスアワー		授業後15分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
福祉情報技術	大西 雅裕	講義・演習	2年次 前期	選択	2	30	KSB23201

科目の概要

電子・情報技術の進歩によって私たちの生活は便利で豊かになり、新しい福祉社会を実現しようとする試みが始まった。本講義では、看護をされる側、する側が容易に情報の共有ができるネットワークや障害者・高齢者に使いやすい福祉機器・コミュニケーション支援技術の特質やバリアフリー、ユニバーサルデザイン等の現状・将来について考え、グループワーク等の演習を通じて、「福祉情報社会」についての理解を深められるように授業を進める。

到達目標

- 「福祉情報社会」の現状及び福祉情報技術の理論を理解し、概要を述べることができる。
- グループ演習において、コミュニケーション支援の方法を実践できる。
- 障害者・高齢者に使いやすい福祉機器について理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	オリエンテーション 社会福祉と障害者福祉と福祉機器
第2回	社会福祉の定義、概念
第3回	社会福祉の概念とその歴史的展開
第4回	社会福祉の方法①
第5回 AL 6	社会福祉の方法②
第6回 AL 3	障害者と高齢者の現状①
第7回	障害者と高齢者の現状②
第8回	障害者福祉と高齢者福祉①
第9回 AL 3	障害者福祉と高齢者福祉② アクセシビリティについて
第10回 AL 3	福祉機器についての情報収集①
第11回 AL 3	福祉機器についての情報収集②
第12回 AL 3	福祉機器についてのグループワーク①
第13回 AL 3	福祉機器についてのグループワーク②
第14回 AL 4	グループ課題別発表会
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）70％ 小テスト 30％					
教科書	講義資料を作成する					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	授業中に提示する事前課題に取り組む（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業の振り返り、授業中に出す課題を必ず行うこと（2時間）					
フィードバックの方法	課題に対しては授業でフィードバック、コメント等で返却します					
備 考				オフィスアワー		授業での対応とメール等での質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。コロナ禍、少子化・高齢化の促進等による人口の変化がその要因となっている。本講義は、医療と経済の関係をわかりやすく講義し、効果的・効率的なケアを保証するために、経済を理解する必要性を説明する。

到達目標

- 経済学、行動経済学の基本を理解し、その考え方を述べることができる。
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できる。
- 行動経済学の考え方を医療・看護への応用例で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回	経済学の基礎①
第3回	経済学の基礎②
第4回 AL 2	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状
第5回	人口動態、世帯構成
第6回 AL 2	人口動態、世帯構成と医療・看護の関係
第7回	医療従事者数、医療施設数の現状
第8回 AL 2	医療と経済のまとめ①
第9回	行動経済学の基礎①
第10回	行動経済学の基礎②
第11回	ナッジとは何か
第12回 AL 2	行動経済学の応用①（仕事への応用）
第13回 AL 2	行動経済学の応用②（医療・健康活動への応用）
第14回 AL 2	行動経済学の応用③（医療・健康活動への応用）
第15回	医療と経済のまとめ②

成績評価方法	定期試験（レポート）80％ 成果物 20％					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます（講義で指示します）					
参考文献	『行動経済学の使い方』大竹文雄（岩波新書）					
事前学習（内容・時間）	医療・看護の関係をディスカッションするための事前準備（2時間）					
事後学習（内容・時間）	ディスカッションについて復習する（2時間）					
フィードバックの方法	課題等については授業中に解説し、返却します					
備考	講義はしっかり、わかるまで視聴して下さい			オフィスアワー	随時メールで受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	△	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
カウンセリング	伊藤 俊樹	講義	2年次 前期	選択	1	30	KSB23102

科目の概要

人間理解に役立つ基本的なところに関する理論を視聴覚素材を通して具体的に分かりやすく講義し、看護師・保健師にとって必要なカウンセリングマインドを身につけさせる。特に人間における無意識の働きについて詳細に述べ、他者や患者と信頼関係を築き上げるには、どのような態度が必要であるかについて説明する。

到達目標

- 無意識が人の行動にどのような影響を及ぼすか、具体例を通じて説明できる。
- カウンセリングの基礎理論を説明できる。
- 他者の行動や言葉を通して、他者の気持ちや感情を理解し、説明できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	カウンセリングの授業に関するオリエンテーション 無意識の働きについて 父性と母性について
第2回 AL 5	映画を通して、父性と母性について学ぶ 1
第3回 AL 5	映画を通して、父性と母性について学ぶ 2
第4回 AL 2	父性と母性という観点からみた人間の行動について
第5回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 1 反動形成について
第6回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 2 愛着について
第7回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 3 解離について
第8回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 4 抑圧について
第9回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 5 転換ヒステリーについて
第10回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 6 基本的信頼感について
第11回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 7 家族関係について
第12回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 8 父娘関係について
第13回 AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ 9 同一化について
第14回 AL 2	全体のまとめ
第15回	試験及び解説／まとめ、振り返り

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	特になし（プリントを配布する）					
参考文献	『カウンセリングの実際問題』河合隼雄（誠信書房）					
事前学習（内容・時間）	講義時に使用する参考文献等を次回の講義までに読んでおくこと（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義時に配布したレジュメを参考にしてノートにまとめる（45分）					
フィードバックの方法	疑問点等について授業の中で解説します					
備考	質問時は、積極的に発言し、授業に参加してください			オフィスアワー		授業終了後、適宜質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川章子	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21105

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を教授し、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を説明する。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを講義する。

到達目標

- 医療従事者として理解しておかなければならない社会保障制度を説明できる。
- グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして理解を深め、医療現場で使用できる社会保障制度を述べることができる。
- 「人を援助する」ことを学び、適切な援助をディスカッションできる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第2回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第3回 AL 3	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第4回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第5回 AL 4	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第6回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第7回 AL 3	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第8回 AL 4	青年期の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第9回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回 AL 3	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	高齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回 AL 4	成人期以降の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回 AL 3	年金制度の概要 —— 障害年金・遺族年金・老齢年金 ——

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	毎講義で講師の方から資料を配布します					
参考文献	『はじめての社会保障』棕野美智子、田中耕太郎（有斐閣）					
事前学習（内容・時間）	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること（2時間）					
フィードバックの方法	個人課題に対するコメントは、次回講義時に返却します。小テストの解答は次回講義時に解説します					
備 考				オフィスアワー	講義開始30分前	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

Ⅲ 專 門 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅰ (概論)	北島 洋子	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSP11101

科目の概要

基礎看護学Ⅰ（概論）は、看護の初学者が専門職としてキャリア発達を遂げていくための最初のステップとして、看護について考える重要な科目である。本科目においては、看護の対象者、看護専門職、看護の提供の仕組み等の看護に関する主要な概念（Concept）について広く概観し、看護活動の基盤として重要な倫理観や看護師の臨床判断の基盤となる気づく力を修得し、社会から必要とされる看護の役割と責務についての理解を深め、「看護とは何か」という問に対する学生自身の探求を円滑に深めることができるよう学習を支援する。

到達目標

- 看護における主要な概念（Concept）とその意味、および概念間の関連について説明できる。
- 看護師の臨床判断の基盤となる思考パターンについて説明し、自身の気づく力を伸長し表現することができる。
- 看護専門職として必要な倫理観に基づく視座から、看護の役割や責務について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 科目の位置づけと学習する意義と目的 看護・ケアとは
第2回 AL 2	看護のなりたち
第3回 AL 2	看護の対象者（1）人間・健康・環境
第4回 AL 2	看護の対象者（2）人間・健康・環境
第5回 AL 2	看護の提供者（1）看護実践の基盤 専門職の思考法
第6回 AL 2	看護の提供者（2）看護実践の原則
第7回 AL 2	看護の提供者（3）看護倫理
第8回 AL 2	看護の提供者（4）医療安全への取り組み
第9回 AL 2	看護の提供の仕組み（1）看護マネジメント
第10回 AL 2	看護の提供の仕組み（2）保健医療福祉サービス
第11回 AL 2	看護の提供の仕組み（3）法律・医療保険制度と介護保険制度・看護教育制度
第12回 AL 2	看護専門職の活躍（1）キャリア発達 専門看護師・認定看護師
第13回 AL 3	看護専門職の活躍（2）国際看護・災害看護
第14回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力
第15回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ 成果物 30％					
教科書	『看護学概論 第5版 看護追求へのアプローチ』田中幸子（医歯薬出版株式会社）、 『ケアとはなにか 看護・福祉で大切なこと』村上靖彦（中央公論新社）					
参考文献	『ケアの本質—生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ（みゆる出版）					
事前学習（内容・時間）	テキストの講義箇所を熟読し、準備して講義に臨む（1時間）					
事後学習（内容・時間）	『ケアとはなにか 看護・福祉で大切なこと』の通読と要約（1時間）					
フィードバックの方法	課題へのフィードバックはルーブリックを参照とし、講義中に必要に応じて説明を加える					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術)	北島 洋子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

看護の対象者とその家族は日常とは異なる環境や状況の中にあるため、看護者として関わりを持つとき専門的な高いコミュニケーション能力が求められる。本科目においてはコミュニケーションを構成する要素とプロセスを理解し、看護実践の基盤となる援助の人間関係を築くための基礎的な知識とスキルを身につけ、個々の学生が自身の力でコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学習を支援する。

到達目標

- 自己理解と他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
- 社会の一員として必要な言葉遣いやマナーとチームで活動するために必要な基本的なスキルを身につけ表現できる。
- 看護専門職として対象者と関係構築する際の素地となる気づく力を養いコミュニケーションすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス コミュニケーションを学ぶ意味 コミュニケーションを構成する要素とプロセス
第2回 AL 2	自分とのコミュニケーション (1) 自己理解 他者理解 自己受容
第3回 AL 2	自分とのコミュニケーション (2) 自己開示 自己表現 アサーティブコミュニケーション
第4回 AL 2	社会人としてのコミュニケーション 社会人基礎力 マナー 大人の語彙力
第5回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (1) 多職種連携 チームワーク コミュニケーションエラー
第6回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (2) コミュニケーション障害と看護
第7回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (3) リフレクション プロセスレコード
第8回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション (4) コーチング
第9回 AL 3	看護専門職としてのコミュニケーション (5) コーチング
第10回 AL 2	臨地実習におけるコミュニケーション (1) チーム活動 リーダーシップ メンバーシップ
第11回 AL 2	臨地実習におけるコミュニケーション (2) 挨拶、報告・連絡・相談
第12回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (3) カンファレンス
第13回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (4) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度
第14回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (5) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度
第15回 AL 3	臨地実習におけるコミュニケーション (6) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 1 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	講義時適宜提示する					
事前学習（内容・時間）	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめ、自分に置き換え考えてみる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる（1時間）					
フィードバックの方法	成果物に対するフィードバックやコメントは授業中に対話しながら解説する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	△	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅲ (健康教育)	牧野 裕子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

地域で生活する様々なライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団がより良い生活を目指して展開される地域看護の観点から、地域看護活動の場と役割、対象特性・活動の特徴を教授する。また、健康教育の理念および理論と方法について理解し、健康教育の方法、実践的なアプローチを、演習を通して理解できることを目的として教授する。

到達目標

- 地域保健活動の領域や特徴と施策を説明できる。
- 個人・集団を対象とする健康教育の目的や支援に用いられる健康教育理論について説明できる。
- 個人や集団の特性に合った健康教育を計画・実践する方法を説明できる。
- 効果的な健康教育の技術を、演習を通して習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	公衆衛生の歴史と地域保健活動の領域
第2回	現在の公衆衛生システムと政策
第3回	公衆衛生の理念・概念
第4回	公衆衛生のものさし：健康指標
第5回	公衆衛生看護活動のプロセス1：個へのアプローチと集団へのアプローチ
第6回	公衆衛生看護活動のプロセス2：グループ活動と組織化
第7回	公衆衛生看護活動のプロセス3：日本人の健康課題と健康施策
第8回	保健師活動の実際・識の確認（小テスト）
第9回	健康教育の概念
第10回	健康教育と保健行動
第11回 AL 3	健康教育の方法と媒体
第12回 AL 3	健康教育・患者教育の立案（演習）
第13回 AL 3	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）①
第14回 AL 3	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）②
第15回 AL 4	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）③

成績評価方法	小テスト 60% 成果物 40%					
教科書	『公衆衛生看護学 第3版』上野昌江、和泉京子（中央法規）					
参考文献	『ナースিং・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生』平野かよ子、山田和子、曾根智史、守田孝恵（メディカ出版） 『公衆衛生がみえる 保健・医療・福祉・介護スタッフの共通テキスト』医療情報科学研究所（メディックメディア） 『厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2021/2022』厚生労働統計協会 『最新保健学講座〈別巻1〉健康教育論』宮坂忠夫編著（メヂカルフレンド社）					
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（1時間）					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－１ (基礎看護技術)	平野加代子 基礎看護学教員	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護ケアに共通する基本的な知識と技術、日常の生活行動に関する援助としての看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づいた原理・原則について教授する。

到達目標

- 原理原則に基づいた看護技術を提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護技術を計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護技術を展開することができる。
- 対象の生活行動を整えることの意義を理解し、その基本的な実践方法が説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス
第2回 AL 2	看護技術を実施するために基盤となること（講義）
第3回 AL 3	観察の技術（講義）
第4回 AL 3	感染を防止するための基本技術①〔スタンダードプリコーション〕（講義）
第5回	感染を防止するための基本技術②〔スタンダードプリコーション〕（講義）
第6回	療養生活を整えるための援助技術①（講義）
第7回	療養生活を整えるための援助技術②（講義）
第8回	活動と休息に関する援助技術①〔活動と休息に関する技術〕（講義）
第9回	活動と休息に関する援助技術②〔活動と休息に関する技術〕（講義）
第10回	清潔に関する援助技術①（講義）
第11回	清潔に関する援助技術②（講義）
第12回	食事と排泄に関する援助技術①（講義）
第13回	食事と排泄に関する援助技術②（講義）
第14回	看護技術の統合①
第15回 AL 6	看護技術の統合② まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護学技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	『看護が見える① 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	授業資料・テキスト・動画で学習し、事前課題に取り組む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	学習課題を提出し、技術を修得できるまで、繰り返し練習する（1～3時間）					
フィードバックの方法	課題はコメントを記入しますので確認してください					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－２ (基礎看護技術)	平野加代子 基礎看護学教員	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

治療や検査などの身体侵襲を加える技術は、正確性・安全性・安楽性が求められ、さらに高い倫理観が必要とされていることを理解した上で実践できなければならない。そのために基礎的な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、医療安全の視点から理解できるように授業を展開する。授業は、講義と演習を組み合わせた主体的学習が取り組めるように指導する。

到達目標

- 診療の補助にかかわる看護の基本技術の原理原則や援助方法が安全の視点から述べることができる。
- 対象者に必要な看護技術を計画することができる。
- 診療の補助にかかわる看護技術を行う上での、安全性・安楽性、看護師としての倫理観が求められる理由を述べることができる。
- バイタルサイン測定は正確性・安全性・安楽性を考慮した技術を修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、診療の補助にかかわる看護の基本技術と安全①（講義）
第2回 AL 3	バイタルサインの基礎①（講義・演習）
第3回 AL 3	バイタルサインの基礎②（演習）
第4回 AL 3	バイタルサインの基礎③（演習）
第5回	自然に酸素を取り込むことが困難な対象者への援助①（講義）
第6回	感染を防止するための基本技術①〔基礎知識、針刺し事故〕（講義）
第7回 AL 3	感染を防止するための基本技術②〔滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション〕（演習）
第8回 AL 3	感染を防止するための基本技術③〔滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション〕（演習）
第9回	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への援助①（講義）
第10回 AL 3	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への援助②〔創傷の消毒、ドレッシング〕（演習）
第11回	検査を受ける対象者への援助①（講義）
第12回	検査を受ける対象者への援助②（講義）
第13回 AL 3	検査を受ける対象者への援助③〔静脈血採血〕（演習）
第14回 AL 3	検査を受ける対象者への援助④〔静脈血採血〕（演習）
第15回	薬物療法を受ける対象者への援助①（講義）
第16回	薬物療法を受ける対象者への援助②（講義）
第17回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助③〔アンプル、バイアル、注射器の取り扱い〕（演習）
第18回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助④〔皮下注射、筋肉内注射〕（演習）
第19回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助⑤〔皮下注射、筋肉内注射〕（演習）
第20回 AL 3	薬物療法を受ける対象者への援助⑥〔輸液〕（演習）
第21回 AL 3	バイタルサインの基礎④（演習）
第22回 AL 3	バイタルサインの基礎⑤（演習）
第23回	自然排泄が困難な対象者への援助①〔排便・排尿〕（講義）
第24回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助②〔一時的導尿〕（演習）
第25回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助③〔一時的導尿〕（演習）
第26回 AL 3	自然排泄が困難な対象者への援助④〔浣腸〕（演習）
第27回	栄養摂取が困難な対象者への援助①（講義）
第28回	輸血を受ける対象者への援助①（講義）
第29回 AL 3	技術の統合①
第30回 AL 3	技術の統合②

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 定期試験（実技）20％ 成果物 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）、 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）『看護がみえるvol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	テキストや配布資料の精読と関連動画の視聴により、技術の手順と根拠を頭に入れて演習に臨む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける（1～3時間）					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備 考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	梅川 奈々 基礎看護学教員	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

フィジカルアセスメントは、対象者の身体的状態について、系統的に主観的・客観的情報を得て、対象の健康状態を判断する。本科目では、フィジカルアセスメントの意義や重要性を理解し、身体の情報を得るための基本的知識・技術・態度が習得でき、得た情報について正常・異常の判断ができるように事例を用いながら教授する。

到達目標

- 看護の場面におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。
- フィジカルイグザミネーションの基本技術の方法と根拠が説明でき実施できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正確に記録できる。
- 看護過程におけるフィジカルアセスメントが実施でき、援助計画を立案することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ヘルスアセスメントと看護の役割とフィジカルアセスメントの概念
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術とシステムレビュー（講義）
第3回 AL 3	バイタルサイン測定（演習）
第4回	脳神経系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第5回	脳神経系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第6回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（講義）
第7回 AL 3	脳神経系と筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第8回	呼吸器系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第9回	呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメントの基本（講義）
第10回	循環器系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第11回 AL 3	呼吸器系と循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第12回	消化器系のフィジカルアセスメントの基本（講義）
第13回	消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際（演習）
第14回 AL3,4	事例を用いたフィジカルイグザミネーション
第15回	フィジカルアセスメントのまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％					
教科書	『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学（2）ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他編（メディカ出版）					
参考文献	『フィジカルアセスメントワークブック 身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる』山内豊明著（医学書院）、その他は開講時・随時提示します					
事前学習(内容・時間)	人体の構造と機能についての事前学習、フィジカルイグザミネーションの方法について（2時間）					
事後学習(内容・時間)	事後レポート（1時間）					
フィードバックの方法	事後レポート毎にフィードバックします					
備 考	血圧計、聴診器、授業資料、テキストを持参すること			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅵ (看護過程)	平野加代子 澤田 京子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程は、看護の知識体系に基づいて、対象の健康上の問題を明らかにし、最適かつ個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法のひとつである。本科目においては、効果的な看護活動を展開するための系統的な問題解決技法である看護過程を展開する方法を2事例について講義・演習を通して教授する。

到達目標

- 看護過程の概念と構成要素を説明できる。
- 事例に対する看護過程の展開ができる。
- 事例に対する個別性を考慮した看護計画を立案することができる。
- 事例の看護計画に基づいた実践・評価ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素
第2回	看護過程の5つの段階と事例展開を行う上で必要な準備
第3回	事例1：事例紹介と情報収集
第4回 AL 3	事例1：情報と分類
第5回 AL 3	事例1：アセスメントと全体像
第6回 AL 3	事例1：アセスメントと全体像関連図
第7回 AL 3	事例1：全体像関連図と問題の明確化
第8回 AL 3	事例1：看護計画立案
第9回 AL 3	事例2：事例紹介と情報収集
第10回 AL 4	事例2：全体像関連図と問題の明確化
第11回 AL 3	事例2：看護計画立案 看護の実践と評価
第12回 AL 3	援助計画
第13回 AL 3	事例に基づく看護実践
第14回 AL 3	事例に基づく看護実践
第15回 AL 2	看護実践の評価 まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 50%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護学技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）、『基準看護計画第4版』矢田昭子他（照林社）、『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』（医療情報科学研究所）					
参考文献	『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド』任 和子（照林社）					
事前学習（内容・時間）	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	指定された課題（2時間）					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時または提出後に講評する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅰ (概論)	中川ひろみ 房間 美恵	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSP11102

科目の概要

成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題とともに、健康課題による生活への影響について概説する。また、生活習慣、職業、生活ストレスに関連する健康障害について解説する。さらに、発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護実践に必要な概念や理論について教授する。

到達目標

- 成人期の特徴を身体的変化と心理的・社会的諸相との関連による統一体として説明できる。
- 成長発達過程と健康及び健康課題について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
- セルフケアによる生活の再構築やquality of life(QOL)を維持する看護について説明できる。
- 成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
- 健康レベルに応じた看護の方法に関する概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	成人期にある人の理解：ライフサイクルから見た成人期の区分と特徴
第2回	成人期の特徴：身体的変化と心理的・社会的発達の相互関係
第3回 AL 3	成人期にある人の健康①：生涯発達の視点から見た成人期にある人の健康をめぐる諸問題
第4回 AL 4	成人期にある人の健康②：ライフモデルでとらえる成人期にある人の保健と健康課題
第5回	成人への基本的な看護アプローチ：成人各期の特徴と成人期を取りまく環境
第6回 AL 3	成人各期の特徴（身体的・心理社会的）と健康問題、就業環境と健康問題
第7回 AL 3	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 -1 事例検討
第8回 AL 4	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 -2 事例検討
第9回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 -1
第10回 AL 3	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 -2
第11回 AL 4	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 -3
第12回 AL 3	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護：ヘルスプロモーション（1次予防・2次予防・3次予防）
第13回	成人期にある人の学習の特徴と看護
第14回	回復期・慢性期の健康障害の特徴と看護
第15回	急性期の健康障害の特徴と看護

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える』林直子他編集（南江堂）					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論』小松浩子他（医学書院）、 『ナースングラフィカ 成人看護学 [1] 成人看護学概論』安酸史子他編集（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	次のシラバスの内容について予習する（1時間）					
事後学習（内容・時間）	課題について学習する（1時間）					
フィードバックの方法	課題・レポートに対しては、Temasを活用したフィードバックや全体に向けて講評します					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	中川・國松 房間・前中 浅井・小林・神寶	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

急激に健康レベルが低下し生命の危機的状態が生じた成人期の患者および家族の特徴を説明し、救命救急時や集中治療下での援助と慢性疾患の急性増悪期の援助および周手術期の援助について教授する。また、生命の危機的状態を脱した回復期における成人期の患者および家族の特徴を説明し、社会生活への復帰に向けた看護援助について教授する。

到達目標

- 急性期から回復期における成人期の患者の身体・心理・社会的な特徴を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の特徴を踏まえて心身の状態を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の回復にむけた援助の方法について説明できる。
- 急性期から回復期において必要とされる看護の役割や技術を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	急性期における看護の特徴
第2回 AL 3	手術前患者の看護①
第3回 AL 3	手術前患者の看護②
第4回 AL 3	手術中患者の看護①
第5回 AL 3	手術中患者の看護②
第6回 AL 3	手術後患者の看護①
第7回 AL 3	手術後患者の看護②
第8回 AL 3	手術後患者の看護③
第9回 AL 3	手術後患者の看護④
第10回 AL 3	手術後患者の看護⑤
第11回 AL 3	一次救命処置（BLS）①
第12回 AL 3	一次救命処置（BLS）②
第13回 AL 3	救急医療や集中治療における看護①
第14回 AL 3	救急医療や集中治療における看護②
第15回 AL 3	呼吸器機能障害のある患者の看護①
第16回 AL 3	呼吸器機能障害のある患者の看護②
第17回 AL 3	循環器機能障害のある患者の看護①
第18回 AL 3	循環器機能障害のある患者の看護②
第19回 AL 3	消化器機能障害のある患者の看護①
第20回 AL 3	消化器機能障害のある患者の看護②
第21回 AL 3	脳・神経機能障害のある患者の看護①
第22回 AL 3	脳・神経機能障害のある患者の看護②
第23回 AL 3	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護①
第24回 AL 3	肝臓・胆道系・膵臓機能障害のある患者の看護①
第25回 AL 3	運動機能障害のある患者の看護①
第26回 AL 3	運動機能障害のある患者の看護②
第27回 AL 3	演習：術後観察①
第28回 AL 3	演習：術後観察②
第29回 AL 3	演習：術後観察③
第30回 AL 3	演習：術後観察④

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 演習(実技) 10%					
教科書	『ナースングラフィカ 成人看護学④ 周術期看護』中島恵美子、山崎智子、竹内佐智恵編集(メディカ出版)、『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護・クリティカルケア』佐藤まゆみ、林直子編集(南江堂)					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄他(医学書院) 『系統看護学講座 臨床外科看護総論』矢永勝彦(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ/Ⅱ、病態治療学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲについて学習しておいてください(1時間)					
事後学習(内容・時間)	課題について学習をしてください(1時間)					
フィードバックの方法	レポートは授業中あるいはTeamsなどを用いて適宜フィードバックを行います					
備考	演習を行うため、実習室では白衣を着用してください			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	△	—	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	中川・房間 國松・浅井 前中・小林・神寶	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

我が国において慢性疾患を有する人は年々増加しており、深刻な健康問題となっている。慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人とその家族の特徴や病気とともに生活する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について教授する。また、ターミナルケア・緩和ケアに関する概念およびターミナルケアを必要とする人および家族への援助方法を教授する。

到達目標

- 慢性疾患をもつ人とその家族の特徴について説明できる。
- 慢性疾患をもつ人の援助方法について説明できる。
- 緩和・ターミナルケアにかかわる概念、援助の基本的な考え方を説明できる。
- 患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、ターミナルケア・緩和ケアの必要性を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本①
第2回 AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本②
第3回 AL 2	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助
第4回 AL 2	循環器系の障害を有する人とその家族への援助
第5回 AL 2	消化器系の障害を有する人とその家族への援助
第6回 AL 2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助①
第7回 AL 3	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助②
第8回 AL 3	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助③
第9回 AL 3	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助
第10回 AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助①
第11回 AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助②
第12回 AL 2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助①
第13回 AL 2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助②
第14回 AL 2	ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解および看護援助
第15回 AL 2	ターミナルケアにおける倫理

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 20% 演習 10%					
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』鈴木久美、野澤明子、森一恵編（南江堂） 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』鈴木志津枝、内布敦子編（ヌーヴェルヒロカワ）					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄、岡田隆夫（医学書院）、 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学』田中越郎（医学書院）					
事前学習（内容・時間）	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱで授業テーマと関連するところを復習しておくこと（1時間）					
事後学習（内容・時間）	課題について学習をすること（1時間）					
フィードバックの方法	課題にコメントを記入して、返却します					
備考	主体的な参加を望みます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	—	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	中川・房間 國松・浅井 前中・小林・神寶	演習	3年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人への看護援助に必要な知識・看護技術が習得できるように指導する。事例を通して急性期または慢性期の患者を身体的・社会的・心理的側面から総合的にとらえ、様々な知識や情報を用いてアセスメントを行うことで看護上の問題を抽出し、患者が必要としている看護の明確化および実践ができるように教授する。

到達目標

- 手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人に必要な看護援助を演習を通して実施できる。
- 急性期または慢性期の患者の看護上の問題を、看護理論を用いてアセスメントし、優先順位を考えて抽出できる。
- 看護上の問題から患者の目標を考え、目標を達成するために必要な看護援助を立案および評価できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	成人看護援助に必要な看護過程①
第2回 AL 2	成人看護援助に必要な看護過程②
第3回 AL 2	慢性期における看護過程の展開①
第4回 AL 2	慢性期における看護過程の展開②
第5回 AL 2	慢性期における看護過程の展開③
第6回 AL 2	慢性期における看護過程の展開④
第7回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑤
第8回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑥
第9回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑦
第10回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑧
第11回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑨
第12回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑩
第13回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑪
第14回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑫
第15回 AL 3	急性期における看護過程の展開①
第16回 AL 3	急性期における看護過程の展開②
第17回 AL 2	急性期における看護過程の展開③
第18回 AL 2	急性期における看護過程の展開④
第19回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑤
第20回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑥
第21回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑦
第22回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑧
第23回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑨
第24回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑩
第25回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑪
第26回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑫
第27回 AL 2	術直後の観察①
第28回 AL 2	術直後の観察②
第29回 AL 2	術直後の観察③
第30回 AL 2	術直後の観察④

成績評価方法	成果物 80% 演習（実技）20%					
教科書	『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』江川隆子編集（ヌーヴェルヒロカワ）、『看護診断ハンドブック 第11版』リンダJ.カルペニート著（医学書院）					
参考文献	『病気がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌』医学情報（メディックメディア）、『病気がみえるvol.7 脳・神経』医学情報（メディックメディア）、『病気がみえるvol.1 消化器』医学情報（メディックメディア）、『病気がみえるvol.4 呼吸器』医学情報（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	既習の成人看護学の授業内容を復習してから授業に臨んでください（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください（1時間）					
フィードバックの方法	成果物に関しては適宜フィードバックを行います					
備考	この授業では後期からの実習を想定しているため演習を中心に行います			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅰ (概論)	加藤 泰子 高橋みどり 杉本 綾華	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21101

科目の概要

人の“老い”について、文化、家族、身体、心理、社会というさまざまな側面から捉え、学生個々が「老いの意味」を考え、老いの意味と価値をしっかりと見極める視点を養えるよう講義を行う。そして、高齢者の健康と生活を支える基盤となる知識や看護援助のあり方や老年看護の担うべき役割について講義する。

到達目標

- 老いの意味や価値について、自分の考えを述べることができる。
- 高齢者の特徴を多面的に捉えたうえで、高齢者の多様性や複雑性について説明できる。
- 老年看護の理念と目標、担うべき役割について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護学を理解するための基盤～“老い”の意味を考える～
第2回 AL 2	老年期の理解
第3回 AL 2	高齢者を取り巻く社会制度、高齢者の権利擁護
第4回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～対象特性・対象理解～
第5回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～からだ・こころ～
第6回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～かかわり・暮らし・生きがい・生活史～
第7回 AL 2	高齢者の「豊かな生」、老年看護学領域における倫理的課題
第8回 AL 3	老いを生きる高齢者の理解①（第1回～7回の講義内容を踏まえて、「高齢者の理解」に関するグループワーク）
第9回 AL 4	老いを生きる高齢者の理解②（第8回のグループワークの内容を発表し合い、「高齢者の理解」について深め合う）
第10回 AL 2	老年看護に活用できる理論・アプローチ
第11回 AL 2	高齢者の生活の支援
第12回 AL 2	高齢者の療養生活の支援
第13回 AL 2	高齢者の尊厳を支える看護と看取り
第14回 AL 2	家族介護者の生活支援、高齢者が暮らす地域づくり
第15回 AL 2	老年看護の理念と目標と課題

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 40％					
教科書	『老年看護学概論』（改訂第3版）正木治恵、真田弘美（南江堂）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する（1～2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする（1～2時間）					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	加藤 泰子 高橋みどり 杉本 綾華	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

認知症に対する歴史的経緯から現在の認知症に関する社会制度、認知症の原因疾患や症状など、認知症の高齢者の支援に必要な基本的知識に関する講義を行う。そして、認知症の当事者の言葉や経験を紹介することや視聴覚教材を通して、認知症を抱える高齢者とその家族介護者の思いや必要とする支援について共に考え学び合う。

到達目標

●認知症の歴史的経緯をふまえて、現在の認知症に関する社会制度や課題について説明できる。
認知症の症状や特有の心理状態、生活上の困難に対して、必要とされる支援について説明できる。
認知症の高齢者の思いや困りごとについて理解を深め、認知症の人が抱える苦痛について自分の言葉で述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、認知症に対する歴史的経緯と現状
第2回 AL 2	認知症の理解① ～定義・原因疾患～
第3回 AL 2	認知症の理解② ～症状・その他の疾患との関連～
第4回 AL 3	「恍惚の人」から学ぶ認知症の人と家族介護者への支援のあり方①
第5回 AL 4	「恍惚の人」から学ぶ認知症の人と家族介護者への支援のあり方②
第6回 AL 3	「father」から学ぶ認知症の「人」の理解と支援のあり方①
第7回 AL 4	「father」から学ぶ認知症の「人」の理解と支援のあり方②
第8回 AL 2	身体疾患を抱える認知症の人の看護

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 40％					
教科書	『老年看護学概論』（改訂第3版）正木治恵、真田弘美（南江堂）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする（2時間）					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	加藤 泰子 高橋みどり 杉本 綾華	演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

高齢者の看護実践に必要な基本的な技術について、①高齢者のヘルスアセスメントを実施する上で踏まえるべき特徴、・高齢者総合機能評価、②高齢者の生活場面に対する看護実践と評価の方法、③老年症候群の各症状が生活に及ぼす影響と看護、④高齢者に特徴的な疾患を抱える看護の実際、等の視点から講義する。

到達目標

- 老年看護におけるヘルスアセスメントの意義やその実際について説明できる。
- 各生活場面における高齢者の加齢変化をふまえた高齢者に対するフィジカルアセスメントと看護実践について説明できる。
- 老年症候群の各症状の病態・生活に及ぼす影響が説明でき、必要とされる看護について自分の言葉で述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護の特徴と目標
第2回 AL 2	老年看護の基本技術 ～ヘルスアセスメント～
第3回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～呼吸・食事・排泄～
第4回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～動作と移動・睡眠～
第5回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～体温・清潔～
第6回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～コミュニケーション・性～
第7回 AL 2	老年症候群の理解と看護
第8回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践①
第9回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践②
第10回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践③
第11回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践④
第12回 AL 2	パーキンソン病を抱える高齢者の看護
第13回 AL 2	薬物療法を受ける高齢者の看護①
第14回 AL 2	薬物療法を受ける高齢者の看護②
第15回 AL 2	老年看護技術の新たな動向と課題

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 40%					
教科書	『老年看護学技術』(改訂第3版) 真田弘美、正木治恵 (南江堂)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する (1～2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする (1～2時間)					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	加藤 泰子 高橋みどり 杉本 綾華	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

慢性疾患や加齢による身体機能の低下を抱える高齢者を対象とする老年看護学では、疾患や障害をもちながらも、その人らしく生活を営むことができるよう支援する。したがって、この授業で疾患や健康障害を有している生活者として幅広く高齢者を捉え、生活機能の観点からアセスメントし、必要とされる看護を抽出し実践・評価する一連の看護の過程を教授する。

到達目標

- 高齢者を身体的、心的・霊的、社会・文化的なホリスティックな存在として捉え、総合的に理解する方法を説明できる。
- 高齢者の看護に必要な情報を収集し、アセスメントし、看護計画を立て実践・評価する一連のプロセスの方法を説明できる。
- 高齢者の望む生活や状態像を見据えた目標志向型思考で高齢者の看護を展開する能力・実践力を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護の展開における考え方
第2回 AL 2	高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開の方法について
第3回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ①情報収集・整理
第4回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ②情報収集・整理、アセスメント
第5回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ③病態・生活機能関連図、アセスメント
第6回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ④病態・生活機能関連図、アセスメント、全体像
第7回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑤全体像、看護の焦点の抽出
第8回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑥看護目標の設定と看護計画の立案
第9回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑦看護目標の設定と看護計画の立案、アクティビティケア
第10回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑧看護実践（アクティビティケアの計画と実践）
第11回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑨看護実践（ロールプレイ）
第12回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑩看護実践（ロールプレイ）
第13回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑪看護実践の評価、看護計画の修正
第14回 AL 3	「老年看護の展開の実践」の振り返り
第15回 AL 2	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 50%					
教科書	『老年看護学 概論と看護の実践 第6版』奥野茂代、大西和子監修（ヌーヴェルヒロカワ） 『生活機能からみた老年看護過程 第4版』編集 山田律子（医学書院）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する（1～2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする（1～2時間）					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合しましょう			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅰ (概論と保健)	松尾ひとみ 西村 郁香	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

子どもを理解する上で基礎となる諸理論や、国内外の子どもの実態を以下の点から概観する。①人のライフサイクルの観点における子どもという時期の意味、②子ども観の背景となる歴史的変化・文化的な違い、③子どもを看護する上で必要な倫理観、④大人と異なる子どもの生活者としての身体機能の変化（成長）、⑤子どもの思考や心理・社会性（発達）

到達目標

- 文化・歴史・制度等多角的な視点から子どもを理解し、小児看護の目的を説明できる
- 子どもの解剖・生理の特徴を踏まえ、生活能力の獲得過程について説明できる
- SDGSの観点から国内外の子どもの課題を理解し、小児医療における看護の役割を説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	子どもって何？
第2回	世界の子ども達
第3回	子どもをめぐる環境の変化（保健統計）と法の保護
第4回	大人と異なるこどもの身体機能と生活習慣の関係性（動く）
第5回	大人と異なるこどもの身体機能と生活習慣の関係性（息をする・循環）
第6回	大人と異なるこどもの身体機能と生活習慣の関係性（食べる）
第7回	大人と異なるこどもの身体機能と生活習慣の関係性（トイレに行く・眠る）
第8回	大人と異なるこどもの身体機能と生活習慣の関係性（お風呂に入る）
第9回	大人と異なるこどもの身体機能（話す・聞く）
第10回	小児看護における子どもの社会性の発達
第11回	神経系の発達と子どもの認知の発達
第12回	家族の発達過程と小児看護
第13回	障害児とは？（西村担当）
第14回	小児保健（予防接種とスクリーニング）
第15回	小児看護における看護倫理

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	なし、適宜資料配付					
参考文献	『看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版』菱沼典子（日本看護協会出版会）					
事前学習（内容・時間）	配布資料に目を通し、わからない用語を調べる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業後のノート整理（1時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する。課題は授業中の講義をもってフィードバックとする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護)	小児看護学 分野教員	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

小児の解剖・生理の特徴を土台に、小児医療特有の疾患の病態生理が子どもの身体に及ぼす影響と、検査・治療、小児看護学のアセスメントの方向性について教授する

到達目標

- 小児看護学Ⅰで講義した小児の解剖・生理を土台に、小児特有の病態生理を説明できる
- 小児期特有の病態生理に対する検査・治療の関係性を説明できる
- 小児看護学のアセスメントの方向性について説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	小児期の疾患－感染症
第2回	小児期の疾患－呼吸器疾患
第3回	小児期の疾患－循環器疾患
第4回	小児期の疾患－代謝系疾患
第5回	小児期の疾患－アレルギー性疾患
第6回	小児期の疾患－消化器疾患
第7回	小児期の疾患－腎・泌尿器疾患
第8回	小児看護学のアセスメント

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『看護学テキストNiCE 病態治療論（14）小児疾患』真部淳他（南江堂）					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	授業内容について調べる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	分からなかった点について調べる（2時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に対し返答する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	△	—	△	—	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	松尾ひとみ	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

病気を持つ子どもと家族を尊重し、セルフケアの観点から子どもの健康段階と成長・発達の段階を踏まえた看護を展開する上で土台となる多様な理論を教授する。

到達目標

- 子どもと家族の生活と成長・発達に、健康段階が及ぼす影響を説明できる
- 子どもと家族の生活と成長・発達に、入院による環境の変化や入院体験が及ぼす影響を説明できる
- 子どもの苦痛を緩和し、セルフケア獲得にむけての支援について説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション：小児のセルフケアのアセスメント
第2回	子どものからだの理解・病気の理解・死の理解
第3回	入院による子どもと家族の生活への影響
第4回	治療・処置に対する子どもの理解
第5回	急性期にある子どもと家族の看護 ①
第6回	急性期にある子どもと家族の看護 ②
第7回	急性期にある子どもと家族の看護 ③
第8回	慢性期にある子どもと家族の看護①
第9回	慢性期にある子どもと家族の看護②
第10回	終末期にある子どもと家族の看護
第11回	災害看護 子どもと家族に及ぼす影響
第12回	異常新生児の看護
第13回	被虐待児の看護
第14回	地域で生活する病気の子どもの、がんの親をもつ子ども
第15回	Family centered care

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	なし、資料配付					
参考文献	随時提示する					
事前学習(内容・時間)	指示した予習用の資料を読む（1時間）					
事後学習(内容・時間)	わからない内容を調べノートを整理する（1時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する					
備考	授業内容微調整と順番の変更を行う可能性がある			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	松尾ひとみ 西村 郁香	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

小児看護学実習を行う上での基盤となる知識を活用し、子どもと保護者のセルフケア能力をアセスメントする方法を整理し、セルフケアに応じた看護計画の立て方について教授する

到達目標

- 生活者としての子どもの成長・発達を評価し、疾患や環境の変化による子どもへの影響を説明できる
- 病気をもつ子どもと保護者のセルフケアのアセスメントを説明できる
- 病気をもつ子どもと保護者のセルフケアへの支援を説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	小児看護学実習でのアセスメントの考え方
第2回 AL 3	情報収集・分類・病態図作成 1
第3回 AL 3	情報収集・分類・病態図作成 2
第4回 AL 3	事例のアセスメント 1
第5回 AL 3	事例のアセスメント 2
第6回 AL 3	事例のアセスメント 3
第7回 AL 3	事例のアセスメント 4
第8回 AL 3	事例のアセスメント 5
第9回 AL 4	事例のアセスメント発表 1
第10回 AL 4	事例のアセスメント発表 2
第11回 AL 3	ケアプラン計画
第12回 AL 5	ケア実施 1
第13回 AL 5	ケア実施 2
第14回 AL 5	ケア実施 3
第15回 AL 5	ケア実施 4

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし、配布資料あり					
参考文献	『看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版』菱沼典子（日本看護協会出版会）					
事前学習(内容・時間)	課題の記述（1時間）					
事後学習(内容・時間)	課題の記述（1時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に答える。適宜コメントする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅰ (概論)	鷲尾 弘枝	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21105

科目の概要

母性看護の特徴および母性看護の基盤となる概念について講義するとともに、我が国における母子保健の歴史的変遷や今日の課題について概説、教授する。

到達目標

- 母性看護の変遷を把握し、併せて母性看護の特徴および対象について説明できる。
- 女性のライフステージ各期における特徴や健康問題を把握し、それらに対する援助について説明できる。
- 母子保健統計を把握し、母子保健行政や施策の現状と問題について述べる事が出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	ガイダンス（導入）
第2回	母性看護の対象の理解（1）母性の定義・特性、母性看護の基盤となる概念、母性の発達
第3回	母性看護の対象の理解（2）母性看護のあり方、母性看護における倫理
第4回 AL 4	母性看護の対象取り巻く社会の変遷（1）母性看護の変遷と動向（関連法規含む）
第5回 AL 4	母性看護の対象取り巻く社会の変遷（2）母性関連施策・システムと法規
第6回	母性看護の基盤となる概念（1）セルフケア・エンパワーメント・ヘルスプロモーション（母性看護技術を含む）
第7回	母性看護の基盤となる概念（2）セクシャリティー・性同一性障害
第8回 AL2,3	女性のライフステージ各期における看護（1）生殖器の形態・機能、性周期
第9回	女性のライフステージ各期における看護（2）思春期
第10回	女性のライフステージ各期における看護（3）成熟期
第11回	女性のライフステージ各期における看護（4）更年期・老年期
第12回	リプロダクティブヘルスケア（1）人工妊娠中絶と看護、
第13回	リプロダクティブヘルスケア（2）DV・虐待、性暴力を受けた女性に対する看護
第14回	リプロダクティブヘルスケア（3）リプロダクティブヘルス・ライツ、性感染症とその予防
第15回 AL 4	リプロダクティブヘルスケア（4）家族計画と受胎調整法の実践

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ 成果物 40％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、 『国民衛生の動向2021/2022』（厚生労働統計協会）					
参考文献	適宜プリントを配布する					
事前学習（内容・時間）	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおく（30分程度）					
事後学習（内容・時間）	講義の復習を1時間程度行うこと					
フィードバックの方法	講義毎に課題があります。授業内で発表していただき、解説を行います					
備考	最近の母性を取り巻く現状を情報収集して毎回講義に望んで、話し合えるようにしてください			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療)	鷺尾 弘枝	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21106

科目の概要

女性の内分泌（ホルモン）状態、および周産期に罹患しやすい疾病の病態・診断・治療、併せて女性のライフサイクルにおける性と生殖、リプロダクティブヘルスとヘルスケアの問題とそれらに対する支援方法について講義する。

到達目標

- 女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、それぞれの側面の要因や問題を類別できる。
- 女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、医学的治療や看護ケアを説明できる。
- 周産期の異常に伴う疾患や症状について、原因、医学的治療や看護ケアを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	女性・生殖医療と周産期ケア
第2回 AL 2	不妊症と看護ケア
第3回	エストロゲン依存性疾患と看護ケア
第4回	乳がんと看護ケア
第5回 AL 4	妊娠期の異常- 妊娠経過と健康逸脱
第6回	分娩期の異常- 分娩経過と健康逸脱
第7回	産褥の異常- 産褥経過と健康逸脱
第8回 AL 3	周産期のメンタルヘルスと看護ケア

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 20％ 小テスト 20％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著（医学書院）、その他の資料は適宜配布する					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』太平光子他（南江堂）					
事前学習（内容・時間）	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義の復習を2時間程度行うこと					
フィードバックの方法	講義毎に課題があります。レポートに対する講評を授業内で行います					
備考	最近の現状を情報収集して毎回講義に望んで、話し合えるようにしてください			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント)	東尾 公子 鷲尾 弘枝	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における女性と新生児、および家族を対象とした生理的、心理・社会的変化と特徴を教授する。また、それらの対象に対する看護ケアとウェルネスの視点について解説する。

到達目標

- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的に経過する周産期女性、胎児と新生児の身体的、心理的・社会的変化について説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護ケアについて、ウェルネスの視点から類別して、説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的経過の範囲を逸脱した状態や健康障害、その看護ケアについて理解して、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	妊娠期の生理的变化と胎児の健康状態①
第2回	妊娠期の生理的变化と胎児の健康状態②
第3回 AL 2	母親役割獲得準備状況と家族関係のアセスメント
第4回	正常分娩経過のアセスメントと看護①
第5回 AL2,3	正常分娩経過のアセスメントと看護②
第6回	産婦の心理変化、母子愛着形成および家族のアセスメント
第7回	出生直後の新生児のアセスメントと看護援助
第8回	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント①
第9回 AL 2	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント②
第10回	退行性変化のアセスメント①
第11回 AL2,3	退行性変化のアセスメント②
第12回	進行性変化のアセスメント①
第13回 AL2,3	進行性変化のアセスメント②
第14回	出産後の育児技術取得状況、愛着形成、家庭・社会生活への適応のアセスメント
第15回	ハイリスク妊娠・分娩、産科処置および看護 講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器』池田正編著（医学書院）					
参考文献	『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他（メヂカルフレンド社）					
事前学習（内容・時間）	授業計画の該当部分を予習すること。1時間程度が望ましい					
事後学習（内容・時間）	授業始めまたは終わり前に小テストを行うことがある。講義の復習を1時間程度行うことが望ましい					
フィードバックの方法	小テストは講義内で解説を行います					
備考	小テストおよび授業後課題は成果物として評価する			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	園田 希 鷲尾 弘枝	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

マタニティサイクルにおける女性と新生児、その家族を対象とし、身体的・心理的・社会的な変化を踏まえ、マタニティサイクルに必要な基礎的な看護実践について講義する。具体的には、女性とその家族が持つ力や強み、新たな役割に適応していく過程に焦点を当て、女性とその家族が持つ力を最大限に発揮できるための支援について説明する。

到達目標

- マタニティサイクルにある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を踏まえた具体的な看護過程を展開することができる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な看護技術の目的、方法、留意点を説明することができる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な看護技術を実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	マタニティサイクルにおける看護の特徴と看護過程の展開
第2回 AL3,4	看護過程の展開①：妊娠期の事例
第3回 AL 3	妊娠期のヘルスアセスメント 妊婦健康診査の項目と援助技術
第4回 AL3,4	看護過程の展開②：分娩期の事例
第5回 AL 3	分娩期のヘルスアセスメント 分娩期の補助動作、呼吸法に関する援助技術
第6回 AL3,4	看護過程の展開③：産褥期の事例
第7回 AL3,4	看護過程の展開④：産褥期の事例
第8回 AL3,4	セルフケア能力を向上させるための保健指導 産褥期の事例
第9回 AL 3	産褥期のヘルスアセスメント 退行性変化、進行性変化の観察と授乳の援助
第10回 AL3,4	看護過程の展開⑤：新生児期の事例
第11回 AL 3	新生児のヘルスアセスメント 全身状態の観察
第12回 AL 3	新生児の皮膚の清潔法 沐浴
第13回 AL3,4	切れ目ない支援の実施 産褥期・新生児期の事例
第14回 AL3,4	看護過程の展開⑥：帝王切開の事例
第15回 AL3,4	看護過程の展開⑦：帝王切開の事例 母性看護学Ⅳのまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 50%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）、『ナースিং・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術』荒木奈緒他（メディカ出版）					
参考文献	『パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護（第2版）』堀内成子他（照林社）、『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他（メヂカルフレンド社）					
事前学習（内容・時間）	事前課題（看護過程の展開）および演習前の自己学習のため1.5時間程度が望ましい					
事後学習（内容・時間）	グループワーク後の学びのまとめおよび看護技術習得のため1時間程度が望ましい					
フィードバックの方法	課題に関しては、講義内で解説を行います					
備 考	主体的・積極的なグループワークへの参加を期待しています			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅰ (精神保健)	西垣 里志	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21107

科目の概要

精神看護学を学ぶ上で理解しておくべき、精神の健康や、精神症状と状態像を知り、精神障害の基礎的理解を図ることを目的とした講義を行う。また、心の機能と発達、人格の形成について説明する。精神障害と治療の歴史を学び、現在の精神保健医療福祉の動向の理解につなげていながら、現在のせ精神科医療の問題を考えられるように教授していく。

到達目標

- 精神の健康の概念について説明できる。
- 心の機能と発達について述べることができる。
- 精神障害と治療の歴史並びに精神保健福祉の動向を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	精神の健康の概念・精神障害の予防
第2回 AL 4	心のしくみと人格の形成
第3回 AL 4	心の働きと人格の発達
第4回 AL 3	精神を病むことと生きること
第5回 AL 4	精神症状論と状態像
第6回 AL 4	精神の健康とストレスマネジメント
第7回 AL 4	精神障害と治療の歴史
第8回 AL 4	精神障害と社会学
第9回 AL 4	精神科領域で必要な法律と制度
第10回 AL 3	精神保健医療福祉対策と動向
第11回 AL 4	地域におけるメンタルヘルス
第12回 AL 3	看護師のメンタルヘルス、感情労働
第13回 AL 2	世界の精神医療の在り方（映画「人生ここにあり」から）①
第14回 AL 2	世界の精神医療の在り方（映画「人生ここにあり」から）②
第15回 AL 2	レジリエンス、エンパワメント、リカバリーとは

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ レポート 40％					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院）					
参考文献	『レジリエンス入門－折れない心の作り方』内田和俊（筑摩書房）、 『感情と看護』武井麻子（医学書院）					
事前学習（内容・時間）	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる（45分）					
事後学習（内容・時間）	ノートのポイントを読み直して記憶する（45分）					
フィードバックの方法	講義内容の質問に関して解説を行う					
備考	知的好奇心をもって、積極的に自己学習すること			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状)	西垣 里志	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21108

科目の概要

看護師として、精神疾患を理解するうえで必要な基礎知識を教授する。統合失調症、気分障害、神経症とストレス関連障害、器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）、物質関連障害群、物質依存症およびパーソナリティ（人格）障害などについて事例を通して、発病年齢、原因、病前性格、症状、診断基準、経過と予後、また精神症状への治療法について

到達目標

- 統合失調症、気分障害、神経症とストレス関連障害、器質性精神障害の疾患の概念、症状、診断基準について述べるができる。
- 物質関連障害群、物質依存症、パーソナリティ障害の疾患の概念、症状、診断基準について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	統合失調症 1
第2回 AL1,2	統合失調症 2
第3回 AL 4	気分障害 1
第4回 AL1,2	気分障害 2
第5回 AL 4	神経症とストレス関連障害
第6回 AL1,2	器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）
第7回 AL1,2	物質関連障害群、物質依存症
第8回 AL 4	パーソナリティ（人格）障害

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 小テスト 40％					
教科書	『専門医がやさしく語るはじめての精神医学』渡辺雅幸（中山書店）					
参考文献	『症例でわかる精神病理学』松本卓也（誠信書房）					
事前学習（内容・時間）	課題をプレゼンテーションできるようにまとめる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	学習内容を復習する（2時間）					
フィードバックの方法	テストの結果と総評を授業内で解説します					
備 考	主体的に学ぶこと。参考文献や図書を活用すること			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅲ (精神疾患と看護)	西垣 里志	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21209

科目の概要

患者－看護師関係のコミュニケーションを振り返る方法を理解し、自己のコミュニケーションの特徴が認識できるよう講義する。精神看護実践の基盤となる治療的関係や看護の役割の理論・知識をもとに、精神障害者に対する看護の展開方法を教授する。精神看護における対象理解や回復過程に応じた援助方法を具体的に教授する。

到達目標

- 精神看護と看護者の役割について説明できる。
- 精神障害者の回復過程を説明できる。
- 患者－看護師の治療的関係や自己を振り返ることでコミュニケーションの特徴を知る。
- 精神障害者に対する援助の方法を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	精神看護の展開：精神看護とは、精神看護者の役割、ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法
第2回 AL 3	患者－看護師の治療的関係とコミュニケーション：プロセスレコード
第3回 AL2,3	【演習1】患者－看護師の治療的関係：プロセスレコードを通してコミュニケーションの演習
第4回 AL 4	入院治療の目的と意味、治療環境
第5回 AL 4	精神科における身体のケア
第6回 AL 4	統合失調症の症状と治療、看護について（急性期）
第7回 AL2,4	統合失調症の症状と治療、看護について（慢性期）
第8回 AL2,4	気分障害の症状と治療、看護について
第9回 AL 4	神経症の症状と治療、看護について
第10回 AL 4	パーソナリティ障害、摂食障害の症状と治療、看護について
第11回 AL2,4	認知症の症状と治療、看護について
第12回 AL2,5	リスクマネジメントの考え方と方法
第13回 AL 4	精神科薬物療法について
第14回 AL 4	災害時のメンタルヘルスと看護について
第15回 AL2,4	リエゾン精神看護

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 小テスト 40％					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院） 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他（医学書院）					
参考文献	『看護のための精神医学 第2版』中井久夫、山口直彦（医学書院）、授業時間内に適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	学習内容および提示した課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる（1時間）					
フィードバックの方法	事前学習や小テストに関しての解説をおこなう					
備考	主体的に学修すること。教科書や参考文献を活用すること			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ (地域における援助)	西垣 里志	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

地域において精神障害者が利用する社会資源やリハビリテーションを伝え、精神障害者とその家族の現状を講義する。自己のコミュニケーションを振り返ることを通して、自己を見つめ自己理解を図りながらケアへの影響の理解を深められるよう教授する。また精神障害者がおかれている状況を社会資源などを通して考えることができるよう説明する。

到達目標

- 精神保健医療福祉に関する法制度や具体的な事業内容について説明できる。
- 精神疾患の代表的なものの看護過程が展開できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	日本の精神保健医療福祉の現状と課題と精神看護師の役割
第2回 AL 4	ケアの人間関係 人としての尊厳と、患者—看護師関係における感情体験
第3回 AL 4	集団のダイナミクス、S S T
第4回 AL2,3	【演習2】S S T
第5回 AL 4	オレムアンダーウッド理論の看護過程
第6回 AL2,4	【演習】看護過程①
第7回 AL2,4	【演習】看護過程②
第8回 AL2,4	【演習】看護過程③
第9回 AL2,4	【演習】看護過程④
第10回 AL2,4	ストレングスモデルについて
第11回 AL 5	芸術療法【演習】芸術療法
第12回 AL 4	精神障害者の家族支援、精神科訪問看護
第13回 AL3,5	地域で暮らすということ：当事者の体験から学ぶ①
第14回 AL3,5	地域で暮らすということ：当事者の体験から学ぶ②
第15回 AL3,5	地域で暮らすということ：支援者の体験から学ぶ③

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 40％					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院） 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他（医学書院）					
参考文献	『看護のための精神医学 第2版』中井久夫、山口直彦（医学書院）、授業時間内に適宜提示する					
事前学習（内容・時間）	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	学習内容・課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる（1時間）					
フィードバックの方法	成果物はコメントをして返却する					
備考	講義や演習は実習に直結する内容であるため、主体性をもって学修すること			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅰ (概論)	桶河 華代	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21109

科目の概要

在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的や基本理念とそれに関連する概念を教授する。在宅看護の対象者の特性とその支援について、在宅看護を支える仕組みとその役割、更には在宅ケアにおける地域包括ケアシステムの概要について教授する。

到達目標

- 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景、および在宅看護の目的と基本理念や関連する概念について説明できる。
- 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を説明できる。
- 在宅看護を支える仕組みと在宅看護の役割を説明できる。
- 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護の背景・在宅看護の基盤
第2回	在宅看護を展開するための基本理念・在宅看護の倫理
第3回	在宅看護の対象者とその支援－ケアマネジメント－
第4回	在宅看護の対象者とその支援－家族支援－
第5回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－介護保険制度－
第6回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－社会保険制度－
第7回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－訪問看護制度－
第8回	地域包括ケアシステムとは

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％					
教科書	『ナースング・グラフィカ 在宅看護論（1）地域療養を支えるケア』臺 有桂他編（メディカ出版）					
参考文献	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他（医学書院）					
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（2時間）					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を確認します			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法)	桶河 華代	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

在宅療養者及び家族を理解するために必要な知識と技術や看護職の役割について教授する。また、多職種と連携・協働しながら展開される在宅看護の展開方法について教授する。演習では、事例を用いて在宅療養者および家族が抱える課題（問題）を抽出し、生活を支援する看護援助方法を習得させる。

到達目標

- 在宅看護を必要とする対象者の背景や特徴が説明できる。
- 対象者のニーズに合わせた在宅看護技術の提供方法が説明できる。
- 対象者が自分らしい生活を送れるよう、多職種の連携や協働の必要性を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護における援助の特徴
第2回	療養環境整備（服薬管理含む）
第3回 AL 2	日常生活援助1-食事支援
第4回 AL 2	日常生活援助2-清潔支援
第5回 AL 2	日常生活援助3-排泄支援
第6回 AL 2	日常生活援助4-感染予防
第7回	リハビリテーション（生活再建含む）
第8回	災害への備え、授業のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『ナースング・グラフィカ 在宅看護論（2）在宅療養を支える技術』臺有桂他（メディカ出版）					
参考文献	『系統看護学分野 統合分野 在宅看護論』秋山正子他（医学書院）					
事前学習（内容・時間）	講義該当部分のテキスト（配布プリントなど）を通読し予習する（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題およびテキスト（配布プリントなど）にて復習する（2時間）					
フィードバックの方法	質問やレポートについては、授業内で解説します					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	桶河 華代	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅看護における安全と健康危機管理について教授する。また、在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を教授する。

到達目標

- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族の生活状況をふまえ、安全に配慮した援助の必要性について説明できる。
- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族への看護援助技術の実際について説明できる。
- 在宅療養者と家族のニーズに則した看護目標の設定と個性性を尊重した看護計画を立案できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療管理を要する療養者と家族の生活と看護
第2回 AL 3	療養者宅での看護援助の特徴と留意点
第3回 AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術① 褥瘡の予防とケア
第4回 AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術② 経管栄養法・在宅中心静脈栄養法
第5回 AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術③ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法
第6回 AL 3	在宅療養者と家族の支援① 脳血管疾患・認知症
第7回 AL 3	在宅療養者と家族の支援② 難病
第8回 AL 3	在宅療養者と家族の支援③ 在宅ターミナルケア・グリーフケア
第9回 AL 3	在宅看護過程の展開① 在宅における看護過程の特徴
第10回 AL 3	在宅看護過程の展開② 情報整理
第11回 AL 3	在宅看護過程の展開③ アセスメント
第12回 AL 3	在宅看護過程の展開④ 課題の明確化・援助目標の設定
第13回 AL 3	在宅看護過程の展開⑤ 看護計画の立案
第14回 AL 4	在宅看護過程の展開⑥ 看護計画の発表・ディスカッション
第15回 AL 3	訪問看護活動の実際・まとめ

成績評価方法	成果物 70% 定期試験（レポート） 30%					
教科書	『系統看護学分野 統合分野 在宅看護論』秋山正子他(医学書院)、 『ナースング・グラフィカ 在宅看護論 (2) 在宅療養を支える技術』臺有桂他（メディカ出版）					
参考文献	『よくわかる在宅看護 改訂第3版』角田直枝（学研メディカル秀潤社）					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキスト（配布資料等）を通読し予習を行う（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題の実施および該当部分のテキスト（配布資料等）の復習を行う（2時間）					
フィードバックの方法	質問および課題については授業内で説明および解説する					
備考	講義・演習に際し基礎看護技術の復習を行っておくこと			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	桶河 華代	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

療養者と家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践から、在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成・仕組みづくりを教授する。また、演習を通して健康課題別の地域資源作りの考え方を習得させる。地域包括ケアシステムに関わる機関や専門職の役割と連携方法から看護職の役割について教授する。

到達目標

- 在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成と仕組みづくりを説明できる。
- 地域包括ケアシステムに関わる機関について説明できる。
- 地域包括ケアシステムにおける連携方法と看護職の役割を説明できる。
- 健康課題別に地域包括ケアシステム作りの考え方を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域包括ケアシステムと地域包括ケア支援センター
第2回	地域包括ケアシステムづくりの方法と実際
第3回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第4回	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割
第5回 AL 2	退院調整支援
第6回 AL 2	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第7回 AL 2	高齢者（介護予防・終末期）を支える制度と社会資源
第8回 AL 2	認知症高齢者を支える制度と社会資源
第9回 AL 2	障害者を支える制度（心身障害者）と社会資源
第10回 AL 2	障害者を支える制度（精神障害者）と社会資源
第11回 AL 2	難病患者を支える制度と社会資源
第12回 AL 3	事例に基づく制度と社会資源（現行の社会資源）
第13回 AL 3	事例に基づく制度と社会資源（不足する社会資源）
第14回 AL 4	課題発表 1
第15回 AL 4	課題発表 2

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他（医学書院）					
参考文献	『ナースিং・グラフィカ 在宅看護論（2）在宅療養を支える技術』臺有桂他（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（30分）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（30分）					
フィードバックの方法	課題について授業の中で、解説します					
備 考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－① (絵画療法)	木村 千尋	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

自由に描いた絵は言語表現以上に自己の感情を示しており、人の心理状態を読みとることが可能となる。本科目では、心理的問題に対処できる絵画療法の概要や方法を、カウンセリングを含めた演習を主として教授する。さらに、ホスピタルアートの意義と技能について教授する。

到達目標

- 絵画療法による患者のカウンセリング技法について述べることができる。
- 絵画療法を活用した患者や医療従事者のセルフケア方法について説明できる。
- ホスピタルアートの表現方法や病院内での絵画選択方法を身につけて、院内の色彩計画書を作成できる技能を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	オリエンテーション 絵画療法とは何か
第2回 AL 4	絵画療法と看護の意識
第3回 AL 3	色彩心理学概論
第4回 AL 2	カウンセリング導入と絵画療法
第5回 AL 3	絵画療法 樹木画
第6回 AL 2	絵画療法 家屋画
第7回 AL 2	絵画療法 人物画
第8回 AL 2	風景構成法 読み取りトレーニング
第9回 AL 2	ホスピタルアートとミュージックセラピー
第10回 AL 3	コラージュ療法
第11回 AL 2	視覚コミュニケーションと色彩心理学
第12回 AL 2	病院内での色彩活用方法
第13回 AL 3	看護に使う具体的事例
第14回 AL 3	ホスピタルアート実習
第15回 AL 3	ホスピタルアートのファシリテーション方法

成績評価方法	成果物 100% (内、レポート課題 60%、作品 40%)					
教科書	プリント随時配布。適宜紹介する					
参考文献	『アートミーツケア叢書Ⅰ 病院のアート 医療現場の再生と未来』アートミーツケア学会編 (生活書院)					
事前学習(内容・時間)	素材準備 (第10回コラージュ療法で使用) (1時間)、常にアートに関心を持ち、記録・撮影する (1時間)					
事後学習(内容・時間)	毎回授業学習を復習すること。適時課題発表をしてからレポートを作成すること。(2時間)					
フィードバックの方法	各自の授業ごとの作品をみて、コメントを一人ずつ伝えます					
備考	絵を上手に描く必要はなく、色や形を楽しんで表現する事を望んでいます。カウンセリング方法・コミュニケーション能力を身につけて頂きたい。			オフィスアワー		授業前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－② (音楽療法)	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。現在、音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師たちへ、音楽療法の基本及び看護師としての有効な関わり方を講義する。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
- 音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を理解し、解説することができる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	音楽療法の概要と歴史①
第2回	音楽療法の概要と歴史②
第3回	心身障がい者（児）のための音楽療法①
第4回	心身障がい者（児）のための音楽療法②
第5回	精神科における音楽療法①
第6回	精神科における音楽療法②
第7回	第一回小テスト・高齢者の音楽療法に関する映画鑑賞
第8回	高齢者施設における音楽療法①（映画鑑賞の続きを含む）
第9回 AL 3	高齢者施設における音楽療法②・ハンドベル演奏の実践
第10回	緩和ケア病棟・ホスピス／神経学的リハビリテーションにおける音楽療法①
第11回	緩和ケア病棟・ホスピス／神経学的リハビリテーションにおける音楽療法②・その他いろいろな音楽療法
第12回	第二回小テスト・音楽療法に関するいろいろな動画鑑賞
第13回 AL 3	音楽療法のデザインと実践①
第14回 AL 3	音楽療法のデザインと実践②・総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら①
第15回	総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら②

成績評価方法	小テスト 50% 定期試験（レポート）25% 成果物 25%					
教科書	特になし（資料を随時アップロードする）					
参考文献	必要に応じて適宜アップロードする					
事前学習（内容・時間）	次回の授業内容について、インターネット・書籍などで自分なりに知識を得ておく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容の復習（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは次回の授業中に返却し解説を行います。定期試験（レポート）は提出期日後に返却を行います。成果物の返却は行いません					
備考	受講にあたって音楽的知識の有無は問わないが、音楽に興味・関心があることが望ましい			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－③ (笑い療法)	古谷 昭雄	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

笑いは免疫力を上げ、自然治癒力を持つということを認識し、笑いの効果を実感してもらうことを目的とする。笑いの三大効用は健康力、人間関係力、創造力であるといわれている。それらをもつためには、自己表現ができる芸術の力をかりなければならない。講義や演習でノーズフルートやラフターヨガを実践することにより、心と脳の処方せんである笑い療法について教授する。

到達目標

- 笑いは免疫力を上げ、楽しく豊かに生きるためのコミュニケーション、マネジメントの基本であることについて説明できる。
- ラフターヨガとノーズフルートや身近な楽器を使って笑い療法を企画することができる。
- 企画された笑い療法をグループごとのフィールド・ワークのなかでレクリエーションの一環として実演することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	看護と芸術1（ガイダンス、笑い与健康、ユーモア看護）
第2回 AL 3	看護と芸術2（芸術療法、ノーズフルート入門）
第3回 AL 3	ユーモア療法1（日本笑い学会、笑いヨガ協会）
第4回 AL 4	ユーモア療法2（ユーモア看護アプローチ、ユーモアと非言語的行動）
第5回 AL 5	癒しのノーズフルート1（実演と演習）
第6回 AL 5	癒しのノーズフルート2（実演と演習）
第7回 AL 5	癒しのラフターヨガ（実演と演習）
第8回 AL 3	ノーズフルート脳感演奏の効果
第9回 AL 3	ラフターヨガの実践の効果
第10回 AL 3	ノーズフルート脳感演奏の企画リハーサル
第11回 AL 3	ラフターヨガの実践の企画リハーサル
第12回 AL 5	フィールド・ワーク1（シニア会または病院にて実演）
第13回 AL 5	フィールド・ワーク2（シニア会または病院にて実演）
第14回 AL 5	フィールド・ワーク3（介護福祉施設または病院にて実演）
第15回 AL 5	フィールド・ワーク4（介護福祉施設または病院にて実演）

成績評価方法	定期試験（レポート）50％ 成果物 50％					
教科書	『ユーモア看護 ―癒しと和み―』平澤久一 古谷昭雄監修（金芳堂）					
参考文献	『笑って長生き 笑いと言語の健康科学』昇 幹夫著（大月書店）、 『笑は咲にして勝なり 人生100年時代の指南書』中井宏次著（薬事日報社）					
事前学習（内容・時間）	楽器演奏、ラフターヨガの練習（2時間）					
事後学習（内容・時間）	楽器演奏、ラフターヨガの練習（2時間）					
フィードバックの方法	成果物については、授業内で解説をします					
備 考	笑いと言語、笑いと言語、音楽などに興味・関心を持ってください。この授業の成績評価においては、フィールド・ワークへの参加が必須となります。必ず出席して下さい。授業に必要なノーズフルート（¥1,000円前後）を購入していただきます。			オフィスアワー		授業終了後30分、質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－④ (セラピーメイク)	福井 美余	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、看護現場でもメイクアップの力が求められています。身だしなみを整える化粧行動によって、前向きになり明るく行動的になるなど、心理面にもよい効果があるとして「化粧療法」が様々な研究で明らかになってきています。本授業では、その化粧療法に必要な知識と技術、カウンセリングやアドバイスなどのメイクを通したコミュニケーションについて教授します。

到達目標

- 看護師としての身だしなみでもある「セルフメイク」の知識と技術を説明できる。
- 人に寄り添う医療のための「セラピーメイク」の知識と技術を説明できる。
- 看取りの際におこなう「エンゼルメイク」の知識と技術を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション メイクと心の関わりについて セラピーメイクの必要性について
第2回	スキンケア基礎 皮膚理論・クレンジングと洗顔
第3回 AL 3	スキンケア基礎 肌質の特徴と保湿スキンケア
第4回	メイクアップ基礎 ファンデーションの種類と塗り方
第5回	メイクアップ基礎 チークの塗り方
第6回 AL 3	メイクアップ基礎 眉の形作りと描き方
第7回	メイクアップ基礎 アイメイク化粧品の種類と塗り方
第8回	メイクアップ基礎 リップ化粧品の種類と塗り方
第9回 AL 4	メイクアップ応用 顔分析メイク 顔型別のチークとハイライトの塗り方
第10回	メイクアップ応用 似合う色の選び方と化粧品の色分け法
第11回	メイクアップ応用 エイジレスメイク あらゆる世代が若々しく見えるメイク法
第12回 AL 4	メイクアップ応用 敏感肌用メイク アトピー性皮膚炎や敏感肌のメイク
第13回	メイクアップ応用 カバーメイク ニキビ跡やアザ、傷跡のメイク
第14回	メイクアップ応用 エンゼルメイク
第15回	1回目から8回目までのメイクアップ基礎のまとめと小テスト

成績評価方法	定期試験（筆記）100％					
教科書	授業ごとに資料配布					
参考文献	『今あるコスメで上品で洗練された美人になれる』福井美余（ダイヤモンド社） 『身につけるべきは、“年相応”の美しさ 年齢を重ねても綺麗でいられる永遠モノのメイクテクニック』福井美余（KADOKAWA）					
事前学習（内容・時間）	講義時に使用するテキストを事前に読んでおくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義内で行ったメイク実習を復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	授業内で解説を行います					
備考	メイクアップの知識と技術をいかすために、自宅での復習と練習が大切です			オフィスアワー		随時メールで受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－⑤ (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

芸術療法への理解を目的に陶芸制作の指導をすると共に、様々な陶芸芸術に触れる機会を設けます。そして、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を焼きものをつくることで体感し、その重要性を認識してもらいます。また、窯詰め、窯出しなどの共同作業を他者と協力して行う事で、今後の実習等に活かせる協調性や対応力を育てます。

到達目標

- 焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
- 焼き物を通じて、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、作品に表現することができる。
- 基礎的な焼き物作りの方法を身につけ、制作を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	焼き物の成り立ち、制作プロセスの紹介
第2回 AL 5	作りたい作品のイメージを共有して、様々な芸術作品を紹介する
第3回 AL 5	カップやお茶碗、オブジェなどの制作開始
第4回 AL 5	粘土による造形を手びねり、くりぬき技法、粘土板を貼り付けるなどして成形する
第5回 AL 5	目標の大きさまで成形する
第6回 AL 5	作品の形を整える
第7回 AL 5	取っ手などの付属部品をとりつける
第8回 AL 5	乾燥させて削り作業にて形を調整する
第9回 AL 5	作品の底、裏側の処理を行う
第10回 AL 5	粘土段階での加飾を行う
第11回 AL 5	粘土段階での加飾を行う
第12回 AL 5	素焼きに備えて、表面処理を行う
第13回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第14回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第15回 AL 4	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会（意見交換）

成績評価方法	成果物 100%（内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%）					
教科書	無し					
参考文献	無し					
事前学習(内容・時間)	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に活かせるようにすること（2時間）					
フィードバックの方法	講評会の際に芸術からの視点、生活からの視点で受講者それぞれの作品について、講評を行います					
備 考				オフィスアワー	授業終了後90分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

超高齢社会の到来、コロナ禍により今、医療現場は大きく変化している。先の見通せない不確かさの中で私たちは何を目指し、何を成すのか。これからの看護に求められるものは？看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護に与える役割を教授する。また、医療現場における様々なアート活動の事例を知り、その手法を学ぶことで実践力を身につけ、創造的な看護師育成を目指して講義する。

到達目標

- 既存概念にとらわれず、医療現場の問題を治療環境の側面から分析し、その問題点を列挙できる。
- 他者の痛みを想像し、寄り添える柔軟な感性を持ち、表現できる。
- 創造性を身につけ、想いを表現し、改善への道筋をたて、作品を制作し、解説できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり
第2回	看護と芸術 心の「痛み」と芸術表現
第3回	病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化（事例紹介）
第4回	理念の顕在化 医療安全ポスター制作 課題説明
第5回 AL 4	医療安全ポスター制作
第6回 AL 4	医療安全ポスター制作作品講評
第7回	病院に於けるアートの役割 ②業務改善（事例紹介）
第8回	業務改善課題 現場の問題点から改善案 居心地のいい待合室とは 課題説明
第9回 AL 4	業務改善 居心地のいい待合室 作品制作
第10回 AL 4	業務改善 居心地のいい待合室 作品講評
第11回	病院に於けるアートの役割 ③社会包摂（事例紹介）
第12回	医療者と患者をつなぐコミュニケーション ニッチの作品制作 課題説明
第13回 AL 4	作品制作
第14回 AL 4	ニッチ作品 作品講評
第15回	ニッチ作品 作品講評

成績評価方法	成果物 100%（レポート課題 50% 作品 50%）					
教科書	特になし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子（言叢社）					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる（2時間）					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します			オフィスアワー		Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	澤田 京子	講義	4年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護教育学の目的を明らかにし、その目的を達成するための看護教育制度と歴史の変遷について講義をする。さらに、看護教育を具体化するための教育課程について説明し、看護教育への関心が深まる講義をする。学習指導案を通して、効果的な授業展開に必要な学習者観、教育観、教材観について説明する。

到達目標

- 看護教育の理念・目的について述べることができる。
- 日本の看護教育制度、看護教育の現状と課題について述べることができる。
- 看護教育における教育課程についてその概要を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護教育学とは
第2回	我が国における看護教育の歴史の変遷、看護教育制度と看護教育関連法規
第3回 AL 3	諸外国の看護教育制度の現状と課題
第4回	看護教育課程 カリキュラムの概念
第5回	教育方法、授業設計 看護教育評価
第6回 AL 3	学習指導案の作成について
第7回 AL 3	学習指導案に基づいた実際の授業参加とまとめ
第8回 AL 3	看護卒後教育と看護学教育の今日的課題と展望

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	毎回資料を配布します					
参考文献	『看護教育学』杉森みどり（医学書院）、 『看護学テキストNiCE 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴、池西悦子（南江堂）					
事前学習（内容・時間）	資料を授業計画に沿って読んでおくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容を復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	レポートは、授業内にコメントを入れて返却します					
備考	現在の看護教育、就職後の継続教育、将来の看護教育について興味をもって一緒に考えましょう			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
海外看護活動論	杉野 美礼	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

世界人口の約80%を占める途上国の人々の健康、地球規模で発生している健康問題／課題（グローバルヘルス）について、その要因となる社会構造および、それに対処する諸機関と戦略について教授する。そして、一人の人間として、また看護職として、どのようにそこに貢献するかを、自国の状況も含めて考えることを促す。

到達目標

- グローバルヘルスの概念とそれを支える看護について説明できる。
- 海外看護活動の基礎能力となる文化的な感受性を身につけ、異文化理解を看護に統合して説明できる。
- 海外看護活動の基礎となる情報収集方法を理解し、現地の状況をふまえた保健活動を考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	国際看護とは：国際看護学の概念と、世界の健康問題の概要を学ぶ ◆現地報告1
第2回	国際看護の主要概念：貧困と開発、プライマリヘルスケア、人間の安全保障、持続可能な開発目標の概要を学び、国際看護の役割を考える
第3回	国際協力機関と活動の概要：最新の国際健康問題（コロナ感染等）の概要と情報収集方法を学ぶ 国際協力諸機関と協力の概要、政府開発援助、被災組織の特徴と協力の仕組みの概要を学ぶ
第4回 AL 1	開発途上国の保健医療：開発途上国の保健医療システム、国際看護の実践概要を学ぶ ◆現地報告1：国際保健活動の実践（海外ワーカー報告） 途上国での保健活動の実践を知り。国際協力における看護活動を考える
第5回	こどもの健康問題：途上国の小児保健の現状と医療対策の概要を学び、主要な疾患の特徴とその対応、対策について理解する
第6回	女性の健康問題：途上国における妊産婦を含む女性の健康問題から、社会的問題との関わりと対策について考える
第7回	世界の三大感染症：マラリア、結核、HIV/AIDSの疾患の特徴と対策、予防について学び、看護の役割を考える
第8回	多文化共生看護：多文化共生看護の概念と背景を学び、看護への統合を考える 在留外国人への看護：国内での国際看護活動の概要を理解する
第9回 AL 1	災害と看護：災害支援の基準となる活動指針を学び、災害看護のありかたを考える。海外の現場における活動報告を聞き 国際協力における災害看護活動を考える
第10回	国際看護活動の実践：住民参加と健康教育の取り組み方について学び、実践事例から看護者のかかわり方を考える ◆現地報告2：ネパールのヘルスプロモーション活動（担当教員）
第11回	情報収集とアセスメント：国際看護活動に必要な情報収集・計画・評価方法について学び、実施例から看護展開方法について考える
第12回 AL 6	看護教育における国際協力：途上国での看護教育の事例を学ぶ 国家試験対策：国際看護関連の過去問題から傾向を知り、対策をたてる
第13回 AL 4	◆現地報告3：国際保健活動の実践（海外ワーカー報告） 途上国の国際協力活動の実践を学び、看護職としての課題と取り組み方を考える
第14回 AL 1	国際看護のキャリア形成：国際看護実践に必要な基礎能力の養成方法と実践分野を学ぶ 途上国の保健プログラム企画①：国際看護の学びを統合し、多文化共生看護にもとづいた保健プログラムの企画方法を学ぶ
第15回 AL 4	途上国の保健プログラム企画②：途上国での活動を想定した保健プログラムを企画する

成績評価方法	定期試験（レポート）60% 成果物 40%					
教科書	『改訂版 国際看護学 看護の統合と実践』柳澤理子（ピラールプレス）					
参考文献	国際保健関連記事、情報、動画（ウェブサイト参照）、適宜指示します					
事前学習（内容・時間）	教科書や資料に目を通す。テレビやインターネットのニュース・新聞で、最新の国際情勢やグローバルヘルス情報を学ぶ。（2時間）					
事後学習（内容・時間）	課題により学習内容を振り返り、国際看護についての自己の考えを深め、表現する（2時間）					
フィードバックの方法	授業ワークシートに対する応答を遠隔講義内、また個別メール対応にて行います					
備 考				オフィスアワー	Teams上で随時質問を受付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅰ (リスクマネジメント)	片山 康予	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

近年の医療は専門化・細分化・高度化・複雑化しており、プロフェッショナルとしての倫理観や責任感を備えていても、個々人の注意だけでは医療事故を防ぐには限界があり、徹底したチーム医療と施設としての医療事故予防システムの構築が重要である。本授業では、医療を安全に提供する為の体制や対処システムについて多角的に学ぶとともに、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて講義する。また、患者のニーズに応える看護実践や、看護職員自身の職務管理についても講義する。

到達目標

- 医療安全とリスクマネジメントの概念を述べることができる。
- 看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策について述べることができる。
- 臨地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療安全と看護の理念
第2回	事故発生のメカニズム
第3回 AL 3	事故分析（具体的な分析手法の紹介）
第4回	医療機関における医療安全への取り組み
第5回	チームで取り組む安全対策
第6回	医療を安全に提供するためのシステム①：基本的な考え方
第7回 AL 4	医療を安全に提供するためのシステム②：職務と管理体系
第8回	医療を安全に提供するためのシステム③：看護提供システムの種類と特徴
第9回 AL 4	医療を安全に提供するためのシステム④：医療チーム活動における連携
第10回	患者のニーズに応える看護実践①：看護の専門化
第11回 AL 2	患者のニーズに応える看護実践②：看護師の活動の実際
第12回 AL 2	患者のニーズに応える看護実践③：認定看護師の活動の実際
第13回	看護職員の職務管理①：現任教育
第14回 AL 4	看護職員の職務管理②：看護職員の労働安全衛生
第15回	看護学実習における医療安全・感染管理上のリスクと対応策

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践（2）医療安全』松下由美子他編（メディカ出版）、 『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理』上泉和子他（医学書院）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習（内容・時間）	教科書を授業計画に沿って読んでおくこと（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容を復習すること（1時間）					
フィードバックの方法	レポートにはコメントを入れて返却します					
備考	日頃から自分の生活の周辺の安全に関心を持ちましょう			オフィスアワー	講義後 30分	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅱ (看護管理)	大川眞紀子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

看護管理学は、看護管理者だけが学ぶものではない。看護を専門とする者に必要な知識である。従って、看護の対象者に質の高い看護を提供するために看護管理（マネジメント）が重要であることを説明する。看護管理の歴史的な背景を踏まえ、看護実践者のマネジメントについて講義する。看護活動に必要な多職種間のマネジメント、看護組織における看護管理の実践について教授する。

到達目標

- 看護の質向上のための組織運営やマネジメント及びリーダーシップについて説明することができる。
- 「ケアのマネジメント」「組織のマネジメント」「セルフマネジメント」について理解し、看護者の役割を述べることができる。
- 他職種との連携・協働について理解し、自己の看護管理について考察することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	「良い看護を提供するために」今、考える看護とは
第2回	看護管理学とは
第3回 AL 3	看護を取り巻く諸制度
第4回	看護におけるマネジメント
第5回	看護者に求められるマネジメント能力
第6回	組織のマネジメント (1)
第7回	組織のマネジメント (2)
第8回	ケアのマネジメント (1)
第9回	ケアのマネジメント (2)
第10回	ケアのマネジメント (3)
第11回 AL 3	多職種チームのマネジメント
第12回	リソースナース
第13回	看護管理と災害看護
第14回 AL 4	これからの看護管理を展望する（レポート提出）「社会人としての心構え」
第15回	試験

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（1）看護管理』上泉和子（医学書院）					
参考文献	随時紹介					
事前学習（内容・時間）	該当範囲の教科書を読んでおくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業後理解できたことを自己ノートにまとめる。疑問に思ったことは次回までに整理し、質問する。（2時間）					
フィードバックの方法	授業後本時のまとめ。復習のミニテスト、課題の説明					
備考	グループワークやディスカッションには、自己の考えを持って参加する。厚生労働省や看護協会のHPを見る習慣を付けること。			オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好 弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

わが国では、2025年問題（団塊世代が後期高齢者となり増加する）、2040問題（団塊ジュニア世代が後期高齢者となり増加する）に向けて、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。さらに、高齢者や子どもに対する虐待、8050問題（9060問題）等のひきこもりも問題視され、高齢者だけでなく一人ひとりの地域住民に向けた地域包括ケアシステムの構築が重要とされている。そこで「地域包括ケアシステムと看護に期待される役割」とは何かについて講義する。さらに、高齢者や子ども、障害者への支援における問題点や支援体制をより具体的に把握するために様々な現場の医療や福祉従事者の生の声を聴き、今後、地域で期待されている看護師の役割・多職種連携のあり方について理解できるように講義する。

到達目標

- 地域リハビリテーションの基本知識について、思想・実践のあり方等の基本知識について述べる事が出来る。
- 高齢者や障害者が在宅生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携のあり方を述べる事が出来る。
- 看護師に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性について述べる事が出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講師自己紹介、「地域」とは何か、「地域リハビリテーション」とは何かについて考える。
第2回 AL 3	地域での自助、共助、公助等、支え合いについて考える。地域住民に対する聞き取り方法（グループワーク）
第3回	地域リハビリテーションにおける歴史・思想・実践のあり方について考える。
第4回	地域リハビリテーションの主要な概念の説明（ノーマライゼーション、ICF、ストレングス、エンパワメント、リカバリーなど）
第5回	介護保険と地域リハビリテーション（高齢者）「在宅生活の高齢者をイメージする」
第6回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 自助グループについて当事者たちの体験談に耳を傾ける
第7回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 家族会活動など当事者の家族たちの体験談に耳を傾ける
第8回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族への支援について
第9回 AL 6	地域包括支援センターにおける具体的事例による検討（高齢者）
第10回 AL 6	地域リハビリテーションにおける具体的事例による検討（身体障害者・知的障害者・発達障害者等）
第11回 AL 3	具体的事例による検討（精神障害者）「精神障害者の生活をイメージする」
第12回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 地域で活躍している医療・福祉従事者（社会福祉士など）たちの体験談に耳を傾ける
第13回 AL 6	連携とネットワークづくり、地域包括ケアシステムについて
第14回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活への支援方法と家族への支援方法
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

成績評価方法	定期試験（レポート）70％ 成果物 30％					
教科書	無し（授業の開始前に資料を配布します）					
参考文献	『地域包括ケアと地域医療連携』二木立著（勁草書房）、『障害学のリハビリテーション 障害の社会モデルその射程と限界』川越敏司他編（生活書院）、『ナース・グラフィカ 在宅看護論（1）地域療養を支えるケア』櫻井尚子他編（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	前講義の配布資料の復讐をすること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業の終了時に次回の課題を伝えます（2時間）					
フィードバックの方法	授業終了後、課題について作成し提出していただいた小レポートについては、次回の授業で要点を伝えます					
備考				オフィスアワー		授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
移植コーディネーション論	高原 史郎	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施には多くの職種が関わり、提供者・受者および家族への精神的ケアや、救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。提供現場では、家族が親しい人の死を受け止めるための精神的援助やグリーフ・ケアなど、医学的な対応だけでなく精神的な対応も求められる。この科目では様々な医学分野の講義を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解できることを目指し、講義によっては専門知識を有するスペシャリストを迎える。

到達目標

- 様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療の知識を身に付け、述べることができる。
- 臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持ち現場の対応に関する技術について把握し、述べることができる。
- 救急医療の診断・治療についての基本的な考え方を論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論 我が国の脳死移植の現状
第2回	心臓移植・肺移植
第3回	肝臓移植
第4回	腎臓移植・膵臓移植
第5回	ドナー・コーディネーターの役割
第6回	レシピエントコーディネーターの役割
第7回	臨床心理士の役割
第8回	救急医学Ⅰ
第9回	救急医学Ⅱ
第10回 AL 2	臓器移植Ⅰ
第11回	臓器移植Ⅱ
第12回	臓器移植Ⅲ
第13回	臓器移植Ⅳ
第14回	臓器移植Ⅴ
第15回	臓器移植Ⅵ

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 定期試験（レポート）30%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	レジメ、講義資料を2回予習すること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義中に行った小テストについて復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	小テストはテスト後に授業内で解説します					
備 考				オフィスアワー	Teamsにて随時受付	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・中川・西垣 北島・鷺尾・房間 國松・東尾・加藤	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について教授する。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深めることを目指す。

到達目標

- 看護研究の意義と研究方法（量的研究/実験研究・質的研究・文献研究）を理解し、説明できる。
- 適切な論文クリティークができ、看護の現場からのクリニカルクエスチョンを言語化することができる。
- 仮説を導き出しその仮説に基づき、インタビューガイドや質問項目・質問票を設計できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文のスタイル、研究の種類とその違い
第2回	研究の実施手順、研究計画書とは何か
第3回	量的研究1
第4回	量的研究2
第5回	質的研究1
第6回	質的研究2
第7回	研究倫理
第8回 AL 6	質問票設計
第9回	質問票による調査研究の実際
第10回 AL 3	文献レビュー演習
第11回 AL 3	文献レビュー演習
第12回	量的研究のクリティーク
第13回	質的研究のクリティーク
第14回 AL 3	クリティーク演習
第15回 AL 3	クリティーク演習

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子（医学書院）					
参考文献	『よくわかる看護研究の進め方・まとめ方ー量的研究のエキスパートをめざして』横山美江 編著、『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方ー看護研究のエキスパートをめざして』グレッグ美鈴他編著（医歯薬出版）					
事前学習(内容・時間)	第1回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（2時間）					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	課題提出後に、適宜全体で講評します					
備考	講義中のスマートフォンの使用・私語は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究 (看護の統合)	看護学部 専任教員	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

4年間の学習を振り返り広い視野を持ちながら、自己の看護における関心や課題となるテーマを抽出し文献検索・文献検討を行い、研究目的達成のための実現可能な研究計画書を作成できるように教授する。

到達目標

- 看護に関する研究テーマを設定できる。
- 文献検索・文献検討を通して批判的思考を習得することができる。
- 研究目的達成のための研究計画書を作成することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 第2回 AL 2 ～ 第30回	オリエンテーション } ゼミナール形式にて行い、「研究計画書」を作成し提出する。

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他（医学書院）					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義「看護研究の方法」を復習してください（1時間）					
事後学習(内容・時間)	将来的に、看護研究が実践可能な「研究計画書」を作成する姿勢で取り組み加筆修正を行ってください（1時間）					
フィードバックの方法	「研究計画書」の作成に関する質問や疑問に対しては随時指導します					
備考	4年間の看護教育の総仕上げの授業科目なので、主体的に行動し自己研鑽を怠らないようにしましょう			オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

IV 専門分野（臨地実習科目）

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ (対象理解)	基礎看護学 領域教員	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

実際の医療の場に赴き看護実践場面や看護の対象者の療養生活の様子を見学することにより、看護の提供の仕組みと看護の機能や役割、看護の対象者の療養生活とニーズなど、前期に座学により学習した理論と実際とを統合させて理解し、臨床判断のための基本的な気づく力と看護専門職として必要な倫理観を身につけ、キャリア発達の開始時期にある学習者としての自覚を身につけるための学びを支援する。

到達目標

- 看護の提供の仕組み、看護の機能や役割に関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 対象者の療養生活の様子、対象者のニーズに関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 看護職者としての倫理観に基づく学習姿勢と実習態度を示すことができる。
- 看護に対する興味・関心を持ち、自己の今後の課題とキャリア発達への展望を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習（1週間） 1年次 2022年8月23日（火）～8月26日（金）、9月2日（金） 2022年8月29日（月）～9月2日（金） 2022年9月5日（月）～9月9日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 大野記念病院、多根総合病院、阪和第二住吉病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	別紙課題を提示する（10時間）					
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことを論理的にまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる（8時間）					
フィードバックの方法	実習記録は適宜フィードバックし、実習のふり返りと今後の課題はデブリーフィングによりフォローする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	基礎看護学 領域教員	実習	2年次 後期	必修	2	90	KSP21401

科目の概要

基礎看護学実習Ⅱでは、臨地において対象者を受け持ち、コミュニケーションやフィジカルイグザミネーションの技術、診療記録等から情報収集・アセスメントを行い、看護上の問題を明らかにし、特に日常生活に着目し、その問題解決の思考プロセスが展開できるよう看護実践を通して指導する。

到達目標

- 情報収集から解釈・分析までのアセスメントができる。
- 看護上の問題の明確化および看護計画立案ができる。
- 看護計画の実施・評価ができる。
- 受持ち対象者との看護実践を振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅱ（2週間） 2年次 前半グループ 2023年2月20日（月）～3月3日（金） 後半グループ 2023年3月6日（月）～3月17日（金） オリエンテーション2日間別設定 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 多根総合病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院、大野記念病院、阪和第二住吉病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習開始前は、既習学習の知識の振り返りと援助技術の習得。実習中は毎日、受持ち患者に必要な知識と技術の学習（40時間）					
事後学習(内容・時間)	実践した看護のまとめと自己の課題を明確にする（8時間）					
フィードバックの方法	実習記録は、毎日指導する。全体関連図は、実習中のカンファレンスでディスカッションし修正をする。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し、指導する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	成人看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

急性または救急疾患あるいは手術を受ける成人期の患者に対し、治療による心身への侵襲に伴う変化と回復過程をふまえ、急性期から回復期における全人的な看護援助（回復促進のための看護、患者およびその家族の社会生活への復帰に向けた看護）が展開できるよう指導する。

到達目標

- 患者や家族を総合的に理解し、急性または救急疾患の患者あるいは手術を受ける患者が心身を整えるための援助を実施できる。
- 急性または救急疾患や手術等の侵襲に対する生体反応を踏まえ、回復促進に向けた援助を科学的根拠のもとで実施できる。
- 身体機能やボディイメージの変化を踏まえ、患者およびその家族が社会生活へ復帰するための援助を実施できる。
- 急性期から回復期における看護の役割や継続について説明できる。
- 看護実践を振り返り、自己の看護観について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅰ（3週間） 3年次 後期 4年次 前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 尼崎総合医療センター、星ヶ丘医療センター、北野病院、多根総合病院、神戸マリナーズ病院、ベリタス病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳの講義および演習内容を復習し、成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること（3時間）					
事後学習(内容・時間)	実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること（3時間）					
フィードバックの方法	実習記録にコメントを入れて返却します					
備考	急性期は展開が早いいため主体的に課題解決し、チーム医療の一員として実習に臨むこと。基礎看護学実習で学習したことや看護技術を復習しておくこと			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	成人看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

生活習慣病をベースとする慢性疾患患者は、療養を継続しながら生活を維持していくため“自己コントロール”を行う必要がある。生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助およびQOLの維持・向上を目指した看護を実践できるように指導する。

到達目標

- 慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる。
- 患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる。
- 患者の療養生活継続への援助を説明できる。
- 看護実践を通して、慢性期看護について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅱ（3週間） 3年次 後期 4年次 前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 利根山医療センター、星ヶ丘医療センター、大阪暁明館病院、北野病院、大和病院、神戸マリナーズ病院、ベリタス病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義および演習内容を復習し、翌日の看護に関する学習を行うこと（3時間）					
事後学習(内容・時間)	毎日、実習を振り返り実施した看護の評価を行うこと（3時間）					
フィードバックの方法	記録用紙にコメントして、返却する					
備考	主体的に取り組み、看護とは何かを中範囲理論を用いて考えながら課題解決し、チーム医療の一員として実習する			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	老年看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

元気な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、日常生活の過ごし方や家族や社会とのつながりなどを知ることにより高齢者の多様性について理解するとともに、様々な療養場所での生活援助を通して高齢者を総合的にアセスメントし健康障害のレベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができるように教授する。

到達目標

- 元気な高齢者が地域でどのような生活や活動をしているのかを説明することができる。
- 高齢者への看護援助を通して、高齢者の多様性を理解し自立・自律を尊重した個別性のある看護過程の展開を実践することができる。
- 家族を含む他職種の役割を理解し、看護職に期待される役割と連携の仕方を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 老年看護学実習（4 習慣） 3 年次 後期 4 年次 前期 ○実習施設：下記の 1 と 2 のいずれかを組み合わせて行う。（実習施設の法人名は省略） 1. フィールド実習：大阪市内高齢者施設、ATCエイジレスセンター 2. 施設実習：介護老人保健施設 （ポート愛ランド。老健、ポート愛ランド。老健ムーチョ、摂津老健ひかり他） その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 老年看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習前に事前課題を出します（10時間）					
事後学習(内容・時間)	実習を振り返り自己の課題を見つけ取り組んでください（適宜）					
フィードバックの方法	記録物にコメントを入れるとともに、その都度口頭にて指導を行います					
備考	看護過程の展開方法を復習するとともに事前課題をしっかりと勉強し実習に臨んでください			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	松尾ひとみ 西村 郁香	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

セルフケアの観点から子どもの成長・発達段階、健康段階に適した、子どもと家族を尊重したケアを実践できるよう指導する。

到達目標

- 健康なこどもの成長・発達と生活習慣の獲得過程を理解し、こどもを尊重し、こどもが健康に育つための関わり（集団にむけての関わり・個別性のある関わり）について説明できる。
- 健康な子どもと病気をもつ子どもを比較し、子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程に、疾病・治療・入院・家族関係がどのように影響しているか説明できる。
- 子どもと家族の目線に添ったケアを行い、その根拠を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 1. 保育園・幼稚園実習（1週間） 3年次 2. 小児病棟実習（1週間） 3年次 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 1. 保育園・幼稚園実習：ひかり保育園、平和幼稚園、大阪教育大学附属幼稚園 2. 小児病棟実習：東大阪市立医療センター、旭こども病院、北野病院、伊丹病院、 県立尼ヶ崎医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 小児看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 小児看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	小児の成長発達の一覧表の修正と、事前学習の課題（10時間）					
事後学習(内容・時間)	出された課題について学習する（5時間）					
フィードバックの方法	実習のカンファレンスやまとめで、適宜個別指導する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	鷲尾 弘枝 東尾 公子 園田 希	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

病院施設や助産所等を実習施設として、周産期の母児に対する看護の実際を実習講義する。具体的には、周産期の母子と家族への看護実践活動から、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、新生児および家族への支援に必要な能力を養うとともに、セルフケアの視点に基づいて看護展開が行えるように教授する。

到達目標

- 周産期の母子およびそのパートナーや家族に対する看護過程の展開および実施した看護実践を評価できる。
- マタニティサイクル期の女性の健康問題を理解し、援助法を考え、説明することができる。
- 生命誕生、親としての存在について考えを深めるとともに、ディスカッション及び記述することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 母性看護学実習（2週間） 3年次 後期 4年次 前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 芦屋・小野レディースクリニック、尼崎総合医療センター、大阪府助産師会、 大阪母子医療センター北野病院、済生会茨木病院、吹田徳州会病院、第二協立病院、 ベルランド病院、八尾市立病院、洛和会音羽病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 母性看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 母性看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習に際する事前学習（夏休み課題や既習科目の復習 1日2時間程度が望ましい）					
事後学習(内容・時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開（1日2時間程度が望ましい）					
フィードバックの方法	夏休み実習前学習はチェックリストをつけて到達度を自他で確認できるように設定します。実習中は適時、看護過程記録の相談を受け指導を行います					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	西垣 里志	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害をもつ人とかかわりを通して、その人の抱えている問題をセルフケアの側面からとらえながらその人のもつ力をケアに生かすことを指導する。また実習を通して自己を振り返り人間対人間のかかわりを教授する。

到達目標

- 心に病を持つ人とかかわりを通して、心の健康と病気についての知識を融合し説明できる。
- セルフケアレベルを把握し、心の病を持つ人の人間性やもっている力を大切に援助をすることができる。
- リハビリテーション看護や精神保健福祉医療における看護の役割や意味を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 精神看護学実習（2週間） 3年次 後期 4年次 前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。 1. 病院実習：有馬病院、八尾こころのホスピタル、オレンジホスピタル 他 2. 地域精神保健医療施設実習：やすらぎの苑、KITA作業所、訪問看護ステーション その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 精神看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 精神看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時に指示された事前課題をおこなう（6時間程度）					
事後学習(内容・時間)	受け持ち患者の理解のために、随時課題に取り組む（1日2時間程度）					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却し、実習期間中は随時指導をおこなう					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	在宅看護論 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を教授する。また、在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が分かり、他職種との連携・協働について理解できるよう指導する。

到達目標

- 家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を説明できる。
- 在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が説明できる。
- 在宅療養を支える他職種との連携・協働の実際について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 1. 在宅看護実習（2週間） 3年次 後期 4年次 前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 1. 訪問看護ステーション実習：多根訪問看護ステーション、つばい訪問看護ステーション、 阪和訪問看護ステーション 他 2. 居宅介護支援事業所実習：暁ケアプランセンター、多根総合病院居宅介護支援事業所 他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 在宅看護論実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度後期～2023年度前期 在宅看護論実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時指示のあった事前課題の作成を行う（10時間）					
事後学習（内容・時間）	臨地実習開始に伴い実習内容により随時課題に取り組む（1日1時間）					
フィードバックの方法	実習中、臨地にて改題指導を行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護系教員	実習	4年次 前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

既習の知識・技術を統合して複数の対象への看護を実践するとともに、医療機関における看護管理の実際を見学し、医療チームの一員として、安全で質の高い看護サービスを提供するための実践的能力を養うための指導を行う。加えて、それらを通して看護専門職としての自己の課題を明らかにできるように指導する。

到達目標

- 複数の対象者の状態を把握し、適切な看護援助ができる。
- 看護組織における管理について述べることができる。
- 看護実践の振り返りを通して、自己の課題を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 総合実習（2週間） 4年次 2022年7月4日（月）～8月12日（金） その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 総合実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 総合実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、「看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）」で学んだ内容を復習する。事前課題（6時間）					
事後学習(内容・時間)	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明らかにする（2時間）					
フィードバックの方法	実習記録のコメントは実習中にフィードバックする					
備 考	看護学科における最終の看護学実習である。これまでに学んだ看護専門分野の内容を総括し、看護の本質を考えながら実習に臨むこと。また、次年度には自分自身が臨床の場にいることを想定し、臨床の場で看護師として具体的にどのような思考・言動をとるべきかを考えながら実習すること			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

助産学専攻科

2022年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

助産学専攻科

助産学専攻科の教育方針	174
シラバスについて	176
2022年度 学年暦	177
修了要件	178
教育課程	179
実務家教員一覧	180
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例	181
Ⅰ 基礎助産学	183
Ⅱ 助産診断・技術学	187
Ⅲ 地域母子保健論	193
Ⅳ 助産管理	195
Ⅴ 助産学実習	197
Ⅵ 助産学実践関連	201

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

下記の能力を備えた受験生を、一般入試選抜試験を通して入学させる。

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人。
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人。
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人。
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持った人。

「教育編成・実施方針」（カリキュラムポリシー）

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

〈助産学基礎領域〉

1. ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
2. マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び
3. 専門職としての責務と倫理の学び

〈助産学関連領域〉

1. 都市型の健康問題・社会問題について、地域に根ざした助産師としての取り組みができる「アーバンヘルス」の学び

2. 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び
3. アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び
〈助産学実践領域〉
1. 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
2. リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
3. 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

宝塚大学は、豊かな感性と深い理解力、高い実践能力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践能力を修得し、専門職者として以下の能力が認められることとする。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力。
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力。
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。

「StudentGuide Book 2022」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2022年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2022(令和4)年度 学年暦

宝塚大学 助産学専攻科
【大阪梅田キャンパス】

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
2022年4月						1	2	4/1～6 新入生ガイダンス期間 4/2 入学式 4/5 前期履修届提出締切日 4/7 前期授業開始 4/14～4/15 履修登録修正期間	10月							1	
	3	4	5	6	7	8	9			2	3	4	5	6	7	8	
	10	11	12	13	14	15	16			9	10	11	12	13	14	15	
	17	18	19	20	21	22	23			16	17	18	19	20	21	22	
	24	25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29	
										30	31						
5月	1	(2)	3	4	5	6	7	5/2 5/23の創立記念日の振替	11月			1	2	3	4	5	
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	27	28	5/23 創立記念日		20	21	22	23	24	25	26	
	29	30	31							27	28	29	30				11/28～12/9地域母子保健実習
6月				1	2	3	4		12月					1	2	3	
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25	6/24～6/29前期定期試験		18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30					25	26	27	(28)	(29)	(30)	(31)	年末年始休業 (12/28～1/5)
	30																
7月						1	2		2023年1月	1	(2)	(3)	(4)	(5)	6	7	
	3	4	5	6	7	8	9	助産学実習Ⅱ (7/4～1/27)		8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16	助産学実習Ⅰ・Ⅲ (7/11～12/23)		15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30	31					
	31																
8月		1	2	3	4	5	6		2月				1	2	3	4	
	7	8	9	10	11	(12)	(13)	夏季休業 (8/11～16) : 助産学実習継続		5	6	7	8	9	10	11	
	14	(15)	(16)	17	18	19	20			12	13	14	15	16	17	18	助産師国家試験
	21	22	23	24	25	26	27			19	20	21	22	23	24	25	
	28	29	30	31						26	27	28					
9月					1	2	3		3月				1	2	3	4	
	4	5	6	7	8	9	10			5	6	7	8	9	10	11	3/11 学位記授与式(予定)
	11	12	13	14	15	16	17	9/17～19 宝翔祭期間(予定) うち1日宝翔祭(予定)		12	13	14	15	16	17	18	
	18	19	20	21	22	23	24			19	20	21	22	23	24	25	
	25	26	27	28	29	30				26	27	28	29	30	31		

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

	... 授業日	印	... 祝日(平常授業実施日)
	... 定期試験	印	... 日曜・祝日(休業日)
		()	... 大学施設閉館日

修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科		
基礎助産学	6単位	
助産診断技術学	10単位	
地域母子保健論	2単位	
助産管理	2単位	
助産学実習	12単位	
助産学実践関連	4単位	以上
計	36単位	以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルス特論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号（連番）
JSP=専門分野	1=1年次レベル	1=必修 2=選択必修	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
	+	+	+
			01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他（上記1～5に当てはまらないアクティブラーニング）

教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態Ⅰ	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態Ⅱ	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1 前期	1		15	必修10単位
	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1 前期	2		15	
	助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	2		30	
地域母子保健論	地域母子保健論	JSP11105	1 前期	2		15	必修2単位
助産管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	必修2単位
助産学実習	助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーンケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							36単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

実務家教員一覧

担当講師名	専任／ 非常勤	2022授業科目	科目ナンバー	配当 年次	必修	単位数	時間 数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
南田 智子	専任	助産学概論	JSP11101	1前期	必修	1	30	総合病院では助産師としての臨床経験や、地域母子保健活動では母子訪問や養育支援訪問の経験がある。また看護師としては、看護部長として安全管理ならびに感染管理をマネジメントしてきた経験がある。	複雑化する母子や家族をどのようにとらえて支援していくのか。実務経験を活かして健康の社会決定要因を踏まえたアセスメントや支援のあり方を教授する。
		助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1前期	必修	2	30		
		助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	必修	2	30		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	2	60		
		助産管理学	JSP11106	1後期	必修	2	30		
		助産学研究	JSP11107	1後期	必修	1	30		
小神野 雅子	専任	助産学概論	JSP11101	1前期	必修	1	30	総合病院で助産師としての臨床経験、病棟係長の経験がある。また健康福祉センターの地域母子保健担当保健師の経験がある。	臨床での実務経験を活かし、講義科目では臨床症例を紹介しながら実践的な講義を行う。演習科目では経験知を交えて、臨床判断や実践的な援助技術について教授する。
		助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	2	60		
		助産管理学	JSP11106	1後期	必修	2	30		
		アートとグリーフケア	JSP12201	1後期	必修	1	15		
		アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1後期	選択	1	30		
		アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1後期	選択	1	30		
中尾 幹子	専任	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	必修	2	30	総合病院で助産師として臨床経験および地域での母子訪問活動経験がある。	臨床や地域母子保健活動での実務経験を活かしながら、最新のデータや法制度についても提示し教授する。
		助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	2	60		
		地域母子保健論	JSP11105	1前期	必修	2	30		

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2022年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。

- I. 基礎助産学
- II. 助産診断・技術学
- III. 地域母子保健論
- IV. 助産管理
- V. 助産学実習
- VI. 助産学実践関連

2. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎助産学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	南田 智子 小神野雅子	講義	1年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を概説し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について教授する。助産の変遷や国際比較、女性の社会問題や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養うことを目的とする。

到達目標

- 助産の基本概念、意義を理解し、説明できる。
- 助産の変遷や助産師教育について学び、今後の助産、助産師教育の課題を考えることができる。
- 女性を取り巻く社会問題、健康問題について広い視野を持ち考えることができる。
- 助産師としての職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第2回	助産の変遷② 助産の将来
第3回	助産の文化的側面：産育風俗
第4回	助産師の専門性と責任
第5回	助産師教育の変遷（日本と諸外国）
第6回	女性の健康と人権
第7回	女性の貧困
第8回	倫理的に考えると
第9回	生殖補助医療をめぐる倫理① 不妊とはどういう問題なのか
第10回	生殖補助医療をめぐる倫理② 高度生殖補助医療をめぐる
第11回	妊娠中絶をめぐる
第12回	出生前診断が投げかける問い
第13回	さまざまなジェンダー現象
第14回	ワークライフバランスを実現するために
第15回	私の助産観

成績評価方法	定期試験（レポート）80％ 成果物 20％		
教科書	『助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論』我部山キヨ子、武谷雄二編（医学書院）		
参考文献	適宜、提示します		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習すること。（1時間）		
フィードバックの方法	講義内でのプレゼンテーションにはコメントを返します。質問などには、講義内で対応します。		
備考	助産の概念や生命倫理、女性の社会問題などについて学び助産師としての基本的な姿勢を培います。専門職者としての意識をもち、授業に臨みましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態 I	藤田圭以子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントするための基礎知識を教授する。助産師として正常な妊産婦、新生児の経過診断ができるよう、臨床での具体的な事例や検査データなどを示しながら講義する。

到達目標

- 妊娠期の母体と胎児の生理的変化を理解し、説明できる。
- 分娩の3要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的変化を理解し説明できる。
- 産褥婦と新生児の生理的変化を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の生理と病態①
第2回	妊娠期の生理と病態②
第3回	妊娠期の生理と病態③
第4回	妊娠期の生理と病態④
第5回	分娩期の生理と病態①
第6回	分娩期の生理と病態②
第7回	分娩期の生理と病態③
第8回	分娩期の生理と病態④
第9回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回 AL 3	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

成績評価方法	定期試験（筆記）100%		
教科書	『最新産科学 正常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえるvol.10 産科（第3版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子編（医学書院）、『助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義資料を見直して、復習すること（2時間）		
フィードバックの方法	質問などには講義内に対応します。試験結果は閲覧可能です。間違ったところは見直しをしてください。		
備考	助産実践の基礎となる病態生理です。しっかり取り組みましょう。	オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

助産師として自ら母体や胎児をアセスメントし、ケアを行うために必要な知識、すなわち、妊娠期・分娩期・産褥期における母体と胎児の異常な経過と分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症について、その概要、診断法、治療法についての産婦人科診療ガイドラインを中心とした最新の医学的根拠や講師の臨床経験を織り交ぜて講義する。

到達目標

- 妊娠期の異常とハイリスク妊娠について説明できる。
- 分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応を説明できる。
- 産褥期ならびに新生児期の異常について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の異常①
第2回	妊娠期の異常②
第3回	妊娠期の異常③
第4回	妊娠期の異常④
第5回	分娩期の異常①
第6回	分娩期の異常②
第7回	分娩期の異常③
第8回	分娩期の異常④
第9回	産褥期の異常①
第10回	産褥期の異常②
第11回 AL 2	産褥期の異常③／意見交換
第12回	無痛分娩の基礎
第13回	無痛分娩の管理
第14回	産褥期の栄養
第15回	ハイリスク新生児の生理と病態

成績評価方法	定期試験（筆記）100%		
教科書	『最新産科学 正常編』『最新産科学 異常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえるvol.10 産科（第3版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学』我部山キヨ子編（医学書院）、『助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）、『産婦人科診療ガイドライン産科編2020』（日本産科婦人科学会）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当ページを読んでくること（2時間）		
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること（2時間）		
フィードバックの方法	質問事項については、授業内で解説します。講義中に、基礎知識の振り返りや忌憚のない意見を求めて、質問することがあります。		
備考			オフィスアワー 講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	管生 聖子	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

母親へのケアを行う上で、その心理社会的状況への視点は必須である。本講義では、それらの知識・理解を深めるため母子や家族の心理社会的課題とサポートの具体的方法を説明する。心理的支援について基礎的技術を含め事例を通して教授する。

到達目標

- 母子の心理社会的支援の基本と方法を理解、実践できる。
- カウンセリングの基礎的技術について理解、実践できる。
- 周産期における心理的サポートが必要な対象に対する相談について理解を深め、相談業務を行うことが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ライフサイクルと心理・社会的課題
第2回 AL 3	妊娠・出産をめぐる心理・社会的課題
第3回 AL 2	妊娠・出産後のメンタルヘルス
第4回	親子関係の形成と課題
第5回	家族と社会
第6回	心理的支援の基本的態度
第7回 AL 3	事例を踏まえたロールプレイ 1 育児不安や産後うつ疑いのケース等
第8回 AL 3	事例を踏まえたロールプレイ 2 DV・虐待疑いのあるケース等

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ 成果物（講義内での小レポート含む）40％		
教科書	『助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学』我部山キヨ子・菅原ますみ編（医学書院）		
参考文献	講義内で適宜紹介する		
事前学習（内容・時間）	日ごろから、親子の心理・社会学に関する情報に注意を向け、自身の考えを巡らせておくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	学習した内容について、自身の考えや価値観を改めて理解し深めておくこと（2時間）		
フィードバックの方法	講義内でいくつかを取り上げ必要に応じてフィードバックを行う		
備 考			オフィスアワー 出講日の授業前後、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

Ⅱ 助産診断・技術学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

助産診断、マタニティ診断について教授する。本科目は、妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を学ぶことにより、妊娠期の助産診断が出来る能力を養うことが目的である。また、妊婦への身体的ケア、心理的ケアの具体的な方法を教授する。科目内での講義をもとに、妊娠期の事例を展開し、助産診断、助産計画の実際が理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊婦の身体・心理・社会的状態について診断し、必要な援助の助産計画を立案できる。
- 妊婦と家族への支援内容や援助技術について説明できる。
- 妊娠期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個別性に応じた支援を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産診断とマタニティ診断
第2回	妊娠期の助産診断
第3回	妊娠期の援助技術
第4回 AL 2	妊娠初期の助産診断
第5回 AL 2	妊娠初期の助産計画
第6回 AL 2	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回 AL 2	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％		
教科書	『助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）、『助産学講座 6 助産診断技術学Ⅱ[1]妊娠期』我部山キヨ子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断実践研究会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（第4版）』北川眞理子編（南江堂）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習し提示された課題に取り組むこと（2時間）		
フィードバックの方法	妊娠各期の助産過程は各自で記述した内容にコメントを返します		
備考	事例を用いて、妊娠期の助産過程を展開します。実習に直結する内容です。気を引き締めて取り組みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	南田 智子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

分娩期における助産診断に必要な基礎知識を修得するために、分娩経過における助産診断に必要な基礎知識、評価表、観察法、ならびに分娩経過に伴う妊婦および胎児の健康水準診断を教授する。

到達目標

- 分娩各期の助産診断、異常分娩時の助産診断の思考を取得できる。
- 分娩各期および異常分娩時の助産計画が立案できる。
- 産婦と家族への支援内容や援助方法について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産師が行う分娩期のケア
第2回	分娩経過の診断に必要な知識
第3回	分娩経過の診断・アセスメントの視点
第4回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第5回	分娩期の異常とそのケア
第6回	分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防
第7回	分娩期の異常とそのケア 産科手術の介助とケア
第8回	胎児心拍数モニタリング
第9回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第10回 AL 2	正常分娩の助産診断・計画 ①
第11回 AL 2	正常分娩の助産診断・計画 ②
第12回 AL 2	異常分娩の助産診断・計画 ①
第13回 AL 2	異常分娩の助産診断・計画 ②
第14回 AL 2	助産診断・計画発表 ①
第15回 AL 2	助産診断・計画発表 ②

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％		
教科書	『助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	病気がみえる10 産科（メディックメディア）、今日の助産（第4版）北川眞理子編（南江堂）、産婦人科診療ガイドライン産科編2020（日本産婦人科学会）、エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期2020（日本助産学会）、助産業務ガイドライン2019（日本助産師会）		
事前学習（内容・時間）	母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習し、参考書等の事例から看護過程の展開を1例行っておく。教科書の該当箇所を読んでおく（3時間）。		
事後学習（内容・時間）	既習の講義内容については復習し、課題に取り組む（2時間）		
フィードバックの方法	授業はじめに毎回小テストを実施し、学習の確認を行う		
備考	授業には積極的に参加し、活発な発言を期待します	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子 南田 智子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11203

科目の概要

褥婦の生理とフィジカルアセスメントの視点から、産褥期とその後の産後期における助産診断および助産計画立案の思考過程を講義する。また、セルフケア能力に応じた支援および逸脱への予防的支援、母乳育児のための支援、親役割獲得や家庭・社会生活復帰のための支援などの具体的な方法を教授する。

到達目標

- 助産診断の視点に沿って情報収集・情報分類を行い、情報を解釈・分析してアセスメントできる。
- 事例課題について逸脱への予防的支援、親役割獲得のための支援、家庭・社会生活復帰のための支援を立案できる。
- 産褥期・産後期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援および異常発生時の対応について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	産褥期のフィジカルアセスメント
第2回	産褥期のセルフケア能力に応じた支援
第3回	母乳育児のための支援①
第4回	母乳育児のための支援②
第5回	産褥期の異常とその支援
第6回	親役割獲得のための支援
第7回	家庭・社会生活復帰のための支援
第8回 AL 2	産褥早期の助産診断
第9回 AL 2	産褥早期の助産計画
第10回 AL 2	退院から産後1か月までの助産診断・助産計画
第11回 AL 2	産後期の助産診断・助産計画
第12回	心理社会的ハイリスクと産後ケア
第13回	障害児を生み育てる家族への支援
第14回 AL 2	ハイリスク状態にある事例での助産過程の展開
第15回 AL 2	ペリネイタルロス事例での助産過程の展開

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断実践学会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（改訂第4版）』北川眞理子編（南江堂）、『母乳育児学』水野克己著（南山堂）、『母乳育児スタンダード第2版』NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編（医学書院）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所をよく読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと（2時間）		
フィードバックの方法	助産過程は各自で記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	助産実践に直結する内容です。積極的に学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅳ	中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の適応過程・生理的変化とフィジカルアセスメントの視点から、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の思考過程を講義する。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、罹患しやすい疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関する具体的内容とその方法を教授する。

到達目標

- 新生児期・乳幼児期の身体的・心理的・社会的状態についてアセスメントをし、助産診断および助産計画立案ができる。
- 母児一貫したケアの重要性を認識し、正常からの逸脱予防のための支援方法を述べることができる。
- 新生児・乳幼児にかかわる際の倫理的な態度、留意点を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新生児・乳幼児ケアの基本と新生児の適応過程
第2回	新生児のフィジカルアセスメント
第3回	出生直後・出生後24時間以内のアセスメントとケア
第4回	早期新生児のアセスメントとケア
第5回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画①
第6回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画②
第7回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画③
第8回	乳幼児期のアセスメントとケア

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期』石井邦子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断実践研究会（医学書院）、『新生児学入門第5版』仁志田博司著（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（改訂第4版）』北川眞理子編（南江堂）		
事前学習（内容・時間）	該当する教科書の内容をよく読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと（2時間）		
フィードバックの方法	助産過程は各自が記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	実習に直結する内容です。積極的に学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	南田・小神野 中尾	演習	1年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産妊産褥婦、新生児の助産診断に必要な診断技術を習得する。
妊産褥婦、新生児への援助技術について学び、実践できる。
安全、安楽な分娩介助技術を修得する。

到達目標

- 妊産褥婦、新生児の助産診断に必要な診断技術を習得する。
- 妊産褥婦、新生児への援助技術について学び、実践できる。
- 安全、安楽な分娩介助技術を習得する。
- 母体急変時の対応、新生児蘇生法に必要な知識、技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊婦の健康診査
第2回	妊婦の診断技術：レオポルド触診法、ザイツ法、骨盤外計測
第3回	妊婦の援助技術：妊婦体操、腹帯装着
第4回	産婦の援助技術：内診、CTG装着、骨盤ベルト装着
第5回	産婦の診断技術：産後の観察、退行性変化の観察
第6回	分娩介助技術①：分娩介助、胎盤計測
第7回	分娩介助技術②：分娩介助、胎盤計測
第8回	分娩介助技術③：分娩介助、胎盤計測
第9回	産婦の援助技術①：分娩促進法
第10回	産婦の援助技術②：分娩促進法
第11回	産婦の援助技術③：アロマの活用①
第12回	産婦の援助技術④：アロマの活用②
第13回	新生児の診断技術：出生直後の観察、身体計測
第14回	分娩介助技術④：会陰縫合
第15回	急変時の対応：BLS
第16回	急変時の対応：BLS
第17回	新生児蘇生法①
第18回	新生児蘇生法②
第19回	新生児蘇生法③
第20回	新生児蘇生法④
第21回	超音波診断法①：基本操作
第22回	超音波診断法②：基本操作・計測
第23回	超音波診断法③：胎児ドック見学
第24回	分娩介助技術⑤
第25回	分娩介助技術⑥
第26回	分娩介助技術チェック
第27回	分娩介助技術チェック
第28回	分娩介助技術チェック
第29回	分娩介助技術チェック
第30回	分娩介助技術チェック

成績評価方法	定期試験（実技）70% 小テスト 30%		
教科書	『助産学講座6・7・8』（医学書院）、『母乳育児支援スタンダード（第2版）』NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（医学書院）、『新生児蘇生法テキスト』細野茂春監修（メジカルビュー社）		
参考文献	『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子（医学書院）他、適宜提示します		
事前学習（内容・時間）	既習の基礎看護技術を各自復習しておくこと。事前配布資料を読んでおくこと（1時間）		
事後学習（内容・時間）	各診断技術、援助技術、分娩介助技術などは繰り返し練習して身に付けること（1時間）		
フィードバックの方法	技術演習の際は、講義内で適宜、評価コメントを返します		
備考	診断技術、援助技術は実習に直結する内容です。繰り返し練習して身に付けましょう。分娩介助実技テストの合格は実習参加の要件となります。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	南田・小神野 中尾	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康問題と援助の必要性について教授する。健康教育の在り方および必要性について解説し、思春期教育、妊娠期の保健指導、両親学級について計画から実施までを行えるよう指導する。また、産後から乳児期までの助産診断、援助技術について学び、継続した母子支援を実践する基礎力を養う。

到達目標

- ライフサイクル各期における女性の健康問題と援助について説明できる。
- 健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
- 産後、乳児期の診断と母子支援について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第2回	妊娠期の保健指導
第3回 AL 3	両親学級
第4回 AL 3	妊娠各期の保健指導案の作成①
第5回	妊娠各期の保健指導案の作成②
第6回 AL 3	産褥期の保健指導：母児同室、沐浴指導、退院指導
第7回 AL 3	産褥期の保健指導案の作成①
第8回	産褥期の保健指導案の作成②
第9回	産後健康診査と保健指導：2週間健診、1か月健診
第10回	3, 4か月健診のアセスメントと保健指導
第11回	乳児期の成長発達とアセスメント、母親支援
第12回	女性の健康問題と援助＜思春期の健康問題＞
第13回	思春期教育
第14回	女性の健康問題と援助＜成熟期の健康問題＞
第15回	女性の健康問題と援助＜不妊と生殖補助医療＞
第16回	家族計画指導について
第17回	受胎調節に必要な知識と技術
第18回 AL 3	家族計画保健指導案の作成①
第19回 AL 3	家族計画保健指導案の作成②
第20回	女性の健康問題と援助＜更年期、老年期の健康問題＞
第21回 AL 5	栄養指導実習①
第22回 AL 5	栄養指導実習②
第23回 AL 4	保健指導の実践：ロールプレイ
第24回 AL 4	保健指導の実践：ロールプレイ
第25回 AL 3	健康教育の企画①
第26回 AL 3	健康教育の企画②
第27回 AL 3	健康教育の企画③
第28回 AL 3	健康教育の企画④
第29回 AL 5	健康教育の実践①
第30回 AL 5	健康教育の実践②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）		
参考文献	適宜、提示する		
事前学習（内容・時間）	事前配布の資料及び教科書の該当箇所を読んでおくこと。（1時間）		
事後学習（内容・時間）	各自、担当の保健指導案、媒体の作成。（2時間）		
フィードバックの方法	保健指導案は随時担当教員が確認し、コメントを返します		
備考	実習の際に行う保健指導の基になる指導案と媒体です。各自で作成し、実習に備えましょう。個別指導のロールプレイや集団指導の実際を行います。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

Ⅲ 地 域 母 子 保 健 論

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	中尾 幹子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11105

科目の概要

地域社会で生活する母親・子ども・父親や家族が置かれている社会的背景や現状、統計的水準、法制度および母子保健の課題について講義する。また、子どもの成長・発達に応じた母子や家族への支援および地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について教授する。

到達目標

- 母子保健に関する統計資料を分析し、母子保健の現状と動向を考察し説明できる。
- 母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子と家族への支援システムについて説明できる。
- 地域で生活する母子と家族を支援する助産師の役割、他職種や関係機関との連携・協働について考察し述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域母子保健の概念と意義、フィールドワーク課題提示
第2回 AL 2	母子保健の現状と動向
第3回	わが国の母子保健行政と制度
第4回	わが国の母子保健施策とその基盤
第5回 AL 2	地域母子保健活動の実際①
第6回 AL 2	地域母子保健活動の実際②
第7回 AL 2	地域母子保健活動の実際③
第8回	地域組織活動と地域子育て支援活動
第9回	母子を取り巻く保健・医療・福祉関係機関との連携・協働
第10回	心理社会的ハイリスクと児童虐待
第11回	社会的養育としての母子支援活動
第12回	災害時の母子保健活動
第13回 AL 2	フィールドワークまとめ発表
第14回	国際母子保健活動①
第15回	国際母子保健活動②

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『母子保健の主なる統計 令和4年』公益社団法人母子衛生研究会		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習すること（2時間）		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。試験結果は閲覧可能です。		
備考	多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるよう、積極的に学んでいきましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

IV 助 產 管 理

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	南田 智子 小神野雅子	講義	1年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識および、産科病棟・院内助産システム・助産院など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを教授する。医療事故については具体的な事例を挙げ、リスクマネジメントのあり方についてより身近な問題として各自が考えられよう講義する。

到達目標

- 助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を述べることができる。
- 助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力について説明できる。
- 開業助産院や院内助産の開設と運営方法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス 看護管理・助産管理の基本 助産管理の概念
第2回	助産と医療経済 助産業務と関連法規 助産師の法的責任と義務
第3回	周産期の医療事故とリスクマネジメント①
第4回	周産期の医療事故とリスクマネジメント②
第5回	病院における助産業務管理過程 助産業務管理方法
第6回	病院における助産業務管理
第7回	周産期管理システム（母体搬送システム オープンシステム）
第8回	周産期管理システム（新生児集中治療室）
第9回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理
第11回	災害時の助産活動
第12回	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産院における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『助産学講座10 助産管理』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ』福井トシ子（日本看護協会出版会）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容の復習をすること（2時間）		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。定期試験の結果は閲覧可能です。間違った部分を復習してください。		
備考	助産管理と聞いても、イメージしにくいと思いますが、助産師としては理解しておくべき内容ばかりです。楽しく管理を学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	△

V 助 産 学 実 習

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅰ	南田・小神野 中尾	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導する。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際の見学を通し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- 妊娠各期の対象に必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- 病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務管理について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅰ（2週間） 2022年7月4日（月）～11月11日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。 大阪暁明館病院 関西労災病院 国立循環器病研究センター 第二協立病院 サンタクルス梅田 他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習する（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	学内演習の成果を発揮して、保健指導を実施しましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	南田・小神野 中尾	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期にある女性とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導します。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行います。分娩直接介助・間接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得できるよう指導します。

到達目標

- 分娩期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
- 産婦、新生児への身体的及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。(分娩介助を含む)
- 分娩経過中の胎児の健康状態を判断し必要な援助を実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ（6～9週間） 2022年7月4日（月）～2023年1月27日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 伊丹市立病院・大阪暁明館病院・大阪南医療センター 関西労災病院・第二協立病院・八尾市立病院 他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	必要な援助技術について練習すること（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	長期間および不規則な実習形態になります。体調管理をして臨んでください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	南田・小神野 中尾	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1名の対象者を妊娠中から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産褥1か月健診等を通して、アセスメントできるよう指導すると共に、対象者の個性性を考慮した継続的な支援を行えるよう導く。

到達目標

- 妊娠期から産褥・新生児期(乳児期)までを継続して受け持ち助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を修得する。
- 受け持ち妊産褥婦と家族に必要な保健指導を実施できる。
- 継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を説明できる。
- 受け持ち母子の人権を尊重し、擁護できる。
- 継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、自身の助産師観を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ（8週間） 2022年7月11日（月）～12月23日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 大阪暁明館病院・国立循環器病研究センター 関西労災病院・第二協立病院 他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習すること（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください		
備考	受け持たせていただく対象者に、より良い妊娠分娩産褥期を過ごしてもらえるように十分な事前準備をして取り組みましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	南田・小神野 中尾	実習	1年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を学ぶ実習科目である。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎を理解できるよう指導する。

到達目標

- 大阪市の各地域における母子保健上の課題について、情報収集を行い考察し、説明できる。
- 産前産後ケアセンターでの取り組みや利用者の実態を知り、包括的な母子支援について自身の考えを述べることができる。
- 助産院における助産師活動の実際を学び、地域における助産師の役割について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 地域母子保健実習（1週間） 2022年7月4日（月）～12月23日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 大阪市内保健センター 大阪府助産師会産後ケアセンター 助産院：らうらうみつどわいふりい その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2022年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義内容を復習。担当地域の情報収集をする（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ、自己評価する（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます		
備考	病院実習とは違う視点で、助産師の役割や母子保健について学べる実習です。目的を明確に持って、実習に参加しましょう。積極的に意見交換をして、学びを深められるようにしてください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

Ⅵ 助産学実践関連

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	南田 智子	講義	1年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産研究を行うための基本的能力を修得することを目的に、研究の意義や基本的研究手法を解説する。実習等で経験した事例のケーススタディや自らの着眼点から、研究計画書作成、調査、分析、考察、公表までの研究プロセスに必要な基礎的知識を教授する。

到達目標

- 研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させる。
- 研究的着眼点から研究デザインを決定し、研究計画書を作成できる。
- 研究論文を作成し、成果を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産学研究とは
第2回	助産学研究の基本的研究手法
第3回	看護研究における倫理
第4回 AL 2	文献クリティーク ①
第5回 AL 2	文献クリティーク ②
第6回 AL 5	文献検索・文献検討 ①
第7回 AL 5	文献検索・文献検討 ②
第8回	研究計画書の立案
第9回 AL 2	事例研究の分析・展開 ①
第10回 AL 2	事例研究の分析・展開 ②
第11回 AL 2	事例研究の分析・展開 ③
第12回	研究論文作成 ①
第13回	研究論文作成 ②
第14回 AL 4	研究発表 ①
第15回 AL 4	研究発表 ②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	適宜資料を配布		
参考文献	『わかりやすいケーススタディーの進め方』松本孚（照林社）、『看護における研究』南裕子（日本看護協会出版社）		
事前学習（内容・時間）	研究テーマに関連する文献検索を行い、論文を読んでおく（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義で紹介する文献を次回講義までに読み、クリティークする（1時間）		
フィードバックの方法	研究計画書ならびに研究論文作成は個別に指導を行う		
備考	積極的に研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークしてください	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	講義	1年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV/AIDSといった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

- 差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って説明できる。
- 実証研究によって示されるエビデンスやアクションリサーチなどの介入研究の取り組みの知見を通じて、考察を述べることができる。
- 都市部における健康教育の実施にあたって、研究デザイン構築のスキルを身に付けることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション
第2回 AL 2	わが国の都市部におけるHIV感染リスク行動の現状
第3回 AL 2	HIV/STI感染予防のための健康教育の実際
第4回 AL 2	性的指向・性自認・性別表現と健康課題 1
第5回 AL 2	性的指向・性自認・性別表現と健康課題 2
第6回 AL 2	子どもの虐待
第7回 AL 2	性暴力被害の現状と支援
第8回 AL 2	都市部の若者における薬物使用の現状

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 1巻』日高庸晴（汐文社）		
参考文献	適宜紹介します		
事前学習（内容・時間）	第1回イントロダクション・講義前のアナウンスに基づき、情報収集や予習をすること（2時間）		
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）		
フィードバックの方法	質問やコメントに対しては講義内でシェアし、解説します		
備考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	小神野雅子 坂下 裕子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

女性の健康問題や周産期医療に携わる助産師にとって、グリーフケアは避けては通れないものです。助産師として、対象者のグリーフに寄り添えるよう、講義内ではグリーフケアの基本的考え方、母親や家族へのグリーフケアのあり方を解説し、母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについても説明します。また、グリーフケアについて考えを深められるよう、自己の思いを言語化したり、他者の考えを聞くことを大切にしながら講義をします。

到達目標

- グリーフケアの基本的な考え方、周産期のグリーフケアについて理解できる。
- 深刻な喪失に伴う様々な反応について説明できる。
- 対象者の心の揺れに寄り添うために必要な技能について解説できる。
- 周産期喪失の現状や支援について知り、家族の悲嘆へのケア、情報提供の在り方について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産師とグリーフケア
第2回	グリーフケア概論
第3回	周産期のグリーフとグリーフケア
第4回	こどものグリーフとグリーフケア
第5回	遺族にとっての課題 ウォーデンの喪の課題から
第6回 AL 1	言語的グリーフケア グリーフカードの作成など
第7回 AL 2	非言語的グリーフケア 産着の作成など
第8回 AL 3	体験者の声と分析
第9回 AL 4	グリーフワークプログラムの実践
第10回	周産期喪失の現状と支援①
第11回	周産期喪失の現状と支援②
第12回	悲嘆へのケア：心療内科医の立場から①
第13回	悲嘆へのケア：心療内科医の立場から②
第14回	当事者支援の実際
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『家族にとってのグリーフケア 医療の現場から考える』坂下ひろこ著（彩流社）		
参考文献	適宜、提示します		
事前学習（内容・時間）	事前配布資料や教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を振り返り、自身の考えをまとめる（1時間）		
フィードバックの方法	講義時間内に質問に答えます		
備考		オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から子育て初期段階の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識と共にカウンセリングの基礎も学び、実践的な技能を教授する。科目終了時には、アタッチメントヨガforマタニティ&ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキル、技能を習得し、資格を取得することが可能となる。

到達目標

- アタッチメントヨガに必要な発達心理学の基礎を理解し、説明できる。
- アタッチメントヨガに必要なカウンセリングの基礎について述べることができる。
- アタッチメントヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント理論
第3回	マタニティ アタッチメント
第4回	ベビー アタッチメント
第5回	アタッチメントヨガ 理論
第6回 AL 3	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ①
第7回 AL 3	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ②
第8回 AL 3	カウンセリング & 対人援助
第9回 AL 3	アタッチメントヨガ 実技 ベビー①
第10回 AL 3	アタッチメントヨガ 実技 ベビー②
第11回	教室運営
第12回	ヨガ 概論
第13回 AL 3	企画作りワーク
第14回 AL 4	インストラクション演習
第15回	まとめと振り返り

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 定期試験（実技）20％		
教科書	『アタッチメント・ヨガテキスト』『アタッチメント・ヨガ概論』アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	ストレッチをして臨みましょう。前回の講義内容を復習しておきましょう（30分）。		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習、実技の自己練習をしてください（1時間）		
フィードバックの方法	質問については講義時間内に解説します		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます ヨガをして、自分の心と身体に向き合う時間を楽しんでください	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ベビーマッサージ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

アタッチメント理論について理解し、ベビーマッサージが母親と子どもの非言語的コミュニケーションツールとして母子関係の形成に相互的に役立つこと、またインストラクターの資格を取得するためのベビーマッサージの意義、効用、基本的な手技について教授する。

到達目標

- 育児に役立つ発達心理学として発達段階の特性や発達に応じたかかわり方について説明できる。
- 根拠に基づいたベビーマッサージの理論を指摘できる。
- アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント育児①
第3回	アタッチメント育児②
第4回	育児に役立つ発達心理学①
第5回	育児に役立つ発達心理学②
第6回 AL 3	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第7回	自己心理学
第8回 AL 3	コフートワーク 振り返りとワークの意義
第9回	育児現場における自己対象体験カウンセリング
第10回	ベビーマッサージ理論
第11回 AL 5	アタッチメントベビーマッサージ インストラクション①
第12回 AL 5	アタッチメントベビーマッサージ インストラクション②
第13回	インストラクション演習①
第14回	インストラクション演習②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 定期試験（実技）20%		
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサージ」テキスト アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習（内容・時間）	テキストの該当ページを読んでおくこと（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習し、実技の練習をすること（1時間）		
フィードバックの方法	インストラクションについては実施後に評価コメントをします。質問については授業内で解説を行います。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

2022年度 シラバス（授業計画）

編集・発行 宝塚大学 大学事務局 梅田事務部
〒530-0012

大阪市北区芝田一丁目13番16号

TEL 06-6376-0853

FAX 06-6373-4829

発行日 2022年4月1日

